

# 平成26年度公益財団法人よこはまユース事業報告

## I 事業概要

平成26年度は、当法人が横浜の青少年を取り巻く現状と課題を解決していくために策定した、中期的な経営方針に基づく事業展開の2年度目にあたる年でした。

当法人の経営方針に挙げた2つの重点方針並びに8つの基本方針に基づき、より効果的・効率的に事業執行ができるよう組織の見直し・改善を行い、新たな組織体制で事業に取り組みました。

### 1 重点方針と主な事業

#### (1) 地域と取組む青少年育成

地域の大人への青少年問題等の啓発講座や研修により、青少年理解や育成力の向上に取り組みました。併せて、放課後の居場所づくりを推進しました。

##### 【主な事業】

- ◆知っておきたい！子ども・若者どこでも講座（事業課）
- ◆青少年人材育成研修「青少年の居場所づくり講座」他、育成センターの講座・研修
- ◆青少年支援事業「学習マイプラン（学習支援）」他、交流センター事業

#### (2) 健全育成の方法や資源を活用した青少年の潜在的风险解消・軽減及び自立支援

「貧困の連鎖防止」を図るための日常生活訓練や学習支援、地域の活動や資源を活用した困難を抱える青少年のための体験事業プログラムの開発並びに実施、青年の孤立や悩みの軽減・解消を図るための社会に出て間もない勤労青年の仲間づくりの機会を提供しました。

##### 【主な事業】

- ◆寄り添い型支援事業「かもん未来塾」（事業課）
- ◆困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施（事業課）
- ◆困難を抱える青少年のための体験活動支援他、研修センター事業
- ◆困難を抱える青少年を支援機関につなげる研修「ユースコーディネーター養成研修」（育成センター）
- ◆体験交流事業「社会人仲間づくり事業」（交流センター）

### 2 基本方針と主な事業

#### (1) 青少年を見守る地域づくりと人材育成

青少年と顔の見える関係を持てる地域人材の育成に努めるとともに、地域の大人に見守られながら健やかに成長できる地域の育成環境の整備に取り組みました。

##### 【主な事業】

- ◆青少年の居場所の活動支援（事業課）
- ◆地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング）（事業課）

#### (2) 体験機会の提供

青少年の成長を図るため、地域や関係団体、施設等と連携して青少年に自然体験活動やボランティア活動など様々な活動の機会を提供しました。

## 【主な事業】

- ◆自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供（事業課）
- ◆活動成果交流事業他、交流センター事業
- ◆施設ボランティアの養成他、研修センター事業

### （3）青少年の居場所の支援（青少年育成センター、青少年交流センター）

横浜市青少年育成センターでは、地域で青少年育成に励む人材の育成を行い、青少年が見守られ育まれる地域づくりを推進しました。また、横浜市青少年交流センターでは、青少年の居場所づくりの中心的施設として、青少年の地域活動拠点や地区センターなど青少年にとっての身近な居場所施設との情報交換や交流を推進しました。

#### 【横浜市青少年育成センター重点目標】

地域の大人に見守られながら健やかに成長できる地域づくりを目標に、地域で青少年育成に励む地域人材の育成・支援を図る拠点（センター）として、「研修・講座事業」や「青少年育成活動に関する情報の収集・提供」などを実施しました。

##### ①利用促進事業

年間稼働率の向上に向けて、会議室や研修室、スタジオなどの利用促進を図りました。

- 「きずな★夏祭り」の企画・実施（横浜市市民局との共催）
- 新規利用者の開拓に向けたダイレクトメールによる広報活動の実施
- 新規事業参加者獲得に向けた年間事業スケジュールのHP公開
- 馬車道通信の発行

##### ②研修・講座事業

「ユースコーディネーター養成研修」をはじめとした、各研修講座事業のステップアップ、フォローアップ事業を行い、人材育成機能をさらに強化しました。

- 「青少年人材養成研修（青少年の居場所づくり講座）」の企画・実施
- 「ユースコーディネーター養成研修」の企画・実施
- スキルアップ講座（「ボランティア・マネジメント講座」「コーチング講座」）
- 「よこはまユースシンポジウム」の企画・実施
- 「馬車道カレッジ」の企画・実施

##### ③青少年育成活動に関する情報の収集・提供

ホームページや相談事業などを通じて、地域の青少年育成活動を支援しました。また、研修終了後の参加者の活動現場を訪問し、地域の青少年育成活動の動向把握や相談・情報提供などのアウトリーチ活動※を展開しました。（※外部への営業活動）

- 情報やノウハウの蓄積と発信

地域の青少年育成活動や居場所などに関する情報の収集・蓄積・発信／出張相談による相談対応と情報提供／情報提供・相談機能の周知・広報活動（ホームページ等）

- 青少年育成に関わる団体とのネットワーク

青少年育成団体やNPOを対象とした研修事業の実施並びに情報交換

##### ④横浜市青少年交流センターとの機能連携

交流センターの居場所機能を活用した事業連携を図りました。

- 「青少年に関わる大人の講座（居場所づくり講座）」での参加者の実習活動
- 相談事業での連携

## 【横浜市青少年交流センター重点目標】

青少年の居場所づくりの中心的施設として、他の青少年居場所づくりに取組む施設・団体を支援するなど、交流センターが持つ居場所・交流機能の新しい展開を目指した活動を行いました。

### ①利用促進と利便性の向上

年間稼働率の向上に向けて、広報活動を強化するとともに、利用者のニーズに柔軟に対応できるサービスの提供を行い、利用促進に努めました。

- ▶ 新規利用者獲得に向けたダイレクトメールによる広報活動の実施
- ▶ 新規事業参加者獲得に向けた年間事業スケジュールのHP公開
- ▶ Eメールによるキャンセル情報の配信および利用手続きの利便性向上
- ▶ 利用に関する相談への助言・コーディネートの実施
- ▶ 利用者アンケートによるニーズの把握と活用

### ②青少年の居場所の推進

交流センター運営で培った居場所づくりのノウハウを検証し、他の居場所づくりに取組む関係施設・団体に情報とノウハウを提供しました。また、関係施設・団体相互の情報・課題の共有およびネットワーク構築の機会を提供しました。

- ▶ 早期支援に効果を発揮する「ロビーワーク」の成果の検証
- ▶ 「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営
- ▶ 第10回「青少年の居場所づくり」全国フォーラムの開催

### ③青少年の潜在的リスクの削減

青少年の潜在的な課題や悩みを引き出し、学習や体験活動および交流を通じてリスク軽減に向けた早期支援を行いました。

- ▶ 学習マイプラン（学習支援）
- ▶ 社会人仲間づくり事業
- ▶ 青少年の表現活動場づくり事業（3階スペース活用事業）

## （4）研修センターでの体験プログラム開発、柔軟な施設利用予約や利用者サービス向上

横浜市野島青少年研修センターでは、青少年が集団宿泊体験や自然体験など様々な体験を通じて成長できるよう、体験プログラムの開発に取り組みました。また、施設利用予約やサービスの向上など利用者のニーズに柔軟に対応した運営を行うことで、施設利用者の拡大を図りました。併せて、防災安全対策を強化し、施設の安心・安全に取り組みました。

## 【横浜市野島青少年研修センター重点目標】

### ①利用促進と利便性の向上

利用者や団体の特性を考慮した柔軟な施設貸出やサービスの向上、広報戦略による施設の利用促進に取り組みました。

- ▶ 平日や閑散期の利用増進に向けた大学や企業利用の誘致活動
- ▶ 放課後キッズクラブや放課後児童クラブなど放課後事業に向けた利用促進
- ▶ 食事提供の斡旋や食材発注などのサービス向上
- ▶ 小学校体験学習などの利用促進に向けた防災対策の強化と発信
- ▶ 新規事業参加者獲得に向けた年間事業スケジュールのHP公開

## ②地域資源を活用した体験活動の充実

青少年育成に関わる多様なニーズへ対応するため、青年ボランティアや地域の人々の協力を得ながら事業を展開しました。併せて、体験活動資源や人材などの地域ネットワークづくりを行いました。

- ▶ 近隣高校や大学と協働したボランティア活動の推進
- ▶ 新規食育プログラム（調理実習メニュー）の開発
- ▶ 施設周辺の自然環境を活かした体験学習パッケージプログラムの開発
- ▶ 地元町内会や環境保全団体などを繋ぐ「野島ネットワーク会議」の開催

## (5) 放課後キッズクラブ事業等 放課後事業への取組み

すべての子どもたちを対象に、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを推進しました。

### 【主な事業】

- ◆はまっ子・キッズ交流事業（放課後事業課）
- ◆放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実（放課後事業課）
- ◆放課後3事業ボランティア研修（放課後事業課）
- ◆放課後キッズクラブ運営（放課後事業課）
- ◆放課後キッズクラブ新規運営の拡充（平成31年度に全体の約1割を目標）（放課後事業課）

## (6) 居場所、交流機能の新たな展開

青少年交流センターの機能は、青少年にとって必要な機能です。この青少年交流センターの建物は、平成27年度末までに使用できなくなることから、平成28年度以降も引き続き機能を発揮できるよう、こども青少年局と連携し方策を検討しました。

## (7) 組織・経営基盤強化（人材育成、寄附金の拡充、企業との連携等）

人材育成や寄附金の募集、企業との連携を進めることで組織や経営基盤の強化を図りました。

### 【主な事業】

- ◆第54回 爆笑！濱っ子寄席(チャリティー寄席) 収益事業（総務課）
- ◆賛助会員および一般寄附者の拡充（総務課）
- ◆平成27年 新春のつどい（総務課）
- ◆法人職員の人材育成（総務課）

## (8) 情報発信、広報・宣伝力を強化

「よこはまユースレター」「YOKOHAMA EYE'S」やホームページ等を通じて事業報告・成果を速やかに周知・広報することで、多くの市民や青少年に当法人の存在をアピールし、青少年育成活動への関心と参加を喚起しました。

併せて、本部、各施設事業についても、広報・宣伝の強化を図りました。

### 【主な事業】

- ◆法人の広報・PR（総務課）

### 3 事業の柱と公益目的事業区分

※当法人の定款に定める事業の柱と公益目的事業区分は次の通りです。

(区分ごとの事業報告はP59「事業の公益性と収益事業について」参照)

#### 【事業の柱】

- A：青少年活動を支援する事業
- B：青少年を支える人材を育成する事業
- C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

#### 【公益目的事業区分】

- あ：施設の貸与
- い：講座、セミナー、育成
- う：体験活動等
- え：相談助言
- お：調査、資料収集

#### A：青少年活動を支援する事業

##### あ：施設の貸与

この事業は、青少年育成活動を展開するための安全で効果的な場を提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

指導者・育成者による打合せ準備、実際の活動の場として施設を提供します。また、学校や普段の生活では得にくい、青少年が主体的に関われる体験活動や集団宿泊体験等の場として利用し易いよう、活動相談や情報提供による支援を行っています。

なお、施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレットやホームページに情報を掲載し幅広く周知しています。

##### 【主な事業・取組】

- 青少年の指導者・育成者の活動拠点 横浜市青少年育成センターの諸室及び物品の貸出
- 青少年の主体的な活動拠点 横浜市青少年交流センターの諸室及び物品の貸出
- 青少年の集団宿泊体験活動拠点 横浜市野島青少年研修センターの施設・設備の貸出

##### え：相談助言

この事業は、青少年と大人がともに育つ環境を醸成することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が事業に関わることにより、自らが学び育つ機会を幅広く提供するために、青少年に対する相談・助言、情報提供、コーディネート、研修講師の派遣・紹介、研修や地域活動のプランニング等、多様な支援を行っています。

##### 【主な事業・取組】

- 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座
- 青少年の居場所の活動支援
- 地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング）
- ユースサポーター事業
- 育成センター、交流センターでの日常的な相談、助言、ホームページ等を使った情報提供

- 青少年育成ネットワーク形成（はまっ子・キッズ交流事業、青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 他）

#### お：調査、資料収集

この事業は、青少年活動に活用できる資源の調査や事業効果を検証し、青少年活動プログラム開発のための基礎資料としての活用や、団体及び教育機関に提供することで青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われているNPOや企業のCSR（社会貢献）活動等と青少年育成活動や学校の体験学習等が連携することで、青少年が自ら学び育つことができる活動領域の拡大や活動機会を充実するため、市内の活動の調査、新規事業の開発を行っています。

#### 【主な事業・取組】

- 活動資源の調査
- 体験プログラムの調査研究
- 相談、助言、活動コーディネートに活用

### B：青少年を支える人材を育成する事業

#### い：講座、セミナー、育成

この事業は、青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を推進し、青少年が自ら学び育つことができる機会の充実や自立支援に関わる人材の育成を図ることで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

具体的には、社会的な課題をはじめ青少年育成活動の実践から得た課題を基に、テーマを定め必要に応じ専門機関・団体等と連携し講座・研修を実施しています。

#### 【主な事業・取組】

- 子ども・若者エンパワメントセミナー
- 放課後3事業ボランティア研修
- 青少年人材養成研修（青少年の居場所づくり講座）
- ユースコーディネーター養成研修
- スキルアップ講座
- 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム
- ボランティア・社会教育実習生の受入れ
- 青少年委員会の運営
- 青少年を支える層を拡大するための講座・研修

### C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

#### う：体験活動等

この事業は、青少年が学校や家庭では得にくい多様な体験活動に参加することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる機会として、就労体験、社会体験、自然体験、集団宿泊体験等の事業を企画・実施しています。

具体的には、お互いに協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え体験活動を実施するとともに、青少年事業の研究・調査・開発を行っています。

併せて、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つことができる機会を提供しています。

【主な事業・取組】

- 寄り添い型支援事業「かもん未来塾」
- 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供
- 困難を抱える青少年のための体験活動の実施
- 放課後キッズクラブ運営
- 交流センターの青少年支援事業、活動成果交流事業、地域交流事業、体験交流事業
- 体験プログラムの市民活動団体との協働実施
- 施設ボランティアの養成
- 体験プログラムの提供
- 地域連携事業

D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

Dの項目は、収益事業及び法人運営のための取組みです。

①寄附金募集事業

この事業は、当法人の取組みを広く市民に周知し理解を深め協力を得ることを目的として、収益事業の実施、募金箱の設置、賛助会員及び一般寄附者の拡充のための事業を行っています。

【主な事業・取組】

- 第54回 爆笑！濱っ子寄席の開催、賛助会員及び一般寄附者の拡充
- 平成27年 新春のつどい

②事務局運営

公益財団法人としての使命を果たすとともに、安定して継続的に運営できるよう、職員の育成、ガバナンスの強化を更に推進しています。

【主な事業・取組】

- 評議員会、理事会の運営、職員の研修、事業評価、情報受発信の充実（ホームページ充実等）

平成26年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

Ⅱ 平成26年度 事業体系表

施設・課	事業の柱	公益目的区分	事業名
事業課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	1 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座 2 青少年の居場所の活動支援 3 地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング) 4 ユースサポーター事業
		お 調査、資料収集	5 活動資源の調査
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	6 青少年の支援に関わる人材の育成等
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	7 寄り添い型支援事業 8 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 9 困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施
放課後事業課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	1 はまっ子・キッズ交流事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	2 放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 3 放課後3事業ボランティア研修
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	4 放課後キッズクラブ運営 5 放課後キッズクラブ新規運営の拡充
総務課	D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		1 第54回 爆笑！濱っ子寄席 【収益事業】 2 法人の広報・PR 3 賛助会員及び一般寄附者の拡充 4 平成27年 新春のつどい 5 法人職員の人材育成
青少年育成センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出 2 利用促進に向けた取り組み
		え 相談助言	3 青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 4 青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	5 青少年人材養成研修(青少年の居場所づくり講座) 6 ユースコーディネーター養成研修 7 スキルアップ講座 8 青少年を支える層を拡大するための講座・研修
青少年交流センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出 2 利用促進に向けた取り組み
		え 相談助言	3 日常的な相談、助言 4 「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会」の運営
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	5 ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 6 第10回「青少年の居場所づくり」全国フォーラム 7 青少年委員会の運営
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	8 青少年支援事業 9 活動成果交流事業 10 地域交流事業 11 体験交流事業
野島青少年研修センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 施設・設備の貸出 2 利用促進事業
		お 調査、資料収集	3 体験プログラムの調査研究
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	4 青少年指導者・育成者研修
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	5 体験プログラムの市民活動団体との協働実施 6 困難を抱える青少年のための体験活動の支援 7 施設ボランティアの養成 8 体験プログラムの提供 9 地域連携事業

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 公益目的事業 区分	課・施設別評価							次年度 方針 (※)	事業区分別総合評価コメント
	事業 課	放課後 事業課	総務 課	育成 C	交流 C	研修 C	総合		
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設 貸与			24/30 (80%) b	23/30 (77%) b	25/30 (83%) b	72/90 (80%) b	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>3施設とも稼働率を向上させ年間稼働率目標を達成した。</li> <li>青少年育成センターは、丁寧な利用対応、利用促進事業を実施し、昨年度比で2.5ポイント稼働率が向上した。</li> <li>青少年交流センターは、稼働率が昨年度比で7ポイント近く増えたが、フリースペースの利用者が減ってしまった。年度末に導入した青少年個人の利用登録制度による変化を踏まえ、新たな居場所の運営方法について検討していく必要がある。</li> <li>野島青少年研修センターは、ランドリー設置やパーベキューコンロの貸出など利用者ニーズに対応するとともに、広報に力を入れたことで新規利用団体が50件増えた。</li> </ul>
	え 相談 助言	25/30 (83%) b	18/30 (60%) c	18/30 (60%) c	19/30 (63%) c		80/120 (67%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業課:「知っておきたい!」こども・若者どこでも講座」に対する利用ニーズは高いが、「地域活動支援事業」とのすみわけが課題。/「ユースサポーター」は研修の体系化が課題。/「青少年の居場所の活動支援」は活動主体の思いに寄り添い支援を行っている。</li> <li>放課後事業課:「はまっ子キッズ交流事業」は、放課後児童育成施設策進の一助になるとともに、よこはまユースが放課後キッズクラブを運営するうえで有意義な事業である。また、他の運営法人の放課後事業を支援するという、中間支援組織としての機能を大いに発揮している。</li> <li>青少年育成センター:スタッフブログや年間事業計画、平均更新回数の増などHPの改善・充実に努めた。来館者や研修受講者に対する丁寧な対応等により、昨年度の相談数を大きく上回った。青少年に関する一次相談窓口として青少年の支援ができてきている。</li> <li>青少年交流センター:「青少年の居場所・地域活動拠点連絡会の運営」では、青少年に関わる団体や機関を集め、関係性を築くことで、中間支援組織としての機能を発揮することができた。</li> </ul>
	お 調査、 資料収集	17/30 (57%) c					16/30 (53%) c	33/60 (55%) c	②
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	15/30 (50%) c	19/30 (63%) c	24/30 (80%) b	17/30 (57%) c	16/30 (53%) c	91/150 (61%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリーズ開催の人材養成講座、スキルアップ講座とも研修体系が整理され、人材養成のどの段階の講座かの位置づけがわかりやすく、参加者の段階的・継続的な学びの場の充実を図れた。</li> <li>放課後児童育成事業従事スタッフ向けの研修は、ほとんどの講座に定員を上回る応募があり、対象者のニーズを的確に捉えた実践で活かせる内容の企画であった。</li> </ul>
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動	18/30 (60%) c	21/30 (70%) b		21/30 (70%) b	23/30 (77%) b	83/120 (69%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業課:寄り添い型支援事業は区や学校と円滑に連携がなされ、信頼と成果を得ている。受け入れ希望が多く、スタッフ補充が喫緊の課題である。/「市立高校連携事業」では、高校生たちの活躍で小中学生が興味を持って学習するなど、双方に有意義であった。</li> <li>放課後事業課:「地域連携モデル事業」については、各キッズクラブが地域の特性を把握し、独自の地域連携事業を展開する方向に切り替える必要がある。</li> <li>交流センター:「学習マイプラン」はボランティアの自発的な事業運営により、継続的かつ安定した学習支援の場が運営されており、参加した中学3年生が高校進学につながる成果をだしている。</li> <li>研修センター:新たな体験プログラムが開発されたが、職員のスキルアップや安全の確保、ボランティアの導入など実施体制のさらなる強化が課題である。</li> </ul>
D その他 法人目的達成 のための事業			16/30 (53%) c				16/30 (53%) c	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>賛助会員からの寄附金については昨年度に比べて微増であった。法人全体で賛助会員を拡大する方が必要である。</li> <li>「新春のつどい」は昨年度を上回る参加者を得ることができた。職員が出席者同士をつなげるホストとしての役割を果たしていた。</li> <li>「よこはまユースレター」やホームページにより、よこはまユースの運営・事業活動の発信を積極的に行った。</li> <li>収益事業「爆笑! 演ずり寄席」を開催し、賛助会員をはじめとする多くの方に来場していただき、寄附金募集事業として確立できている。</li> </ul>
各課・施設の 経営業務姿勢	22/30 (73%) b	24/30 (80%) b	19/30 (63%) c	22/30 (73%) b	20/30 (67%) c	22/30 (73%) b	129/180 (72%) b		<ul style="list-style-type: none"> <li>各課・施設とも、ネットワークやコーディネートなど中間支援組織としての機能を発揮している。</li> <li>各課・施設で得た情報や経験、成果を他の課・施設でも共有し連携することで、組織としての力を効果的に発揮できる態勢づくりが課題である。</li> </ul>
各課・施設別 総合評価 上段:評価点計 下段:得点率	97/150 (65%) c	82/120 (68%) c	35/60 (58%) c	88/120 (73%) b	100/150 (67%) c	102/150 (68%) c	504/750 (67%) c		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業課:地域における青少年の居場所づくりでは充実した支援ができてきている。/さまざまな事業の企画や他団体の連携、人材育成に積極的に取り組んだ。</li> <li>放課後事業課:新たなキッズクラブ6箇所の運営に応募し、すべての運営を任せられることになり、これまでの運営実績が大きく評価される結果となった。/放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修が充実している。</li> <li>総務課:法人の屋台骨である庶務・経理など、日常の業務を支える役割を担いつつ、賛助会員及び一般寄付者の拡充を図るための工夫がされている。</li> <li>青少年育成センター:気持ちよく利用できる施設を維持することが施設の稼働率向上につながる。引続きの円滑な施設運営を期待する。</li> <li>青少年交流センター:子どもたちへの直接対応が多い中で、様々な事業を企画実施している。多忙感がある中で、情報共有がおろそかにならないよう注意すること。</li> <li>青少年研修センター:利用団体に、さまざまな体験プログラムを開発・提供するとともに、綿密な事前打合せなどを通じて利用者の安全の確保に努めたことで、利用団体が東日本大震災以前の利用者数を上回った。/ランドリー設備の整備などによる利便性・快適性の向上に努め、新たな魅力が生まれ、稼働率向上につながっている。</li> <li>3施設共通:ボランティアに関する相談情報提供事業は、3施設・事業課で共有システムを検討し、次年度には実現できるよう取り組むこと。</li> </ul>
評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人							5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施	
総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下							評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷実施部署数×30点(満点) (%で表示)	

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)		第2次評価会議 評価・助言・指示内容等		
		1次	2次			
A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	知っておきたい!子ども・若者どこでも講座	a ①	a ①	25/30 (83%) b	・地域の大人たちが主催する研修会や講座に無料講師の派遣ができています。 ・有料講師を派遣している「地域活動支援事業」とのすみわけが課題である。
		青少年の居場所の活動支援 磯子区岡村地区	a ①	a ②		・運営主体の活動は安定している。 ・運営主体が自主自立的に組織と活動の継続が行えるよう支援していく必要がある。
		青少年の居場所の活動支援 鶴見区生麦地区	b ⑥	b ⑤		・子どもたちの様子が落ち着いていることから、今後は地区センターを活用したロビーワークを中心に、地元の人たちが子どもたちの見守りを続けることとし、よこはまユースとしての事業を休止する。
		青少年の居場所の活動支援 神奈川区神大寺地区	a ①	a ②		・運営主体は日常活動を安定的に進めており、よこはまユースとしては補助金の支援が中心となっている。 ・運営主体が自主自立的に事業運営ができるよう、引き続き後方支援を継続する。
		地域活動支援事業 (相談、助言、活動プランニング)	a ①	a ①		・企業等の社会貢献活動のコーディネート、講師派遣事業、十日市場中学校区地域交流事業等に、よこはまユースの専門的な技術、情報、経験が発揮できている。 ・講師派遣事業と無料講師を派遣している「どこでも講座」とのすみわけが課題である。
		ユースサポーター事業	b ②	b ②		・若手活動者や活動希望者に体系的な研修(座学と実習)を実施し、修了者をユースサポーターとして認定し小学校体験学習や青少年施設での活動に結び付けていくスキームができた。 ・若者の参加を促すこと、若者の活動を継続させていくことが課題である。
	お 調査、 資料収集	活動資源の調査	b ①	b ①		17/30 (57%) c
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	青少年の支援に関わる人材の育成等 地域活動支援事業を通じた人材育成	-	-	15/30 (50%) c	※ え相談助言：地域活動支援事業で評価を実施
		青少年の支援に関わる人材の育成等 子ども・若者エンパワメントセミナー	a ①	b ②		・「子どもの力を引き出す」というキーワードで講演会を実施したが、講師派遣業者が仲介したことにより、講師と十分な打合せができず参加者の評価が分かれる結果となった。 ・よこはまユースのネットワークをフルに活用した講師の選定を優先し、事業の充実を目指してほしい。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動	寄り添い型支援事業 「かもん未来塾」の運営	a ①	a ①	18/30 (60%) c	・区、学校と円滑に連携し学習・生活面等成果が出ている。 ・本人の意思、学校の理解・協力が得られ、子どもたちにとって学び場としてだけでなく、居心地の良い場となっている。 ・慢性的なボランティア不足解消が課題である。
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市民団体と協働した体験プログラムの実施	a ①	a ②		・青少年団体と連携することで、青少年が自然や参加者同士とふれあうことができるプログラムが実施できている。 ・体験プログラムの内容や実施のノウハウを発信していけるよう、工夫が必要。
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 高校生水源林ボランティア	a ①	a ②		・横浜市の水源である、山梨県道志村の水源林保全活動の一環として間伐作業を体験し、高校生がボランティア活動の楽しさや自然環境保全の大切さを知る機会となっている。 ・より多くの高校生が参加できるよう、水道局との調整が必要。
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 道志村の自然を活用した体験プログラム・交流プログラムの実施 はまっ子どうしキャンプ	a ⑤	a ⑤		・よこはまユースが直接事業執行することで、法人内部に集団活動体験、ボランティア育成のノウハウが蓄積できている。 ・次年度の事業課の体制を考慮し、事業を休止する。
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 道志村の自然を活用した体験プログラム・交流プログラムの実施 道志村児童受入れ事業	a ①	a ①		・道志村の小学生と横浜市の小学生との交流、社会見学等により相互理解を深めるとともに、横浜港やその周辺の魅力を印象付けることができた。 ・水道局の「どんぐりプロジェクト」とも連携実施することができたので、今後の事業の充実が期待できる。
		自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市立高校と連携した体験活動の実施	a ①	a ①		・高校生が自らの学びを活かして社会に貢献する機会と自己肯定感を得る機会となっている。 ・参加者である小学生や保護者が、高校生が生き生きと事業を運営している姿に触れることで事業効果が更に高まっている。 ・新たな高校との連携を広げることが求められる。
		困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施 わくわく生活体験キャンプ	a ②	a ②		・市内の寄り添い型支援事業に参加する小中学生を対象とする事業で、事前にヒアリングを行い、ニーズなどを把握して実施することができた。 ・参加者が定員に満たなかったことから、実施時期などを検討する必要がある。協働事業につき、引き続き研修センターと十分連携を図ること。

平成26年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業評価結果(課・施設)

総務部 放課後事業課

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等	
		1次	2次	区分全体		
A 青少年活動を支援する事業	え 相談 助言	はまっ子・キッズ交流事業 知りたい!聞きたい!キッズクラブのエトセトラ	a ①	a ①	18/30 (60%) c	・放課後キッズクラブへの転換・開設、指導員の役割や業務について話し合い、はまっ子ふれあいスクールのチームパートナーの不安を解消する事業となっている。
		はまっ子・キッズ交流事業 知りたい!聞きたい!キッズクラブのエトセトラ スタッフのお仕事編	a ①	a ①		・放課後キッズクラブの現場に直接ふれることで、はまっ子ふれあいスクールのスタッフの不安を解消することができている。 ・はまっ子ふれあいスクールのチームパートナーが抱えている不安要素を把握することで、放課後キッズクラブの今後の運営に有意義な事業である。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 子どもの心を聴く・保護者との対話を深める コミュニケーションのヒント	a ①	a ①	19/30 (63%) c	・放課後事業従事スタッフが、子どもや保護者との関わりを深めるための 共感を生み出す伝え方、感情を受け止める姿勢を学ぶことができた。 ・行政が実施している研修との関係も考慮し、放課後児童育成事業が充実するよう有料を含め放課後3事業スタッフ研修全体の検討を継続していく必要がある。
		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 共感からはじまり、結果を求めない… 子どもに寄り添う	a ①	a ①		・放課後事業従事スタッフが、「子どもに寄り添う」とは、どういことなことを考えるきっかけとなり、スタッフの役割を再確認できた。 ・参加希望者が多い研修であるが、当日欠席も多い。参加決定者への事前周知を含めて実施方法の工夫をしてほしい。
		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 心が通う 保護者との関わり方のコツ	a ①	a ①		・放課後事業従事スタッフが、保護者との関わり方、関係づくりを学び、保護者の対応に戸惑うスタッフの不安の解消につながっている。 ・開催日を放課後事業実施時間帯ではない、平日午前中の開催に向けて改善する必要がある。
		放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 心に届く!活きた「伝え方」	a ①	a ①		・放課後事業従事スタッフが、実践で活かせるスキルをグループワークやケーススタディを通じて体得、再確認することができた。
		放課後3事業ボランティア研修 放課後キッズクラブボランティア体験	a ①	a ②		・よこはまユースが運営する放課後キッズクラブを実習の場として、ボランティア活動への継続的な参加につながる人材を発掘することができた。 ・実施時期が放課後キッズクラブの繁忙期にあたる夏期であったため、現場の負担が大きかった。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動	放課後キッズクラブ運営	-	-	21/30 (70%) b	※18か所の放課後キッズクラブに、3月から新たに5か所を加え23か所の放課後キッズクラブを運営
		地域連携モデル事業	b ⑥	b ⑥		・放課後キッズクラブが、地域の団体や人材、地域資源を活用し実践している地域連携プログラムを「YOKO HAMA EYE'S」で紹介し、外部に発信することができたため事業を終了する。
		放課後キッズクラブ新規運営の拡充	-	-		※3月開設5か所、H27年度4月開設1か所の放課後キッズクラブの運営法人として選定され、H27年度は24か所の放課後キッズクラブを運営

総務部 総務課

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等
		1次	2次	区分全体	
D その他 法人目的達成のための事業	青少年育成寄附金募集事業【収益事業】 第54回 爆笑!濱っ子寄席	b ②	b ①	16/30 (53%) c	・寄席を開催し、賛助会員を中心とした市民の方々に事業を理解していただき寄附金を募ることができた。 ・共同主催者である公益社団法人横浜中法人会との協体制について、検討・改善が求められる。 ・今後も継続事業として、実行委員会とともに取り組み、当法人への支援者を増加させてほしい。
	法人の広報PR よこはまユースレター	a ①	a ①		・よこはまユースの運営・事業活動を発信する法人情報紙「よこはまユースレター」を年4回発行し、賛助会員、事業協力者、関係機関、法人事業参加者等に配布することで、青少年育成活動への理解を深めることができた。 ・法人内部の事業担当部門が、更に有効活用していただけるよう職員の意識を高める必要がある。
	法人の広報PR 法人ホームページの維持・管理	a ①	a ①		・よこはまユースの広報戦略の一環として、ホームページを活用した情報の発信ができた。 ・事業参加申込や情報の有効性を検証できるスイッチの設置等、双方向の情報交換ができるインターネットのメリットを活かしたホームページの充実を図ってほしい。
	賛助会員及び一般寄附者の拡充	b ①	b ①		・賛助会員の獲得、寄附金募集の目標達成を図るため、積極的に法人事業を対外的に発信し、より多くの協力を得るための工夫ができた。 ・寄附の透明性を更に高めるため、発信・配布物の充実を図ってほしい。
	賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員限定 陶芸教室	a ①	a ①		・賛助会員への寄附金の使途・成果・実績を知っていただく機会になっている。 ・参加希望者が多いため、実施回数の増が望まれる。
	平成27年 新春のつどい	a ①	a ①		・よこはまユースを支えていただいている方々に感謝を表すとともに、賛助会員をはじめ関係機関・団体、事業協力者等の交流・親睦の機会となっている。 ・更なる交流・親睦が図れる充実した場となるような企画を期待している。
	法人職員の人材育成	-	-		・新採用職員研修、個人情報に関する研修、法人が実施している人材育成事業、並びに外部研修に職員が参加することで人材の育成を図っている。

施設部 横浜市青少年育成センター

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等
		1次	2次	区分 全体	
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設貸与	諸室及び物品の貸出	a ②	a ②	24/30 (80%) b
	利用促進に向けた取り組み 「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング!～」	a ②	a ②		
	利用促進に向けた取り組み 新規利用者の開拓	a ②	a ②		
	え 相談助言	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 ホームページ等を使った情報提供	a ②	a ①	18/30 (60%) c
青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 青少年育成に関する相談	a ②	a ①			
青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成 テーマ型交流会(よこはまユース・ゼミ)の実施	a ②	a ②			
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	青少年人材養成研修 青少年の居場所づくり講座	a ②	a ②	24/30 (80%) b
		青少年人材養成研修 青少年の居場所づくり講座 フォローアップ講座	a ②	a ②	
		ユースコーディネーター養成研修	a ②	a ②	
		ユースコーディネーター養成研修 フォローアップ講座	a ②	a ②	
		スキルアップ講座 ボランティア・マネジメント講座	a ⑥	a ③	
		スキルアップ講座 広報・記録のためのデジカメ入門講座	a ②	a ①	
		スキルアップ講座 日赤救急法講習会<共催事業>	a ②	a ②	
		スキルアップ講座 コーチング入門講座	a ②	a ①	
		スキルアップ講座 コーチングステップアップ研修	a ②	a ②	
		スキルアップ講座 子ども・若者の集団を支援する	a ③	a ③	
		青少年を支える層を拡大するための講座・研修 よこはまユース・シンポジウム	a ②	a ①	
青少年を支える層を拡大するための講座・研修 馬車道力レッジ	a ②	a ②			

施設部 横浜市青少年交流センター

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)			第2次評価会議 評価・助言・指示内容等
			1次	2次	区分 全体	
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設貸与	諸室及び物品の貸出	a ①	a ①	23/30 (77%) b	・利用登録者にEメールでキャンセル情報を提供することで利用者の利便性の向上が図られている。 ・利用者の安全確保のためフリースペースを一時閉鎖したため、貸し室の利用件数は増加したが、利用人数は約3千5百人減少した。
		利用促進に向けた取り組み	a ②	a ②		・ダイレクト・メールによる新規利用者獲得に取組むとともに、ホームページによる年間事業スケジュールや空室情報の発信など、利用者の利便性向上に取組んだ。
	え 相談助言	日常的な相談・助言 ロビーワークの実施と成果の検証	a ①	a ②	19/30 (63%) c	・ロビーワークを通してスタッフが青少年との関係性を築き、日常的な相談・助言に努めた。一方、対象や具体的な行動目標をスタッフ間で十分に共有できず、一貫した対応ができない面があった。 ・スタッフ間で日常の取組みの共有、行動目標の明確化を図る工夫が必要である。
		日常的な相談・助言 青少年活動相談	a ①	a ①		・活動情報の提供や事業の企画運営への支援など相談者の要望に合わせた対応ができていた。特に活動機会の提供に関しては、よこはまユースの事業全体を視野に入れたコーディネートができた。 ・相談事業の更なる充実を目指し、記録や情報を法人全体で共有するためのシステム化を進めてほしい。
青少年の居場所・地域活動拠点連絡会の運営	a ①	a ①	・青少年育成活動に取組む団体が分野を越えて繋がり、参加団体相互の連携が生まれた。 ・今後は、構築されたネットワークの推進のために、どの様な役割を果たしていくか検討の必要がある。			
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 夏期青年ボランティア	a ①	a ①	17/30 (57%) c	・夏休み期間中來館する子どもたちの遊びや勉強のサポート等の活動を通じた異年齢交流の場として機能した。 ・今後は、3施設・法人内他課間でボランティアの情報共有・活用を検討するとともに、外部へのボランティア活動のマッチングも充実させてほしい。
		ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 社会教育実習生受け入れ	a ①	a ①		・青少年への対応が実習生の貴重な学びとなっている。また、センターを利用する青少年にとっても、実習生との関わりは多様な価値観に触れる貴重な機会となった。 ・更に有意義な実習になるよう、実習生が所属する大学と実習効果の検証を引き続き行ってほしい。
		青少年の居場所づくり全国フォーラム	a ⑤	a ⑤		・居場所やよこはまユースの取組みを全国に発信する有効な機会になっているが、全国からの参加者が減少しているなか、「青少年の居場所づくり」をテーマとして10年が経過し、事業を見直す時期となっている。
		青少年委員会の運営	b ①	b ①		・センターの運営に青少年の視点を取り入れる機会を得ることができている。 ・昨年度同様、青少年委員はイベントの運営をすることが役割だと認識している委員が多く、引き続き運営上の工夫が必要である。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動	青少年支援事業 学習マイブラン(学習支援)	a ①	a ①	21/30 (70%) b	・学習に困難を抱える青少年に対する学びの場となっており、継続的に通う青少年が増え定着してきた。 ・学習ボランティアが自主的に事業運営に参画できる体制ができたので、運営組織充実のための支援を続けてほしい。
		青少年支援事業 ジョブカフェ(動物園の仕事編)	a ①	a ①		・中高校生を対象に、動物園の役割や飼育係の仕事の内容について直接職員が語ることで、将来のロールモデルとして進路や職業観について考える機会を提供することができた。 ・取り上げる職業と職員の選定が企画の要になる事業。
		活動成果交流事業 青少年ライブ'14	b ②	b ②		・センターを利用する青少年バンドの練習成果の機会を提供することはできたが、事前準備から当日の運営を通じて、相互の交流や自主性や協調性を育むことが十分ではなかった。 ・事業実施の工夫とともに、バンド以外のダンスや演劇等の発表の機会としても活用できないか検討してほしい。
		活動成果交流事業 @楽祭	a ①	a ①		・定番事業で、出演者が運営も担いステージを作り上げる一体感が生まれ、異年齢交流の場となっている。 ・新たに企画した展示部門に関しては、会場や開設時間に工夫が必要。
		地域交流事業 こどもの日まつり	a ①	a ②		・青少年が「こどもの日」のイベントの企画・運営スタッフとして関わり、自主性や協調性を養う場として有効に作用している。 ・動物園にきた親子や利用したことがない子どもが多く参加するため、センターのPRにも有効な事業。
		体験交流事業 青少年の表現活動の場づくり 夏休みこども陶芸教室	a ①	a ①		・作品制作を通じ、青少年が物作りの楽しさ、表現活動のおもしろさを体験できた。 ・子どもたちの作品作りをサポートする役割の青年ボランティアが活動したことにより、青少年とボランティアの相互交流が図れた。
		体験交流事業 夏休み事業(料理教室・木工教室)	a ①	a ①		・青少年が意欲的に取組むことができる場、活動の場を提供し、単に作品作りだけでなく青少年とボランティアの相互交流の場を提供することができた。
		体験交流事業 きもだめし大会	a ①	a ①		・青少年委員や夏期青年ボランティア、常連利用者の青年が協働で事業を企画運営したことで、参加者を含めた交流の場として有効であった。
		体験交流事業 音作り講習会	a ②	a ②		・音楽機材の取り扱いや演奏に関する基礎知識をプロから学ぶ講習会で、青少年のニーズは高いが参加者が少なかった。 ・参加者を得るための周知や開催時期の工夫が必要。
		体験交流事業 ワイワイおやつタイム	a ①	a ①		・青少年委員会が企画運営する事業であるが、参加する青少年委員が少なく参加意識にも差があった。自主的に活動できるよう、青少年委員に働きかける必要がある。
		体験交流事業 もちつき大会	a ①	a ②		・子どもから大人まで地域の幅広い世代が交流し関係を深めることができた。 ・多くのボランティアを募り、参加者とボランティアが楽しみながら運営していくことを目指し、企画を検討する必要がある。
体験交流事業 社会人仲間作り事業 手作り石けん教室	b ②	b ②	・ホームページや企業への広報等により参加者募集に努めたが、充足率が低かった。育成センターの「馬車道カレッジ」と同様、参加者を如何にして集めるかが課題。企画内容や周知方法を含め工夫が必要。			

施設部 横浜市野島青少年研修センター

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	次年度方針(※)		第2次評価会議 評価・助言・指示内容等	
			1次	2次		
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設貸与	施設・設備の貸出	a ②	a ②	25/30 (83%) b	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した体験プログラムの提供、ランドリー設備の整備等により、利用者の利便性・快適性の向上に努めた。</li> <li>日帰り利用者の増加により稼働率は伸びたが、キャンセルによる宿泊人数の減少対策を検討する必要がある。</li> </ul>
		利用促進事業	b ②	b ②		
	お 調査、資料収集	新規体験プログラムの開発	-	-	16/30 (53%) c	※ う体験活動：新規体験プログラムの開発・検証で評価を実施
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	青少年指導者育成者研修 水辺の安全講習会	b ②	b ②	16/30 (53%) c	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の満足度や学習効果は高かったが、定員に対する充足率が低かった。研修形態や広報について工夫する必要がある。</li> <li>指導者が、レクリエーション指導スキルを習得し活用できるようになるための研修として、企画内容、研修形態の見直しが必要である。</li> </ul>
		青少年指導者育成者研修 レクリエーションゲーム講習会	b ②	b ②		
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動	体験プログラムの市民活動団体との協働実施 オールクリーン野島ビーチ	a ①	a ①	23/30 (77%) b	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な広報を行ったことにより、初めて参加する学生や社会人など多くの参加が得られた。</li> <li>中・高校生などの参加が増加するよう、更なる広報の工夫を期待する。</li> <li>センター周辺の環境を活かした市民団体と協働事業で、人気が高い。</li> <li>今年度は事業に必要な機材を充実し、より良い事業実施環境が整った。学校の体験学習やセンターならではのプログラムとして活用してもらえよう、指導体制の充実を望む。</li> <li>イベントの場所貸し、体験ブース出展で終わってしまい、事業目的である市民団体との交流を図ることができなかった。事業の見直しが必要である。</li> <li>市立高校生、法人の事業課等と理科学習向けプログラム開発・提供ができた。</li> <li>今後、継続的に新規開発プログラムを提供する際のマンパワー(説明・指導・見守り)の確保は課題である。</li> <li>実行委員会での協議が難航し事業周知が遅れた結果、定員に対する充足率が低くなった。</li> <li>実行委員会が単一の団体からの構成員のみであることから、負担金支出の有効性など、事業の見直しが必要である。</li> <li>新たなプログラム提供により、参加者の関心を引きつける工夫ができた。</li> <li>よこはまユースの職員が支援することで、教育委員会としても安心して活動ができています。</li> <li>長い歴史のある事業で、実行委員はもとより大勢のボランティア、事業協力者に支えられた事業である。</li> <li>今後も継続できるよう、執行責任や安全確保等の役割を実行委員会とよこはまユースでどのように分担していくか検討し、明確にしていく必要がある。</li> <li>自立支援機関・団体の特性に配慮し対応することができた。新たな支援団体や職業体験の受け入れが増えている。</li> <li>引続き各団体等の性格に合った活動支援を行えるよう、支援プログラムの提供への工夫が望まれる。</li> <li>ボランティアの養成によって、利用者に提供する体験プログラムの充実並びに、事業実施の安全性を高めることができた。</li> <li>ボランティア活動への参加者を増やすこと及び、ある程度の期間活動を継続できるような仕組み作りに取り組んでほしい。</li> <li>生き物観察プログラムを取り入れる団体が増えている。</li> <li>安定的にプログラム提供できるよう、運営体制や料金体系を検討整備する必要がある。</li> <li>室内でのグループワークプログラムを提供し、集団活動や共同作業の楽しさを体験してもらおうことができるようになった。</li> <li>雨天時対応の室内プログラムの充実と併せて、通常のプログラムとして提供できるレクリエーションや協働作業プログラムの開発が望まれる。</li> <li>調理実習プログラムの提供によって、調理への興味関心を引き出し、共同作業により協調性や社会性を身につける機会を提供することができている。</li> <li>自炊型の宿泊研修施設の特徴を活かしたセンターならではのプログラムとなるよう、更なる事業開発を望む。</li> <li>センター周辺の地域資源を活かした体験プログラムの充実が図られた。</li> <li>自然体験プログラムの充実はもとより、室内での体験プログラムの開発が求められている。</li> <li>「夏祭り」「あそび場」のイベントに、地元の幼児・小学生をはじめと多く地域の参加があり、地域との繋がりが深まっている。</li> <li>地域の活動支援、地域のセンターへの理解と協力を図るため、今後も交流事業に取り組んでほしい。</li> </ul>
		体験プログラムの市民活動団体との協働実施 野島カヌー体験教室	a ①	a ①		
		体験プログラムの市民活動団体との協働実施 環境啓発事業の実施(金沢水の日への参加)	c ②	c ②		
		体験プログラムの市民活動団体との協働実施 周辺の自然環境を活かした体験キャンプ	a ②	a ②		
		体験プログラムの市民活動団体との協働実施 のじまチキチキキャンプ	c ⑥	c ⑥		
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 ハートフルスペース宿泊体験	a ①	a ①		
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 野島クリスマスキャンプ	a ①	a ①		
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 職業体験活動の受け入れ、支援機関等の支援	a ②	a ②		
		施設ボランティアの養成 ボランティア研修会、事業ボランティア、 体験学習ボランティア	b ②	b ②		
		体験プログラムの提供 生き物観察等の自然体験プログラムの提供	b ②	b ②		
		体験プログラムの提供 グループワーク等の室内プログラムの提供	b ②	b ②		
		体験プログラムの提供 食育(調理実習)プログラムの提供	a ②	a ②		
		体験プログラムの提供 新規体験プログラムの開発・検証	a ②	a ②		
地域連携事業 地域交流事業(地元町内会、子ども会連携)	b ②	b ②				

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 /公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント
	ランク	得点 (30点満点)			
A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	b	25/30 (83%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども・若者どこでも講座」は地域要望をよく確認し円滑に執行できた。</li> <li>・青少年の居場所の活動支援は、運営主体の自立性が育ちつつあるが、活動の継続性に留意する必要がある。</li> <li>・企業の社会貢献活動のコーディネート、講師派遣事業、十日市場中学校地域交流事業等順調な進捗で成果を出している。</li> <li>・ユースサポーター事業は、若者の参加促進と活動の継続に、よこはまユースの持つノウハウを最大限に発揮すること。</li> </ul>
	お 調査、資料収集	c	17/30 (57%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜ユースマップのデータ更新に努めること。</li> <li>・「YOKOHAMA EYE 'S」による青少年育成に関する情報の発信ができた。定期刊行を継続する。</li> </ul>
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	c	15/30 (50%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人が子ども・若者に接することの意義の啓発として、一定の成果を出した。</li> <li>・集客面を重視し業者の仲介を必要とする著名な講師を選定したことによって課題が残った。次年度は方法、内容を見直すこと。</li> </ul>
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動	c	18/30 (60%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄添い型支援事業は、区・学校と円滑に連携し学習・生活面等成果が出ている。慢性的なボランティア不足の解消が課題である。</li> <li>・自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供は、体験事業の青少年団体との協働実施、道志村や横浜市水道局、市立高校との連携事業を効果的に実施することができた。体験プログラムの内容や実施ノウハウの発信、新たな連携先の開拓が課題である。</li> <li>・「わくわく生活体験キャンプ」は、他の寄り添い型支援施設にヒアリングし、きめ細やかに準備・対応できた。</li> </ul>
経営・業務姿勢		b	22/30 (73%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動支援や事業連携先の拡大、事業を通じた人材育成に意欲的に取り組み、中間支援組織としての機能を発揮した。</li> <li>・寄り添い型支援事業へのフォローなど、率先して態勢カバーにあたった。</li> </ul>
総合		c	97/150 (65%)		

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク (評価点得点率)	a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)

平成26年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

事業課

A：青少年活動を支援する事業 え：相談助言

事業名	知っておきたい！ 子ども・若者どこでも講座		
日時/回数	通年	場所	横浜市内
対象	青少年指導員、民児協、PTAなど、地域の中で青少年活動に取り組む団体	回数	51件(30人以上/件)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年を取巻く環境や抱える問題に対する地域の大人の理解を促進する。</li> <li>・市内に、青少年の育ちを全体で見守れる地域を広げる。</li> <li>・主催団体の課題や要望を整理しながら、適切なコーディネートをする。</li> </ul>		
実施内容	<p>青少年が抱える課題に対する理解の広がりや地域における青少年活動の広がりを目的に、地域の大人たちが主催する研修会や講座へ講師を派遣した。講師の選定・連絡調整を行うとともに、講師謝金・交通費も負担した。</p> <p><b>【主なテーマ】</b> 子どもとの関わり方/青少年の居場所/薬物の問題/インターネット・携帯電話/性教育/心の教育 他</p> <p><b>【事前準備】</b> ・依頼者からニーズをヒアリング ・依頼者に助言をしながら講座テーマを設定 ・講師の調整・手配 ・講師と主催者との打合せに同席し、助言及び調整</p> <p><b>【当日】</b> ・会場準備の補助</p> <p><b>【事後】</b> ・主催者から感想をヒアリング</p>		
事業名	青少年の居場所の活動支援 磯子区岡村地区		
日時/回数	通年	場所	磯子区岡村中学校区
対象	磯子区子どもの幸せを実現する会	参加者	25,947人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活動を支援する。</li> <li>・地域の大人と青少年とが顔の見える関係をつくれるよう、相互の交流を促す。</li> <li>・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、地域の主体的な取組みとして定着させる。</li> </ul>		
実施内容	<p>「子どもの幸せを実現する会」が行う、岡村中学校区での青少年の居場所活動を支援した。</p> <p>「子どもの幸せを実現する会」は、岡村中学校の一室を使用し、青少年が安心して過ごせる地域を目指して、学校と地域が交流できる活動の企画・運営を行っている。また、教室に入れない生徒のための学習支援なども行っている。</p> <p>・活動に関わる事務手続きの支援 ・拠点活動の運営補助、助言、相談、青少年との関係づくりのサポート ・利用者増加のためのPR活動</p> <p><b>【現場対応】</b> ・地域交流活動(お茶会、あいさつ運動 他)：9回 ・子どもの幸せを実現する会定期全体会：2回 ・子どもの幸せを実現する会定期役員会：2回</p> <p><b>【連携】</b> 子どもの幸せを実現する会、岡村中学校、磯子区地域振興課、磯子警察署</p> <p>磯子区役所の人的支援が受けられなくなった部分に関してもユースが関わるようにした。ユースの支援がなくなっても活動が継続できるように支援していくことが課題。</p>		
事業名	青少年の居場所の活動支援 鶴見区生麦地区		
日時/回数	通年/47回(毎週火曜日)	場所	鶴見区生麦地区センター
対象	ふらっと生麦	参加者	259人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活動を支援する。</li> <li>・地域の大人と青少年とが顔の見える関係をつくれるよう、相互の交流を促す。</li> <li>・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、地域の主体的な取組みとして定着させる。</li> </ul>		
実施内容	<p>鶴見区生麦地区で取組まれている青少年の居場所づくり活動を支援した。</p> <p>・事務手続きの補助 ・青少年との関係づくりの補助 ・フリースペースの開設補助 ・参加者交流イベントの実施補助</p> <p>今年度は、活動休止に向け、イベントの実施を控えた。来年度からは、地区センターの会議室でのフリースペースの開設ではなく、ロビースペースでのロビーワークを中心に、地元の人たちが子どもたちの見守りを続けることになった。</p>		

<b>事業名</b> 青少年の居場所の活動支援 神奈川区神大寺地区			
<b>日時/回数</b>	毎週 月、火、金	<b>場所</b>	神大寺地区センター、中丸小学校体育館
<b>対象</b>	居場所スタッフ、関係者、区地域振興課	<b>参加者</b>	4,566人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年が安心して過ごせる地域づくりの活動を支援する。</li> <li>・地域の大人と青少年とが顔の見える関係をつくれるよう、相互の交流を促す。</li> <li>・地域で青少年を見守り育てる仕組みを、地域の主体的な取組みとして定着させる。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>神奈川区神大寺地区での青少年の居場所GROVE運営委員会活動を支援。</p> <p>※神奈川区神大寺地区の居場所は、音楽(バンド活動)とスポーツ(フットサル、バスケットボールなど)を通じた青少年の居場所づくりと青少年の活動の場の提供を中心に活動を展開。拠点では、主に近隣の大学生や専門学校生、拠点を利用していただいていた青少年が子どもたちの対応をしている。また、地域行事にも積極的に協力しており、地域の担い手としても期待されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動：月曜日(地区センター)</li> <li>・スポーツ活動：火・金曜日 (中丸小学校体育館) 18時～バスケット 19時～フットサル</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者増に向けた広報物の助言・支援</li> <li>・居場所運営委員会であるGROVE運営委員会活動の運営補助、助言、相談</li> <li>・拠点から居場所への支援変更に対する助言、相談、支援</li> </ul> <p><b>【現場対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動、スポーツ活動関連：5回</li> <li>・B-SKYフェス実行委員会：3回</li> <li>・B-SKYフェス 2/28(土) 於：神奈川公会堂</li> </ul> <p>B-SKYフェスは、神奈川区と居場所が中心となって、青少年を対象に、ダンス、民俗芸能、楽器演奏、バンド演奏の発表の場として実施している。運営スタッフは居場所、区役所、地域の大人、居場所に入出入りする大学生や専門学生で構成され、企画段階から当日運営に至るまで携わっている。当日は、出場団体の青少年も役割をもち、一緒にイベントを作り上げている。</p> <p><b>【連携】</b> こども青少年局青少年育成課、神奈川区地域振興課、神大寺地区センター、中丸小学校、地域型スポーツクラブ「まるクラブ」(活動の核となる人材が在籍)</p>		
<b>事業名</b> 地域活動支援事業(相談、助言、活動プランニング)			
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市内
<b>対象</b>	行政、学校、PTA、団体や機関など	<b>対応</b>	27件
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における青少年育成活動や居場所づくり活動の充実・発展のための研修機会を提供する。</li> <li>・学校と地域の連携事業を通じた地域のセーフティーネットづくりを支援する。</li> <li>・企業の社会貢献活動を推進する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年活動の相談、助言</li> <li>・青少年に関する研修への講師派遣</li> <li>・企業の社会貢献活動のコーディネート、研修</li> <li>・地域の青少年活動のコーディネート</li> </ul> <p>&lt;事業協力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体、学生団体の主催事業の後援・共催などの事業協力(1件)</li> <li>・水道局「どんぐりプロジェクト」事業協力(5年間の協働実施)</li> </ul> <p>&lt;講師派遣&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・16件実施(JICA日系社会青年ボランティア派遣前訓練等)</li> </ul> <p>&lt;企業等の社会貢献活動のコーディネート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリンビール社員研修(3回実施)</li> <li>・三菱UFJモルガンスタンレーPB証券社会貢献活動(かもん未来塾と連携して実施)</li> </ul> <p>&lt;活動コーディネート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十日市場中学校地域交流事業</li> <li>・研修プランニング(4件：どこでも講座受付期間終了後の講師紹介)</li> </ul>		
<b>事業名</b> ユースサポーター事業			
<b>日時/回数</b>	企画会議9月～3月、検証委員会3/25(水)	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手活動者や活動希望者に体系的な研修を実施し、修了者をユースサポーターとして認定することで、若者が活動に参加しやすい環境を整備し、将来の地域の青少年育成・支援者の拡大につなげる。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度の取組 過去2年の検証を元に、具体的なリーダー育成制度の構築を目指した。</li> <li>・各年度の取組 平成24、25年度は先駆的な人材育成研修の試行的実施と効果の検証を行った結果、研修効果は研修内容や講師の質によるものよりも、その研修にいかにか意欲的に参加してもらったかが大切であるとの結論に達した。</li> </ul> <p><b>【課内企画会議】</b></p> <p>9/22(月)13時～15時：今年度の事業の目標や方向性の検討 12月～2月：具体的なリーダー育成制度の構築 3/20(金)15時～17時：検証委員会事前打合せ</p> <p><b>【事業検証委員会】</b></p> <p>3/25(水)16時～17時 今年度組み立てたリーダー育成制度の内容と、実施するうえでの課題等について、外部委員による検証を行った。 ※外部委員：ボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会の活動者4人</p> <p><b>【リーダー育成制度の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動実習のためのオリエンテーション、ボランティアの基本等</li> <li>・6月～3月活動実習(すべての実習に省察の機会を設ける)</li> </ul> <p>事業課、放課後キッズクラブ、育成センター、交流センター、研修センターの体験活動・ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月～3月ステップアップ研修活動実習経験者のための選択研修 ユースワーカー、障がい児理解 他(育成センター スキルアップ研修を活用)</li> </ul>		

A：青少年活動を支援する事業 お：調査、資料収集

事業名	活動資源の調査 横浜ユースマップ(法人ホームページコンテンツ)の情報更新		
日時/回数	随時		
対象	横浜市内の青少年活動資源	登録数	374件
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市内の社会・自然資源を調査・発掘する。</li> <li>市民が多様な体験活動に活用できる資源の情報提供を行う。</li> </ul>		
実施内容	横浜市内にある社会・自然資源を調査・発掘し、市民の多様な体験活動につなげられるよう、横浜ユースマップを更新し、情報提供を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の社会・自然資源の所在並びに内容の確認と情報更新</li> <li>自然体験、自然体験(水遊び系)、横浜市施設、キッズクラブ、居場所、青少年育成団体、体験施設の7分野の活動情報を掲載。</li> </ul>	
事業名	活動資源の調査 YOKOHAMA EYE'S発行		
日時/回数	3月発行	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者・指導者、青少年関係機関など	部数	1,500部
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の取り組みを周知する。</li> <li>地域の青少年育成活動を掘り起こす情報発信を行なう。</li> <li>執筆を通して法人職員の専門性や能力の向上を図る。</li> </ul>		
実施内容	法人の取り組みと地域の青少年育成活動の情報発信を目的とした研究・活動事例報告集を発行した。  テーマ：「人とつながる・人が広がる」 ・法人の取り組みをはじめ、特筆する地域・団体の活動を掲載した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人各部署の職員で構成する編集委員会を設置</li> <li>今年度のテーマを決定：「人とつながる、人が広がる」</li> <li>執筆者への依頼及び執筆 ※今年度の法人職員執筆は公募制                         <ul style="list-style-type: none"> <li>①テーマ論文(法人職員)</li> <li>②外部執筆</li> <li>③事業報告(法人職員)</li> </ul> </li> <li>入稿及び校正、発送                         <ul style="list-style-type: none"> <li>※主な発送先：青少年育成・指導者(団体)、青少年関係機関・施設、学校関係者、研究者</li> </ul> </li> </ul> <p>【外部執筆・協力者】                  久田 邦明 氏(神奈川大学・東京学芸大学講師)                  塚原 泉 氏(神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ施設長)                  早川 秀樹 氏(多文化まちづくり工房代表)</p>	

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	青少年の支援に関わる人材の育成等 子ども・若者エンパワメントセミナー		
日時/回数	12/22(月)10時30分～11時45分	場所	関内ホール小ホール
対象	小中学生の保護者、地域で青少年に関わる大人	参加者	154人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に青少年と関わる大人たちが、前向きな気持ちで子どもたちと向き合えるようサポートする。</li> <li>青少年の持つ力を引きだすための関わり方について考える機会を提供する。</li> <li>青少年に向き合いながら成長を見守ることの大切さを知ってもらう。</li> </ul>		
実施内容	より多くの人達に青少年育成への関心を高めるため、普段、青少年に関する講演会に足を運ばない人達にも興味を持ってもらえるよう、著名な講師による講演会を実施した。  講師：外山滋比古氏 (エッセイスト、お茶の水女子大学名誉教授)	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師の手配                         <ul style="list-style-type: none"> <li>講師紹介・派遣業者に講師の仲介を依頼</li> </ul> </li> <li>事業の周知                         <ul style="list-style-type: none"> <li>*主な広報先*</li> <li>広報よこはま</li> <li>公共施設(地区センター、図書館 等)</li> <li>市立小学校、キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクール</li> <li>青少年に関わる団体(市P連、市子連、民児協)</li> <li>市内の私立小学校</li> <li>市内の大学生課</li> </ul> </li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講演会開催</li> <li>参加者へのアンケート実施</li> </ul>	

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動

<b>事業名</b> 寄り添い型支援事業 「かもん未来塾」の運営			
<b>日時/回数</b>	毎週水木12時～20時、火金12時～21時	<b>場所</b>	西区「かもん未来塾」(西区中央)
<b>対象</b>	困難を抱える小中学生	<b>登録数</b>	16人(3月末)
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生を対象に「気づき・やる気・希望」を引き出す。</li> <li>・他者との関係性を築きながら自らが安心していられる場(居場所)を提供する。</li> <li>・地域や専門機関と連携し、子どもを見守る地域の環境を築く。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業として、生活保護家庭の児童生徒を中心に学習支援、生活支援、総合支援を実施した。</p> <p><b>【連携】</b> 西区役所福祉保健センター (保護課、こども家庭障害支援課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者数：16人(小学生6人、中学生10人)</li> <li>・延べ利用回数：998人(小学生303人、中学生666人、保護者29人)</li> <li>①学習支援：宿題・課題など日々の学習や補習を支援。</li> <li>②生活支援：手洗い・うがい、片付けなど生活の基本行動の第一歩から始め、個々の成長に合わせて指導。</li> <li>③総合支援：上記支援の他、独自プログラムの実施によりスタッフや他の塾生とのコミュニケーションの深まりによって社会性の発達を促した。</li> <li>6月：高校展見学</li> <li>7月：サッカー教室</li> <li>8月：パソコン組み立て教室、お泊り学習会(中学生男子対象)</li> <li>10月：高校説明会</li> <li>11月：プロバスケットボール観戦(企業のCSR活動として)</li> <li>12月：高校説明会、サッカー教室</li> <li>2月：生活体験キャンプ</li> </ul>		
<b>事業名</b> 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市民団体と協働した体験プログラムの実施			
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市内
<b>対象</b>	小中学生を主とした青少年	<b>参加者</b>	1,703人(延べ)
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の社会性や自立心を育てる機会を提供する。</li> <li>・体験活動を推進するために自然環境や社会資源の活用を図る。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年活動団体などと協力して、青少年向けに、自然や他者とふれあえるイベントを実施した。</li> <li><b>【協力団体】</b> 横浜市少年五団体(ボーイスカウト横浜市連合会、ガールスカウト横浜市連絡協議会、横浜市健民少年団、横浜海洋少年団、横浜市子ども会連絡協議会) 一般財団法人横浜港振興協会、あおみ建設株式会社横浜支店、港湾職業能力開発短期大学校横浜校、東京湾水先区水先人会、NPO法人横浜シーフレンズ</li> <li>5/31(土)：開港祭イベント@臨港パーク(参加者：953人) ボーイスカウト横浜市連合会と連携して実施。簡単な工作プログラムの他、身近な素材を使ったゲーム体験ブース『イカいか～っすか?』を出展。</li> <li>6/8(日)：横浜市少年五団体の集い@日本丸メモリアルパーク(参加者：278人) 横浜市少年五団体と連携して実施。災害時に役立つ工作プログラムやロープワークの実演を行った。</li> <li>1/18(日)：読み聞かせキャラバンin横浜@育成センター(参加者143人) 横浜市子ども会連絡協議会と連携して実施。パネルシアターや紙芝居などの実演と読み聞かせ技術の研修会を行った。</li> <li>3/8(日)：七福神ハイキング@妙蓮寺駅～日吉駅間(参加者150人) ボーイスカウト横浜地区と連携して実施。港北区内の七福神を祀る寺院7ヶ所を巡るウォークラリーを行った。</li> <li>3/8(日)：みるしるふれる・みなとのしごと@日本丸メモリアルパーク(参加者179人) 港湾に関わる団体と連携して実施。港に関わる歴史的建造物を巡るフォトラリーや横浜港を巡る乗船会、港の役割や港での仕事を紹介するブースの出展を行った。</li> <li><b>【事後】</b> 3/25(水)：プログラム検証委員会の実施(検証委員4人)</li> </ul>		
<b>事業名</b> 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 高校生水源林ボランティア			
<b>日時/回数</b>	8/5(火)7時50分～20時	<b>場所</b>	山梨県道志村の水源林
<b>対象</b>	市内在住・在学の高校生	<b>参加者</b>	39人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中で活動する楽しさを知り、自然環境や普段飲んでいる水への理解を深める機会を提供する。</li> <li>・ボランティア活動の楽しさを知る機会を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>山梨県道志村の水源林の保全活動の一環として、間伐作業を体験した。また、水源の森(市水道局が管理する涵養林)の見学と森の保水・浄化機能について学習した。</p> <p><b>【連携】</b> 横浜市水道局(浄水部浄水課)</p> <p><b>【事前】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市水道局との企画内容の調整(5/19)</li> <li>・市内の高校に参加者募集</li> <li><b>【ボランティア事前研修】</b> 7/16(水)18時～ 於：青少年育成センター</li> <li>・当日の作業について、ボランティアの心得、道志水源林について 他講師：横浜市水道局浄水課係長</li> <li><b>【水源林ボランティア当日】</b> 活動内容(環境学習教室→間伐体験)</li> <li>・活動アンケートの実施(水道局兼用)</li> </ul> <p>昨年度の反省に、高校生のやる気を引き出すということがあった。今年度は、水道局と打ち合わせをし、高校生の興味を引く説明会になるよう工夫した。また、説明会時に自分がこの活動に参加する理由や目標を考える時間をとり、当日も持参する資料に書き込んでもらった。</p>		

<b>事業名</b> 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 道志村の自然を活用した体験プログラム・交流プログラムの実施 はまっ子どうしキャンプ			
日時/回数	7/26(土)~27(日) 1泊2日	場所	山梨県道志村、道志森のコテージ
対象	小学校4年生~6年生	参加者	59人 青年ボランティア(高校、大学、勤労青年)25人
事業目的	・体験活動を通して青少年の自主性、社会性の形成を図る。 ・横浜市の水源である道志村に親しんでもらう。 ・ボランティア活動を通して青少年の成長を図る。		
実施内容	<p>自然環境の中で、学校や年齢の異なる仲間と出会い、協力しながら新しいことにチャレンジすることで協調性・社会性を育むキャンププログラムや、横浜の水源である道志村の理解につなげるためのプログラムを提供した。                  子ども達のリーダーに、青年ボランティア(高校、大学、勤労青年)を導入。</p> <p><b>【連携・協力】</b>                  道志村、道志村観光協会(森のコテージ、みなもと体験館)、横浜市水道局水源林管理所</p> <p><b>【事前準備】</b>                  ボランティア事前説明会、参加者説明会</p> <p><b>【当日】</b>                  ・児童の引率・誘導、ボランティアリーダーへの指示                  ・プログラムの進行                  クラフト体験、食事づくり、キャンプファイアー 等の生活体験                  ハイキング、川遊びなどの自然体験                  水源林について学ぶ社会体験</p> <p><b>【事後】</b>                  ボランティアを対象としたふり返りの会</p>		
<b>事業名</b> 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 道志村の自然を活用した体験プログラム・交流プログラムの実施 道志村児童受入れ事業			
日時/回数	10/2(木)~3(金) 1泊2日	場所	見学：横浜市内 宿泊：横浜市野島青少年研修センター
対象	道志村立道志小学校5年生と引率教員、教育委員会	参加者	19人
事業目的	・横浜市の小学生と道志村の小学生の交流を深める。 ・横浜での社会見学の機会を提供し、道志小児童に横浜への理解を深める。		
実施内容	<p>道志村児童を横浜に招待し、市内の小学生との交流、横浜市を中心とした社会見学の機会を提供することで、横浜市と道志村の交流と相互理解を深めた。</p> <p><b>【連携・協力】</b>                  横浜市立万騎が原小学校                  道志村立道志小学校                  道志村                  道志村教育委員会                  こども青少年局青少年育成課</p> <p><b>【事前】</b>                  ・道志小学校(5/7)、万騎が原小学校(9/4)と打ち合わせ、活動内容調整                  ・企画立案、関係先への手続き                  ・浄水場、工場等活動先との打ち合わせ(6/16、7/17、23、8/27)</p> <p><b>【どんぐりプロジェクトとの連携】</b>                  川井浄水場のリニューアルに伴い、敷地内に横浜市の水源である道志村をイメージした森を作るプロジェクトが開始した。その森の一部には、道志村と横浜のさらなる交流を願って、道志小児童と横浜の児童がどんぐりの苗を数年かけて育て、ともに植樹することが予定されている。</p> <p><b>【当日】</b>                  ・参加人数19人(児童13人、引率教員等6人)                  ・児童の誘導、引率、引率教員との調整                  ・活動プログラム                  川井浄水場見学                  万騎が原小学校児童との交流会                  横浜港見学(大栈橋、遊覧船乗船)                  中華街、マリントワー見学                  産業工場見学(日産追浜工場見学)                  人工海岸の見学(海の公園)                  ※宿泊は横浜市野島青少年研修センターを利用</p>		

事業名	自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 市立高校と連携した体験活動の実施		
日時/回数	6月、1月、2月、3月/5回	場所	横浜市野島青少年研修センター、横浜市立みなと総合高校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校
対象	小学4年生～中学3生	参加者	144人(延べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生がこれまでの学習を活かして社会に貢献することで、自らの学びを深める。</li> <li>・横浜市の資源である市立高校を活用し、青少年に体験機会を提供する。</li> <li>・身近な自然環境や、自然科学、社会への参加者の興味関心を高める。</li> </ul>		
実施内容	横浜市立高校と協働し、小中学生を対象とした体験プログラムを実施した。  <b>【連携】</b> 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校 (理科調査研究部、天文部、航空宇宙工学部)  横浜市立みなと総合高校 (地球科学部)	①6/15(日)「発見！横浜の自然」野島海岸の生き物観察 場所：野島青少年研修センター 応募者63人参加者39人(定員40人)高校生15人 内容：干潟での生物採取、観察、発表  ②1/17(土)「みなと☆プラネタリウム」 場所：横浜市立みなと総合高校 応募者37人参加者30人(定員30人)高校生9人 内容：高校生による移動式プラネタリウムの投影、ミニプラネタリウム作り  ③1/25(日)「天文教室」 場所：横浜サイエンスフロンティア高校 応募者49人参加者24人(定員25人)高校生10人 内容：星座早見盤作り、プラネタリウム投影、大型天体望遠鏡の見学  ④2/22(日)「化石教室」 場所：横浜サイエンスフロンティア高校 応募者57人参加者32人(定員40人)高校生14人 内容：高校生の化石クイズ、化石発掘体験、顕微鏡での微化石の観察、発掘した化石のスケッチ  ⑤3/22(日)「プログラミングロボット教室」 場所：横浜サイエンスフロンティア高校 応募者68人参加者19人(定員20人)高校生11人、OB2人 内容：ロボットのプログラミング体験、発表  <b>【総括】</b> どの教室も、毎回高校生がテーマに沿った発表や、資料作りなどに工夫を凝らした企画を用意しているので参加者の満足度は高い。高校生にとっても、自らの学びを整理してわかりやすく他者に伝える機会となっている。	
事業名	困難を抱える青少年のための集団体験活動の実施 わくわく生活体験キャンプ		
日時/回数	2/28(土)～3/1(日) 1泊2日	場所	横浜市野島青少年研修センター/金沢スポーツセンター
対象	市内の寄り添い型支援事業に参加する小中学生	参加者	9人 青年ボランティア3人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守る、場に合った行動をする、といった生活する上での規範意識を身につける。</li> <li>・仲間と協力して取り組むことの大切さに気づき、協力・協調するための人間関係を築く力を育む。</li> <li>・日常生活ではできない体験機会を提供する。</li> </ul>		
実施内容	集団での調理や宿泊体験を通じた生活訓練、社会体験プログラムを実施した。  <b>【連携】</b> 鶴見区、保土ヶ谷区、旭区、泉区、瀬谷区の寄り添い型支援事業、及び事業の運営法人 ※当日の参加は、西区、鶴見区  <b>【協力団体】</b> ※プログラム講師として 海をつくる会、キッズファクトリー	<b>【事前準備】</b> ・各区の寄り添い型支援施設への事前アンケート(連携して実施する上での課題の調査) ・研修センターとの打合せ(プログラムや利用の調整) ・他の寄り添い型支援施設との調整  <b>【当日】</b> 1日目：食材買出し～海苔づくり体験～調理実習～ナイトウォーク～洗濯・アイロン体験～入浴～就寝 2日目：調理実習～弁当づくり～ミニスポーツ大会  <b>【事後】</b> 参加した寄り添い型支援施設スタッフへのアンケート  ※当事業は、よこはまユースの特定寄附金を財源に実施した。 ・特定寄附金額：48,000円	

平成26年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

放課後事業課総合評価:c 82/120 68%

(※)①:継続 ②:改善継続 ③:転換 ④:移管 ⑤:休止 ⑥:廃止

事業の柱 / 公益目的事業区分		事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント
		ランク	得点 (30点満点)			
A 青少年活動を支援する事業	え 相談助言	c	18/30 (60%)	②	・はまっ子・キッズ交流事業は、放課後キッズクラブへの転換が決まっている、はまっ子ふれあいスクールのチーフパートナーの不安を解消する事業となった。	・はまっ子・キッズ交流事業は、放課後キッズクラブへの転換が決まっている、はまっ子ふれあいスクールのチーフパートナーの不安を解消する事業となり、市の放課後児童育成施策推進の一助になっている。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	c	19/30 (63%)	②	・放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修は、これまでの放課後キッズクラブ運営を通して蓄積した法人のノウハウを十分に発揮して大変充実した事業になっている。 ・放課後3事業ボランティア研修は、法人が運営する放課後キッズクラブを実習の場として活用することにより、ボランティア活動への継続的な参加に繋がる人材の発掘ができた。	・放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修は、これまでの放課後キッズクラブ運営を通して蓄積した法人のノウハウを十分に発揮して大変充実した事業になっている。 ・放課後3事業ボランティア研修は、法人が運営する放課後キッズクラブを実習の場として活用することにより、ボランティア活動への継続的な参加に繋がる人材の発掘ができた。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動	b	21/30 (70%)	②	・18か所(16区)の放課後キッズクラブのうち平成26年度は7か所すべて再選定された。 ・3月に新たに5か所の運営が決まり、合計23か所(16区)の放課後キッズクラブを運営している。 ・平成27年度は、更に4月開設の1か所を加え合計24か所(16区)を運営することになった。 ・運営スタッフの人材確保が課題となっている。	・放課後キッズクラブの安定的な運営に向け、放課後事業課職員が実際現場に向いてサポートをしている。法人が運営するすべての放課後キッズクラブの安定的な運営を図るためのコストの捻出が課題となっている。
経営・業務姿勢		b	24/30 (80%)		・放課後キッズクラブ運営法人として、担っている現場の効率的・安定的な運営を目指し、取り組んだ。 ・独自の研修による人材育成、情報交換を通じたネットワークの推進等に意欲的に取り組み、中間支援組織としての機能を発揮した。	・新たなキッズクラブ6箇所の運営に応募し、応募キッズすべての運営を任せられることになり、これまでの運営実績が大きく評価される結果となった。 ・放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修が充実している。
総合		c	82/120 (68%)			
評価の目安		評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人			5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施	
総合評価ランク (評価点得点率)		a=85%以上 b=70%~84% c=50%~69% d=40%~49% e=39%以下			評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)	

A：青少年活動を支援する事業 え：相談助言

事業名	はまっ子・キッズ交流事業 知りたい!聞きたい!キッズクラブのエトセトラ		
日時/回数	6/13(金)10時~11時45分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	はまっ子ふれあいスクールチーフパートナー	参加者	18人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「放課後キッズクラブ」への転換に関して、はまっ子ふれあいスクールのスタッフがどんなことに戸惑いを感じているのかを把握する。</li> <li>・把握した不安要素を、次回以降の交流事業の事業計画に反映する。</li> </ul>		
実施内容	<p>・経験者から、放課後キッズクラブへの転換が確定してから開設までの流れや、はまっ子ふれあいスクールチーフの役割(業務)、苦心したことについて、話を聞いた。</p> <p>・参加者同士、転換に対する不安や戸惑いを共有した。</p> <p><b>【参加申込み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11区(うち都筑区5か所)/18区</li> <li>・放課後キッズクラブ転換確定校6か所(うちNPO立ち上げ2か所)/17か所</li> </ul> <p><b>【ゲスト】</b></p> <p>山口 まき子 氏(権太坂小放課後キッズクラブ主任指導員) 田辺 美代子 氏(岡村小放課後キッズクラブ主任指導員)</p> <p><b>【事前周知】</b></p> <p>こども青少年局に依頼し、全はまっ子ふれあいスクールへ、メール添付によりチラシを送付。</p> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はまっ子ふれあいスクールチーフパートナーから放課後キッズクラブ主任指導員になったゲスト2人による、転換当時の体験談。</li> <li>・はまっ子ふれあいスクールとキッズクラブ、運営面の違いに関するQ&amp;A「転換時、不安だったこと」「スタッフ配置数」「雇用形態」「NPO認定までの期間」に関する質問の他、「プログラムをあんなに数多くできるか」「近隣の学童をつぶすことになるのではないか」という不安が聞かれた。</li> <li>・今年度中の転換が決まっている6か所のチーフの発表一人ずつ転換決定の経緯と課題を発表し、参加者で共有。「保護者にキッズ転換理由を説明できない」という声もあった。</li> </ul>		
事業名	はまっ子・キッズ交流事業 知りたい!聞きたい!キッズクラブのエトセトラ スタッフのお仕事編		
日時/回数	7/4(金)10時~12時15分	場所	秋葉小キッズルーム
対象	はまっ子ふれあいスクールチーフパートナー	参加者	7人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「放課後キッズクラブ」への転換に関して、はまっ子ふれあいスクールのスタッフがどんなことに戸惑いを感じているのかを把握する。</li> <li>・把握した不安要素を、次回以降の交流事業の事業計画に反映する。</li> <li>・同じ立場のはまっ子ふれあいスクールスタッフ同士、戸惑いや不安を共有する。</li> </ul>		
実施内容	<p>・第1回実施を基に、定員を少人数に設定することで、参加者個々人の声を受け止めた。</p> <p>・参加者それぞれが、はまっ子ふれあいスクールの状況、環境、課題を発表し、お互いに抱えている不安や戸惑いを共有することができた。</p> <p>・はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの運営内容の違いを確認した。</p> <p><b>【参加申込み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5区(南、戸塚、栄、金沢、旭) 秋葉小放課後キッズクラブのある戸塚区からは2か所が参加。</li> </ul> <p><b>【ホスト】</b></p> <p>伊藤 宏子 氏(秋葉小放課後キッズクラブ主任指導員)</p> <p><b>【事前周知】</b></p> <p>こども青少年局に依頼し、全はまっ子ふれあいスクールへ、メール添付によりチラシを送付。</p> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋葉小キッズルームの見学</li> <li>・受付、キッチン周りの備品類について撮影、質問など。</li> <li>・参加者からはまっ子ふれあいスクールの状況、課題等を発表</li> <li>・秋葉小放課後キッズクラブ 主任指導員から説明 日々のスタッフの業務について、具体的な事例を示しながら話をした。</li> <li>・はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの違いに関するQ&amp;A 参加者の関心が高く、当初の予定時間を延長して実施。スタッフ配置数、スタッフの業務内容など、放課後キッズクラブに変わることへの不安から、アシスタントパートナー(時給スタッフ)の間での「うわさ」話が気にかかるという発表もあった。</li> </ul>		

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 子どもの心を聴く・保護者との対話を深めるコミュニケーションのヒント		
日時/回数	10/31(金)9時45分～11時45分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	44人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が放課後の活動に関心を持ち応援してもらえるように、共感を生み出す伝え方を学ぶ。</li> <li>・子どもや保護者との「話せる関係づくり」に大切な相手の気持ち、感情を受け止める姿勢を学ぶ。</li> <li>・本研修で学んだことを活かし、放課後事業がより充実するように子どもや保護者との関わりを深める。</li> </ul>		
実施内容	<p>・共感を得、話せる関係づくりのヒントとして、自分の(否定的)感情をがまんするのではなく、伝え方によって変えられることを学んだ。</p> <p>・自分の職場に持ち帰り、他のスタッフとも一緒に実践できるワークショップを実施した。</p> <p>講師：塚原 泉氏 (神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ施設長)</p> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク：「カラダほぐしココロほぐし」</li> <li>・ワークショップ： <ul style="list-style-type: none"> <li>「聴く」：話の内容や相手の感情をていねいに聞き取る態度、受容。</li> <li>「気持ち」とのつきあい方：「喜び」「怒り」「緊張」などの11の感情を自分流に消化していくこと、いろいろな気持ちを言葉で伝えること。</li> <li>「わたしメッセージ」：「要望」と「本心」の明確化。非攻撃的に伝えるスキル。</li> </ul> </li> <li>・まとめ：「自分自身のケアの大切さ」</li> </ul>		
事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 共感からはじまり、結果を求めない…子どもに寄り添う		
日時/回数	11/27(木)9時45分～11時45分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	41人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもに寄り添う」とはどういうこと何かを考えるきっかけにする。</li> <li>・日頃の子どもの対応を振り返り、放課後事業に携わるスタッフの役割を再確認する。</li> <li>・現場支援に向けて、3事業や運営団体の“カベ”を越えて実施する。</li> </ul>		
実施内容	<p>・子どもに寄り添う姿勢を振り返り、書き出すことで“見える化”した。</p> <p>・グループワークと講師の体験談をとおして、いろいろな視点で「子どもを観る」「受け止める」こと、「育っていく主体である子どもに共感することの大切さ」を学んだ。</p> <p>・常勤職員1～2人という職場(シフト勤務)で、スタッフ間の共有の大切さを再確認した。</p> <p>講師：峯尾 真一氏 (特定非営利活動法人夢・とんぼ 事務局長/ 放課後キッズクラブ事業 統括指導員)</p> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の話：「子どもにとって放課後って?」</li> <li>・グループワーク(1グループ4～5人、全グループ) <ul style="list-style-type: none"> <li>子どものやってみたくって?</li> <li>親の求めるものは?</li> <li>具体的にどんな「場」であつたらいいのか。</li> <li>「場」にいる大人(スタッフ)はどうあつたらいいのか。</li> </ul> </li> <li>・発表(参加者間での共有)と講評</li> <li>・講師の体験談、質疑</li> </ul>		
事業名	放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 保護者との関わり方のコツ		
日時/回数	12/13(土)9時45分～11時45分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	13人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対応に戸惑う参加者の不安な気持ちを軽減する。</li> <li>・マニュアル化されない(参加者それぞれの自分らしさを活かした)保護者との関係性づくりを学ぶ。</li> <li>・保護者を運営にまきこめる関係づくりのコツやポイントを知る。</li> </ul>		
実施内容	<p>・悩みを共有しながらワークを行った。</p> <p>・実際に体験しながら保護者と信頼関係をつくるスキルを身に付けた。</p> <p>・放課後事業を運営していくための関わり方のコツやポイントを学んだ。</p> <p>講師：児玉 政徳氏 (横浜市立瀬谷中学校校長)</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師との打ち合わせ(2回)と日程調整</li> <li>・研修の広報、参加者集約</li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付、研修の運営、アンケートの実施</li> <li>・研修内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>アイスブレイク</li> <li>いまどきの子どもたち・親たちについて報告</li> <li>ワーク「聞かない練習、聴く練習」他</li> <li>子どもとの接し方、保護者との接し方</li> <li>保護者と接するときの心構え</li> <li>まとめと質疑応答</li> </ul> </li> </ul> <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集計、講師との振り返り</li> </ul>		

<b>事業名</b> 放課後3事業従事スタッフの人材育成、研修の充実 心に届く！活きた「伝え方」			
日時/回数	1/22(木)9時45分～11時45分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後3事業従事スタッフ	参加者	55人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市の放課後事業に従事するスタッフのスキルアップを図る。</li> <li>・具体的なフレーズ、言葉、声掛けを身に付ける。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の講義とワークを実施した。</li> <li>・子どもと信頼関係を築き、子ども自身が育っていくような伝え方を学んだ。</li> <li>・実践で活かせる力を身につけた。</li> </ul> <p>講師：出口 晴基 氏 (横浜市立あざみ野第二小学校校長)</p> <p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師との打ち合わせと日程調整</li> <li>・研修の広報、参加者集約</li> </ul> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付、研修の運営、アンケートの実施</li> <li>・研修内容 パワーポイントとレジュメを使った講義 3人1組でグループワーク ケーススタディ</li> </ul> <p>まとめ</p> <p><b>【事後】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集計、講師との振り返り</li> </ul>		
<b>事業名</b> 放課後3事業ボランティア研修 放課後キッズクラブボランティア体験			
日時/回数	7/26(土)～8/30(土)	場所	当法人が運営する放課後キッズクラブ10か所 横浜市青少年育成センター
対象	神奈川県内の高校生、大学生、専門学校生	参加者	19人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後キッズクラブへの継続的な参加につながる人材を発掘する。</li> <li>・放課後キッズクラブを学生の職業に対する理解や関心を深める場とする。</li> <li>・学生自身の適性や未来を考えるきっかけとする。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動は当法人が運営する10か所の放課後キッズクラブで実施した。</li> <li>・昨年度、広報期間が短かったことを考慮し、今年度は2か月前から実施した。また大学のボランティアセンターに行き、直接広報を行った。</li> <li>・参加者は高校生14人、大学生2人、専門学校生2人、浪人生1人の計19人であった。</li> <li>・人材育成の視点から継続性を重視し、ボランティアの目標を引き出し、達成感を得るように担当職員が関わった。</li> </ul> <p><b>【広報】</b></p> <p>横浜市内の高校、大学、大学ボランティアセンター(明治学院大学、神奈川大学)、横浜市ボランティアセンター、図書館、専門学校の計155か所にチラシを送付</p> <p><b>【事前】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前説明会(ガイダンス) ※同一内容で2回実施 7/19(土)17時～19時、7/23(水)10時～12時 活動の内容説明、目的理解、放課後キッズクラブの理解、動機アンケート、登録票提出、希望調査、注意事項、悩んだときの対応、今後の予定、保護者許可の確認</li> </ul> <p><b>【実習】</b> (一人3日間以上、1回4時間程度子どもと関わる実習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動期間：7/26(土)～8/23(土)</li> <li>・毎回の振り返りシートと感想記入</li> <li>・本部職員が最低1回は、振り返りに参加</li> </ul> <p><b>【事後】</b> 体験の共有を兼ねた交流会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り交流会：8/30(土)10時～12時 参加者9人</li> <li>・活動レポートをホームページに掲載</li> </ul>		

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動

<b>事業名</b> 放課後キッズクラブの運営			
日時/回数	通年/18か所	場所	横浜市立小学校内
対象	小学生	利用者	265,885人(18か所延べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通いながっている小学校の施設を活用して、すべての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。</li> </ul>		
実施内容	<p><b>【放課後キッズクラブ事業(18か所)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人運営18か所の放課後キッズクラブで、在籍児童の52.4%(18か所の平均値)が登録しました。</li> <li>・年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,231人、総計265,885人が利用し、実施したプログラム数は毎月1キッズ平均約19.1回、年間総計4,174回、延べ88,689人が参加した。</li> </ul> <p><b>【会議、スタッフ研修等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議会(運営を客観的に評価・検証するとともに、地域への理解と協力を図ることを目的に、キッズ毎に年2回開催)</li> <li>・保護者会(運営に保護者の意見を反映するとともに、保護者への理解と協力を促すことを目的に、キッズ毎に年2回以上開催)</li> <li>・主任会議、指導員会議、スタッフ研修を実施</li> </ul>		

【各放課後キッズクラブの状況】 (区名50音順)

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数	登録 人数	延べ参加 児童数	プログラム 実施数	プログラム 参加人数	主なプログラム
青葉区	すすき野	259	113	6,250	295	4,384	グランドゴルフ/ドッジボール/トスペース/キッズ 菜園/キッズシアター/ハンドベル/工作/囲碁将棋/探検ゲーム/手芸/料理/はたおりクラブ/お花見ランチ/オンリーワン など
旭区	笹野台	613	321	15,455	353	6,343	スポーツチャンバラ/ドッジボール/みかん狩り/あみもの教室/アイロンビーズ /ミサンガ /ソフトテニス教室/フラワーアレンジメント/リパブルFCのサッカー教室 など
磯子区	岡村	354	200	11,643	224	3,818	フラダンス同好会/ドッジボール同好会/地域探検/横浜マイスター親子でウイナーづくり/親子木工教室/紙飛行機/グランドゴルフ/シャボン玉/手芸/工作/誕生会/料理 など
神奈川区	浦島	411	226	14,948	258	4,370	ドッジボール/将棋/3B体操/スポーツ教室/ボードゲーム/カブラ/料理/映画上映会/手芸/工作/お話し会/プラレール/ハロウィン など
金沢区	能見台	508	286	14,949	284	4,591	サッカー教室/3B体操/チャレンジデー/オセロ大会/ミニツリーづくり/親子キッズキッチン/海苔づくり体験/親子アロマ教室/中央公園で遊ぼう/DVD鑑賞会/フラワーアレンジメント など
金沢区	瀬ヶ崎	456	261	11,844	156	2,322	ドッジボール/瀬ヶ崎探検隊/紙芝居/囲碁将棋/3B体操/おいしい研究室/紙バック工作/シカケ屋/フラワーアレンジメント/海苔づくり体験/-3度作戦 など
港南区	港南台第三	290	171	11,128	232	4,671	キッズクラブ探検隊/ブラバン/もちつき大会/クワガタ研究会/工作/囲碁・将棋/親子木工教室/おりがみ教室/セタンチ/アイロンビーズ /ミニシアター/お楽しみ映画会 など
港北区	日吉南	827	364	17,525	208	4,995	キッズバスケット/長縄跳び/アイロンビーズ/ドッジボール/クリスマスイベント/読み聞かせ/ビデオテー/キッズ工房/シャボン玉/科学実験/お手玉で遊ぼう/横浜FCと遊ぼう など
栄区	桜井	328	225	12,958	173	3,474	ドッジボールクラブ / パネルシアター/サッカー教室/バドミントン/トーンチャイム/囲碁・将棋教室/茶道教室/野島キャンプ/ブラバン/海苔づくり体験 など
瀬谷区	南瀬谷	854	299	15,194	197	7,938	ジグソーパズルをしよう/バドミントンクラブ/いずみ川探検/カブラ遊び/おはなしボンボン/まंगाの日/わくわく緑日/かるた大会/粘土遊び/オセロ/海苔づくり体験 など
都筑区	折本	763	323	15,209	206	2,981	ドッジボール/スポーツチャンバラ/アイロンビーズ/将棋の日/ハロウィンウォーク/ヨット乗船会/おはしの達人/あみもの教室/天体観測 など
鶴見区	寺尾	672	334	16,509	209	4,911	クライミング体験/ドッジボール/餅つき/フラダンス教室/茶道/切り絵/ヨット乗船会/花火大会/スケート/料理/ミサンガ/キッズ 屋台 など
戸塚区	秋葉	655	438	21,820	342	7,986	スポーツチャンバラ/バドミントン/ドッジボール/大縄跳び/花壇づくり/ショップデー/スポーツ鬼ごっこ/編み物/料理/フラダンス/みかん狩り/ヨット乗船会 など
戸塚区	名瀬	539	363	17,012	205	6,869	科学実験/ドッジボール/サッカー/バドミントン/おやつ工房/DVD鑑賞/キッズ映画館/キッズ工房/囲碁教室/大縄跳び/勾玉づくり/折り紙/かけっこ教室 など
中区	本町	667	250	14,424	158	2,599	実験工作/ドッジボール/ボードゲーム道場/かんたん工作/お母さんのお話し会/海苔づくり体験/折り紙教室/きずな夏祭り/ふしぎラボ など
西区	宮谷	957	421	21,528	195	5,219	横浜FCと遊ぼう/キッズシアター/ミュージックスクール/スカッドボーイ/水墨画教室/生け花教室/キッズダンス/ズーラシアに行こう/オセロ教室/3B体操/親子料理教室 など
緑区	長津田	720	354	17,221	279	7,302	野球教室/ドッジボール/農業クラブ/キッズキッチン/ハロウィン/演奏会/絵本ライブ/紙芝居/おやじの会イベント/工作/いちご狩り/ブラバン など
南区	太田	276	163	10,268	200	3,916	ボウリング大会/風船バレー/バドミントン/ドッジボール/手芸・工作教室/映画にこう/アイロンビーズ/おやつ工房/リアン/ブラバン/ボードゲーム など
18か所計		10,149	5,112	265,885	4,174	88,689	

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数	登録 人数	延べ参加 児童数	プログラム 実施数	プログラム 参加人数	主なプログラム
栄区	飯島	674	352	845	19	279	ブラバン/折り紙/粘土工作/塗り絵 など
瀬谷区	瀬谷さくら	449	214	532	7	107	ブラバン/ミサンガ/一輪車/折り紙/コマ回し/ドッジボール など
戸塚区	上矢部	691	354	828	5	105	ドッジボール/アイロンビーズ /折り紙教室/ブラバン など
南区	永田	510	233	690	11	179	折り紙教室/工作/コマづくり/ピンゴ大会/寄席/読み聞かせ/カブラ など
南区	南	475	181	366	6	99	読み聞かせ/魚釣りゲーム/絵合わせゲーム など
5か所計		2,799	1,334	3,261	48	769	※5校については、3月のみの1か月の集計

【平成 26 年度 放課後キッズクラブ運営法人再選定の結果(平成 17 年度開設 7 校)】

区	キッズ名	再選定検討会	再選定決定通知
鶴見区	寺尾小放課後キッズクラブ	8/28(木)	10/17(金)
西区	宮谷小放課後キッズクラブ	8/26(火)	9/29(月)
中区	本町小放課後キッズクラブ	7/30(水)	10/10(金)
磯子区	岡村小放課後キッズクラブ	7/24(木)	8/5(火)
港北区	日吉南小放課後キッズクラブ	9/10(水)	H27/1/13(火)
青葉区	すすき野小放課後キッズクラブ	10/9(木)	11/27(木)
栄区	桜井小放課後キッズクラブ	8/20(水)	10/7(火)

事業名	地域連携モデル事業		
日時/回数	12/6(土)、1/12(月)、15(木) 3回	場所	秋葉小学校他2か所の放課後キッズクラブ
対象	放課後事業(放課後キッズクラブ)の関係者		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の団体や人材、地域特性等の資源を活用することで、より地域に根差したキッズクラブを目指す。</li> <li>・各キッズクラブで実施している地域連携プログラムを発信・共有し、各キッズクラブ間の地域連携事業を促進する。</li> <li>・事業実施に向けた課題を把握する。</li> </ul>		
実施内容	<p>&lt;事業内容の変更&gt;</p> <p>すでに各キッズクラブで実施されている地域連携プログラムの実績を活かし、3月に新たに開設した5つのキッズクラブにおいてキッズクラブお披露目会のような地域の人を招いたプログラムを計画していた。2月から開設準備に取り組んだところ双方にプログラムを実施する余力がなく、結果として実施するには至らなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員会議で「地域」をとりあげた発表を実施し、キッズ間で共有した。</li> <li>・複数のキッズクラブから具体的な事業内容についてのヒアリングを実施し、外部に発信した。</li> </ul>	<p>【地域についての発表】</p> <p>年4回の指導員会議のなかで18か所のキッズクラブについて、それぞれの地域特性や地域資源、今地域としているプログラム等を発表し、キッズクラブ同士で共有した。</p> <p>⇒昨年度末に実施したアンケートや上記の発表から、すでにそれぞれ地域と連携した事業・プログラムを実施していることが明らかになった。</p> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①秋葉小学校放課後キッズクラブヒアリング 12/6(土) 対象：伊藤主任指導員 内容：キッズフリーマーケットについて他</li> <li>②太田小学校放課後キッズクラブヒアリング 1/12(月) 対象：松崎主任指導員 内容：空き缶みこしについて他</li> <li>③岡村小学校放課後キッズクラブヒアリング 1/15(木) 対象：田辺主任指導員 内容：紙飛行機大会について他</li> </ul> <p>【発信】</p> <p>ヒアリング内容を元にYOKOHAMA EYE'Sで紹介し、外部に向けて発信した。</p>	
事業名	放課後キッズクラブ新規運営の拡充		
日時/回数	通年		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての子どもたちに放課後の安心・安全な「遊びの場」を提供する。</li> <li>・増加する留守家庭児童のうち、必要とする児童に19時までの「生活の場」を提供する。</li> <li>・外郭団体として、市の施策推進の一助を担う。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度新規開設(平成27年3月)の放課後キッズクラブ5か所および平成27年度新規開設(平成27年4月)の放課後キッズクラブ1か所の運営法人に応募した。</li> <li>・各区の法人選定委員会(プレゼン・ヒアリング)を経て、応募した6か所について、当該区長により運営法人として選定された。</li> <li>・はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへ転換にあたり、児童、保護者、学校、スタッフ等の不安を軽減とスムーズな転換に取組んだ。</li> </ul>	<p>【運営法人に選定された放課後キッズクラブ】</p> <p>平成27年3月開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南小学校放課後キッズクラブ(南区)</li> <li>・永田小学校放課後キッズクラブ(南区)</li> <li>・上矢部小学校放課後キッズクラブ(戸塚区)</li> <li>・飯島小学校放課後キッズクラブ(栄区)</li> <li>・瀬谷さくら小学校放課後キッズクラブ(瀬谷区)</li> </ul> <p>平成27年4月開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十日市場小学校放課後キッズクラブ(緑区)</li> </ul>	

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント
	ランク	得点 (30点満点)			
D その他 法人目的 達成のため の事業	c	16/30 (53%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「爆笑！濱っ子寄席」、「平成27年 新春のつどい」とも成功裡に終えたが、両事業とも参加者を更に増やしたい。</li> <li>・寄附金、賛助会員に関する業務は賛助会員対象の事業を実施することができた。</li> <li>・よこはまユースレター、ホームページ等法人事業情報の発信に関しては、今後も読みたくなる・興味を持てるよう内容の充実を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人への理解・協力者の確保等を目的に、寄附金募集事業や情報紙等発行に取り組んだ。</li> <li>・「爆笑！濱っ子寄席」、「新春のつどい」はいずれも盛況であった。</li> <li>・寄附金、賛助会員に関する業務は賛助会員対象の事業を実施することができた。</li> </ul>
経営・業務姿勢	c	19/30 (63%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・賛助会員対象の事業を実施することができた。</li> <li>・法人全体を常に見渡し、職員育成、管理運営体制の改善に取り組んでいる。</li> <li>・法人の総合的な広報宣伝計画が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の屋台骨である庶務・経理など、日常の業務を支える役割を担いつつ、賛助会員及び一般寄附者の拡充を図るための工夫がされている。</li> </ul>
総合	c	35/60 (58%)			

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) <b>【評価委員】</b> 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	--	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

平成26年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

総務課

D：その他法人目的達成のための事業

事業名	青少年育成寄附金募集事業 第54回 爆笑！濱っ子寄席 (収益事業会計)		
日時/回数	11/14(金)	場所	関内ホール 大ホール
対象	市民	参加者	875人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人事業について企業や連携団体等に対し協理理解を促す。</li> <li>・賛助会員をはじめ、市民の方々に事業を理解していただき寄附金を募る。</li> </ul>		
実施内容	<p>青少年育成事業実施の原資(寄附金)の募集を目的として、伝統芸能である落語を通して、楽しみながら青少年育成を支援する機会として寄席を実施した。</p> <p>実施にあたり、実行委員会を設置して企画・運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入場料：S席3,000円 A席2,500円</li> <li>・主催：横浜中法人会、よこはまユース</li> <li>・共催：こども青少年局、横浜青年会議所</li> <li>・協賛企業：48社</li> </ul> <p>【後援】</p> <p>横浜金沢ロータリークラブ 横浜港南台ロータリークラブ 横浜みなとみらいライオンズクラブ 横浜南ロータリークラブ 横浜ロータリークラブ</p>	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の開催(3回)</li> <li>・出演者調整、広報など実施までの運営事務</li> <li>・協賛広告、観客の募集と調整</li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チケット販売数 683枚(昨年度673枚)</li> <li>・チケット売上金額 1,879,500円(昨年度1,854,500円)</li> <li>・当日入場者数 737名(昨年度717名)</li> <li>・当日募金額 42,467円(昨年度81,310円)</li> <li>・寄席演芸(出演者：柳家権太楼、三遊亭歌之介、ナイツ 他)</li> <li>・募金活動</li> </ul> <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告(決算含む)と実行委員会による反省会実施</li> <li>・次年度下準備(会場押え、出演者窓口打ち合わせ、等)</li> </ul>	
事業名	法人の広報・PR よこはまユースレターの発行		
日時/回数	季刊発行 (7月、9月、12月、3月：4回)	体裁	A4版、カラー両面印刷
対象	継続寄附者、事業協力者、施設来館者等	部数	各回10,000部(秋号(9月)は11,000部)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の活動をカラー写真やオリジナル取材記事でPRする。</li> <li>・法人活動に関心・理解を持っていただき、寄附金募集効果を高める。</li> <li>・寄附金等の活用実績および報告を行う。</li> </ul>		
実施内容	<p>法人事業を紹介する情報紙を発行した。</p> <p>取材、制作、編集は法人内で行い、印刷のみ外部に業務委託した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人事業、指定管理施設事業等法人運営に関する活動を、カラー写真やオリジナル取材記事によって知らせる情報紙を作成し、継続寄附者、事業協力者、各施設来館者学校関係、地区センター等に配布。</li> <li>・通常の活動の他、寄附金等の活用実績および報告も行いPRする。</li> </ul>	
事業名	法人の広報・PR 法人ホームページの維持・管理		
日時/回数	通年		
対象	市民	アクセス数	315,874件(トップページアクセス数)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人全体の広報戦略の一環としてインターネットを活用しさまざまな情報を発信する。</li> <li>・各施設や部門における事業をアピールし、参加者増加につなげる。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施事業やイベントの告知とレポート掲載</li> <li>・ホームページの情報更新やメンテナンス</li> <li>・求人情報や決算情報等の公開</li> <li>・各施設、部署間の情報連携による広報の相乗効果を生み出す</li> <li>・多様な閲覧者への積極的な対応</li> <li>・アクセス数向上対策の実施</li> </ul>	<p>【更新回数】</p> <p>法人全体で1000回を超え、当初想定していた更新回数を大幅に上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ担当者ミーティングの実施⇒6月</li> <li>・広報の考え方や簡単な検索サイトによる上位表示対策など、各施設の担当と情報を共有した。</li> <li>・法人全体のモバイル閲覧向けページを7/10に新設</li> <li>・放課後キッズクラブにおける求人募集について、ホームページからの申込ルートの新設。</li> <li>・新たな分析ツールを3月に導入(GoogleAnalytics)</li> </ul>	
事業名	賛助会員及び一般寄附者の拡充		
日時/回数	通年		
対象	市民	場所	市内全域
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人活動への関心、理解を促す。</li> <li>・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄附金の管理(経理・運用)</li> <li>・会員・寄附者データベースの管理</li> <li>・よこはまユースレター(別紙)</li> <li>・第54回 爆笑！濱っ子寄席(別紙)</li> <li>・新春のつどい(別紙)</li> <li>・募金箱の管理(休止中)</li> <li>・賛助会員向け事業実施(別紙)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賛助会費及び寄附金の入金管理及びデータベースの管理</li> <li>・賛助会員及び寄附者の掲載(よこはまユースレター等)</li> <li>・濱っ子寄席での募金活動及び収益の繰り入れ</li> <li>・新春のつどいでの募金活動</li> <li>・運用活動報告のチラシ作成</li> <li>・寄附金募集案内等の発送(目論見書、賛助会員、事業協力者に配布)</li> <li>・職員向けの寄附募集事業の理解(募金目論見書で職員へ周知)7月実施</li> <li>・賛助会員・寄附金状況(平成27年3月31日現在) 団体 80件 個人 427件 1,248,917円 (団体 86件 個人 321件 1,134,599円 昨年度実績)</li> <li>・寄附金受領証明書発行、発送</li> </ul>	

<b>事業名</b> 賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員限定 陶芸教室			
日時/回数	3/8(日)、3/22(日)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	賛助会員、一般寄附者	参加者	12人
事業目的	・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得。 ・運営施設を活用したイベントを実施することで、寄附金の使途や成果、実績を賛助会員に確認していただく機会を設け、寄附者の満足度を高める。		
実施内容	賛助会員を対象とした陶芸教室を実施した。  講師：須藤義明、安楽和彦、鳥海正次 (野島町内会館で陶芸教室主催)	<b>【事前準備】</b> ・講師依頼、講師との打ち合わせ ・チラシの配布 (寄附金受領証明書と合わせてチラシを賛助会員に配布) <b>【当日】</b> 3/8日(日)13:30~16:30 陶芸作品の制作、会費・寄附金の使途に対するPR/アンケートの実施 3/22日(日)13:30~15:00 わら掛け <b>【事後対応】</b> ・作品の乾燥(1週間程度)、本焼きを行った。 ・完成後、参加者引き取り依頼をし、対応した。	
<b>事業名</b> 平成27年 新春のつどい			
日時/回数	1/28(木)18時30分~20時30分	場所	ホテル横浜ガーデン
対象	賛助会員及び寄附金・事業協力者、関係者	参加者	108人
事業目的	・新たな事業展開を行っている当法人をアピール及び寄附金募集(案内)の場とする。 ・関係機関団体寄附者・法人関係者・法人職員相互の交流・親睦を図り、情報交換の場とする。 ・よこはまユースを支えていただいている方々への感謝の意を表す。		
実施内容	・賛助会・寄附金制度の紹介・報告 ・事業報告・職員紹介 ・賀詞交換、寄附者・関係者・職員相互の親睦 ・感謝状の贈呈 ・事後の実施状況報告 ・アトラクション	・プロジェクターを使い、各種事業紹介。 ・立食式パーティーで、賀詞交換、寄附者・関係者の親睦を図った。 ・永年寄附者・事業協力者に対する感謝状の贈呈。 永年：個人4人、団体4件 事業協力者：個人11人、団体13件 ・事後、「ホームページ」、「よこはまユースレター」等で実施状況報告し、感謝の意を表すと共に、さらに法人への協力をアピールした。 ・施設利用者によるアトラクション 獅子舞、駒回し(倉谷仙太郎と横浜やっしや鯛) 「倉谷仙太郎」と「横浜やっしや鯛」：横浜市青少年交流センターで、青少年を対象に太鼓や駒などの日本の伝統芸を指導している。 ミュージカル(風雲かぼちゃの馬車) 「風雲かぼちゃの馬車」：横浜市青少年交流センターで、練習を重ねている子どもを対象に事業にもご協力している。	
<b>事業名</b> 法人職員の人材育成			
対象	法人職員(時給職員を除く)		
実施内容	《研修》 新採用職員研修/人権研修/個人情報保護研修/外部研修に参加  《3団体相互事業評価》 <b>【実施内容】</b> 都市規模や事業内容等が類似する団体の職員が集まり、言語化や数値化が難しいとされる、青少年支援関係事業における適切な評価指標や評価フォーマットを探るとともに、青少年支援関係職員に必要とされる専門性や、その養成方法を検討した。 ※子ども・若者支援専門職養成研究所(平成25~28年度科学研究費補助金)の研究の一環として実施。  <b>【参加団体と調査日程】</b> ・(公財) よこはまユース 6/6(金)~7(土) ・(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 9/10(水)~12(金) ・(公財) 京都市ユースサービス協会 11/27(木)~29(土) ＊職員3人が各地で実施された研究会に参加し、調査・検討した。 ＊まとめは平成27年度に実施。		

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント	
	ランク	得点 (30点満点)				
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設貸与	b	24/30 (80%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率、利用料金収入とも増加傾向にある。</li> <li>・利用促進事業は親子連れが多く来場し、稼働率・利用人数の増加が図れた。</li> <li>・利用促進に向けた取り組みでは、利用促進チラシの発送や講座参加者へのPRを積極的に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率・利用料金収入とも対前年度比で向上している。</li> <li>・気持ちよく利用できるよう、窓口対応、速やかな室内小破修繕など努力している。</li> </ul>
	え 相談助言	c	18/30 (60%)			
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー 育成	b	24/30 (80%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材養成研修・スキルアップ研修とも体系的に整理され実施されている。</li> <li>・シリーズ講座を部分参加も可とするなど事業に参加しやすくする工夫があった。</li> <li>・若手社会人対象の講座・研修は、参加者の確保が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修体系に基づき、計画的に研修・講座を提供している。2年目、3年目事業では、開催方法に工夫を加えるなどPDCAサイクルに沿って事業が成長している。</li> </ul>
経営・業務姿勢	b	22/30 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率向上、利用者の視点に立った施設管理に常に取り組んでいる。職員全員に應對マナーが行き届いている。</li> <li>・青少年に関わる大人を対象とする人材育成について、適切にニーズを把握し研修を企画実施している。</li> </ul>			
総合	b	88/120 (73%)				

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	---	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

A：青少年活動を支援する事業 あ：施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年、指導者・育成者、市民	件数	4,869件
事業目的	・いつでも安定的、かつ充実した活動(会議、印刷等)ができる環境を提供することで、青少年育成活動の拠点および事務所機能を支援する。		
実施内容	<p>・青少年育成活動団体を支援するための会議・研修室や、活動に必要な備品や機材の管理・貸出しを行った。</p>	<p><b>【予約受付・管理運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・研修室等の利用受付及び貸出し／着ぐるみの貸出しやプリントルームの運営</li> <li>・データベースによる予約管理／利用統計の作成、分析 など</li> <li>・《新規取組》8月より、HP上で抽選予約後の研修室空き情報の公開を開始</li> </ul> <p><b>【施設の維持管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和室の畳の張り替え(2月)。</li> <li>・壁紙張り替えなどの小破修繕の実施(随時)。</li> </ul> <p><b>【防災に関する取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月、3月に避難誘導訓練を実施。9月AED講習会を実施。実施の様子をHPに報告。</li> <li>・3月に中区防災訓練(帰宅困難者受入れ)に担当者と所属長が参加した。</li> </ul> <p><b>【要望にあった活動支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズと満足度を確かめるために、11月に施設利用者対象のアンケートを実施した。結果はHPに公開した。</li> </ul> <p><b>【利用実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体数：426件(昨年度：405件)</li> <li>※内訳) 青少年：43団体／育成団体：76団体／一般：307団体</li> <li>・利用件数：5,020件(昨年度：4,709件)</li> <li>・印刷件数：550件(昨年度：535件)</li> <li>・稼働率(当日キャンセル除く)：71.9%(昨年度：69.4%)</li> </ul>	
事業名	利用促進に向けた取り組み 「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング！～」		
日時/回数	8/19(火)、20(水)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	横浜市在住の小学生、中学生とその保護者、団体指導者	参加者	874人
事業目的	<p>・利用促進事業として、閑散期となる8月に、日頃利用の少ない層(保護者や児童・生徒)が気軽に参加できる事業を実施することで、稼働率・利用人数の増加を図るとともに、事業とその広報を通じ育成センターのPRを行う。</p> <p>・子どもたちをサポートするボランティア活動を青少年に体験してもらうことで、ボランティア活動や青少年育成活動に関心を持ってもらう。</p>		
実施内容	<p>・横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャー2014」の一部として、町内会夏祭りの屋台の店員の体験や、きずなをテーマにした缶バッジ作り、パネル展示等、町内会の活動について考えるプログラムを実施した。</p> <p><b>【共催】</b> 横浜市町内会連合会、横浜市(市民局地域活動推進課)</p>	<p><b>【青年ボランティア】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの活用や、高校のボランティア担当教員と連絡を取って広報活動を行った結果、約1ヶ月で定員を超えた。スムーズに活動が始められるよう、グループワークを中心とした事前研修を行った。</li> </ul> <p>《広報先》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット：法人HP、学生ボランティアの募集サイトACTiVO、横浜市ボランティアセンター</li> </ul> <p><b>【広報活動】</b></p> <p>子どもアドベンチャー2014チラシ(横浜市全校配布)のほか、独自のチラシを、西・中・南・磯子・神奈川・保土ヶ谷区の学童保育、はまっ子ふれあいスクール、放課後キッズクラブに郵送。</p> <p><b>【その他】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①キッズクラブと連携し子どものスタッフ「キッズボランティア」を導入</li> <li>②市民局と育成センターでプログラムを分担した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成センター担当：受付(B2ロビー)／屋台(第1研修室)</li> <li>・市民局担当：自治会町内会クイズ・パネル展示、缶バッジ作り(第2研修室)、ゴミ分別釣りゲーム(第1研修室)／お絵かきコーナー(ミーティングルーム)</li> </ul> </li> <li>③育成センターについて知ってもらうために、販促チラシの配布やアンケートを行った。</li> </ol>	

事業名	利用促進に向けた取り組み 新規利用者の開拓		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	育成センターを利用した事がない青少年・青少年育成者・一般団体	参加者	114団体
事業目的	・多くの市民や団体に青少年育成活動に関心を持ってもらうことで、青少年を支える層を拡大していく。		
実施内容	・利用を促進するため、チラシ、WEB等のツールや講座を活用し、研修室・スタジオ、貸出物品や印刷室のPRを行った。	<b>【利用促進の取り組み】</b> ①4月 利用促進チラシの郵送(交流センターと合同) ・スタジオメイン、研修室メインにした2種類のチラシを作成 ・稼働率が低い1・4コマ目および、和室を利用しやすいと考えられる317カ所の施設、団体(地区センターや子育て支援団体等)へ郵送。 ②講座参加者へパンフレットを配布し、施設のPRを行った。 ③抽選予約後の研修室空き状況のHP公開 新規利用者が日程を検討しやすいよう、抽選予約後の研修室の空き情報を公開。 <b>【新規利用登録者】</b> ※4月からの実績 ・114件 内訳)一般：83団体/指導者：7団体/青少年：24団体	

A：青少年活動を支援する事業 え：相談、助言

事業名	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 ホームページ等を使った情報提供		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年にすでに関わっている・これから関わろうとしている人、青少年		
事業目的	下記3つの目的を果たすことで、地域の青少年育成活動の支援を行う。 ・青少年や青少年を取り巻く環境に対する関心を喚起する。 ・青少年活動に関わっている、関わろうとしている人にとって有効な情報を手軽に入手できるように情報を整理する。 ・施設や情報スポットの利用促進を図る。 ※HPは定期的に更新することを定量的目標とする。新しい情報を発信するとともに、「センターがどの様なところか」「どの様なスタッフがいるのか」を発信することで、間接的な広報(相談しやすい環境等の醸成)を行うこととする。		
実施内容	・ホームページなどを通じて情報を発信することで、青少年や青少年に関わる人を支援した。  ・相談者のニーズに合った情報を提供できるように相談窓口と情報スポットの環境を整備した。	<b>【情報スポット】</b> ①情報の収集とHP・施設内の掲示板・チラシラックを使った発信 【通年】 ・助成金、他施設の講座・研修・ボランティアの情報【月2回以上更新】 ・青少年に関わる時事情報や統計データ【週1回以上の更新】 ・法人内の講座・研修、ボランティア情報【随時】 ②1Fの情報スポットの項目の見直しと分類整理を行った(6月、2月)。 ③B2Fに配布されている広報紙の“月”がわかるように表示した。 ④相談窓口のPRポスターを作製し、B2F、講座実施時受付に掲示した ⑤統計・調査・政策(国、市等)のデータをPDFにしてデータ保存した。見たいデータがあった時は、職員がプリントアウトし提供した。  <b>【HPコンテンツの充実と見直し】</b> ①スタッフの“顔”が分かることで、気軽に相談をしやすくなるように職員だけでなくCo.もスタッフブログを執筆した。【毎月2人】 ②年間講座スケジュールをHPで公開することで、対象者がスケジュールを組みやすくなった。また、直近の講座が一目で分かるように終了した講座を並び替えた。 ③検索にヒットしやすいよう投稿ページにタグを入れた。 ④スタジオ以外の空き状況を毎月抽選後にHPで公開【毎月1日発信】 ⑤トップページを見易いよう改善(文章長さ、リンク先の細かい調整)  <b>【広報の充実】</b> ①講座修了者に主催講座・研修の情報をEメールで発信【不定期】 ②広報紙「馬車道通信」の発行とHPへの掲載【毎月1回】 ③利用者交流の一環として川柳を募集し、馬車道通信に掲載【不定期】 ④スマートフォン用の閲覧ページ開設と改善(総務課連携)  <b>【その他(マニュアル、体制の整備)】</b> ①HPの更新マニュアル作成(基本編、スタジオ空き状況編) ②HPの各ページに評価項目の挿入(送信先ページが分かるように設定) ③掲示物の情報整理と検索システム(職員用)の作成	

事業名	青少年育成に関する相談、ホームページ等を使った情報提供 青少年育成に関する相談		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者など	利用者	114件
事業目的	・地域の青少年活動や課題を抱えた青少年に関する相談の「一次的窓口」として相談業務を行い、青少年育成活動の支援を行う。		
実施内容	<p>・相談窓口の開設(窓口・電話・メール・出張相談)</p> <p>①相談窓口の開設(通年)：相談件数：114 対応回数：229回                  ・対応回数：1件の相談に対して、何回やりとりをしたかという対応数を今年度より集計した。対応数を集計することで、収集したボランティア情報や施設情報等をもとに紹介先に連絡を取ってから情報提供するなど、正確で丁寧な対応をしていることが反映されるようになった。                  平均対応回数：2回                  ・専門機関等への紹介やコーディネート：「相談機関・支援機関一覧」のファイルや「ボランティア一覧」「研修・講座一覧」のデータベースを活用することにより、すぐに適切な情報提供ができるようになった。また、紹介先へ照会をしてから案内をすることで、相談者の満足度が上がった。</p> <p>②相談対応の記録                  ・相談傾向の分析によるニーズ・課題等の把握：上半期は「その他」の相談内容が一番多く、引きこもり、就労支援等の専門的相談が含まれていたことから、下半期は「自立支援」という相談内容分類項目を設けた。その結果、より正確に相談内容を把握することができた。                  ・ケース検討：全員で共有しておきたい事例を抽出し、コーディネーター会議で取り上げ、対応の留意点、情報源を確認した。</p> <p>③相談対応資料の整理                  ・相談機関・支援機関等や問合せの多い情報を収集してファイリングし、すぐに対応できるようにした。                  ・今年度から「ボランティア一覧」「研修・講座一覧」データベースを作成し、更新しているので、より適切な情報提供ができるようになった。</p> <p>④スタッフ研修と情報共有                  ・月1回の会議でケース検討を行い、情報源にはどんなものがあるか、対応の留意点は何かなど、相談対応のスキルアップと今後の対応のための情報の蓄積、共有をはかった。                  ・11月に窓口での相談対応のスキルアップのために、アサーションをテーマに研修会を実施し、ペアワークで良いコミュニケーションの取り方のポイントを学んだ。</p> <p>⑤出張相談                  ・にしく市民活動支援センター、一般社団法人不登校支援センター、綱島公園こどもログハウスを相談のアウトリーチとして訪問した。</p>		
事業名	青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成 テーマ型交流会の実施(よこはまユースゼミ)		
日時/回数	11/21(金)～3/13(金) 全4回 毎回19時～20時15分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動スタッフ等	利用者	40人(延べ)
事業目的	・情報交換を通じて団体相互の理解と活動の充実を図ることで、地域の青少年育成活動の支援を行う。		
実施内容	<p>青少年育成に関する団体(行政含む)のゆるやかな交流・連携を図るため、年4回程度の情報交換の場を提供した。</p> <p>・長期的な関わりを持てるように、各回にテーマを設け、今年度はHPと講座受講者を中心に広報を行った。                  ・定員を少人数にし「顔の見える関係」を構築することと、テーマの深まりをねらった。</p> <p>①「わたしのとこ、こうなんだけど、どう思う？」(11/21)(11人)                  フリートーク形式で、活動や業務の中でぼんやり感じている疑問や悩みについて、参加者それぞれが発言し、意見交換を行った。                  講師：育成センター職員</p> <p>②「若者自立支援と施策のこれから」(12/18)(9人)                  「子ども・若者育成支援推進法」の読み方を中心に、若者施策の動向について聞き、自分たちができることを確認し合った。                  講師：松井 祐次郎 氏(国立国会図書館調査及び立法考査局)</p> <p>③「青少年健全育成活動のいま-子ども会活動を通じて」(1/23)(10人)                  子ども会の活動の原状と課題をテーマに、「健全育成」という言葉のイメージをそれぞれ確認し合い、「地域で子どもを育む」ことの意味を考えた。                  講師：中山 里美 氏(横浜市子ども会協議会 事務局長)</p> <p>④「外国につながる子どもたちの学習支援から見てきたこと」(2/20)(10人)                  市内の外国につながる子ども支援活動の原状と課題から、該当の子どもたちが抱えるリスクや活動における課題を話し合った。                  講師：高橋 宣子 氏、吉見 江利 氏(神奈川県国際協力ネットワーク)</p> <p>・終了後、HPに実施報告を上げることで、関心を持った人が内容や当日の様子を確認することができ、次回の申込みにつながるようにした。</p>		

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

事業名	青少年人材養成研修 青少年の居場所づくり講座		
日時/回数	9月～10月(全5回)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、市民利用施設のスタッフ	参加者	110人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の「青少年との関わり」についての考えが広がる。</li> <li>参加者が青少年の居場所について考え、理解を深める。</li> <li>上記2つを講座の中で達成することで、地域における青少年を支える人材の拡大を図った。</li> </ul>		
実施内容	<p>専門家でない、さまざまな立場から青少年に関わり続けている人の“実践”を学び、自分のフィールドにあった支援や関わるヒントを見つけていく連続講座を実施した。</p> <p>《講師》 実践見学・研修 ・元交流センター青少年委員(3人) ・松井 孝子 氏 (昨年度講座参加者、主任児童委員/港北区青少年指導員) ・石井 淳一 氏(ことぶき青少年広場)</p> <p>ふり返り講義 ・萩原 建次郎 氏(駒澤大学教授)</p> <p>①導入：9/16(火)18時30分～20時30分 参加者14人 ・講座の趣旨と流れ、各回のポイントを伝えた。 ・参加動機と、各回で学びたいことを明文化(記入と発表)することで、各自が持つ課題を明確にするだけでなく、2回目以降の講座に能動的に参加できるようなワークを行った。</p> <p>②実践見学・研修 【研修】 ・「青少年に聞く～居場所はこれだ!～」：9/30(火)18時30分～20時 参加者21人 居場所施設(交流センター)に通っていた3人の若者にインタビュー形式で、主にスタッフとの関わりについて聞き、「青少年から見た“居場所”とは何か」について理解を深めた。 ・「青少年と関わる“わたしの役割”」：10/14(火)18時30分～20時 参加者22人 市内で、拠点を持たずに活動している実践者の話を聴くことで、地域でできる活動やスタンスについてヒントを得た。 【見学】 ・ことぶき青少年広場：10/7(火)、10(木)18時～20時 参加者23人 テーマ「さまざまな背景を持つ青少年と関わる人」</p> <p>③ふり返り講義：10/28(火)18時30分～20時 参加者30人 ・研修のキーワードを基にしたふり返りと講義。講座全体を個人とグループでふり返った後、全体で「居場所づくり」を行っていく上での課題、講座で発見した視点等を共有した。また、参加者同士が気軽に相談し合える関係づくりを作るため、グループトークの時間を多くとった。</p> <p>④事後実習(実習先：横浜市青少年交流センター) 2名希望者がいたが、参加者の事情により次年度に延期。</p> <p>⑤フォローアップ…次年度実施予定 【その他】 参加者がふり返られるよう、各回の実施後に報告をHPに掲載した。</p>		
事業名	青少年人材養成研修 青少年の居場所づくり講座フォローアップ研修		
日時/回数	6/5(木) 9時30分～11時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	平成25年度居場所づくり講座参加者	参加者	6人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が青少年への接し方や向き合い方を再確認する。</li> <li>参加者が受講後の課題や取組みに関する情報の交換をすることで活動充実につなげる。</li> <li>上記2つを果たすことで、地域における青少年育成に関わる人材の拡大を図る。併せて、研修趣旨から次のことを果たす。</li> <li>現場の課題などのニーズをヒアリングすることで今年度の講座を企画する際のヒントとする。</li> <li>講座の内容が参加者のニーズに合っていたのか、追跡調査として位置づける。</li> </ul>		
実施内容	<p>居場所づくり講座の受講後に見えてきた活動の課題や発見について、事例検討や意見交換を通じて再確認し、活動の充実につなげる講座を実施した。</p> <p>①講座のふり返り 平成25年の本講座のキーワード集を基にふり返った。</p> <p>②導入 自己紹介を踏まえ、「青少年と関わる大人として意識している」ことを発表し、研修へ繋げた。</p> <p>③研修：テーマ「自己開示と自己発見」 ア)2つの場面(事例)を設定し、ペアで「中2男子」「わたし」役を交代で演じた。青少年の役をやることで興味を示す視点や注意される側の気持ちの変化について考え、それとともに、「わたし」の立場としての戸惑いと考えを共有した。 イ)「顔見知りの中学1年生の女子」の「学校へ行きたくない」という発言へどのように対応するのか事例検討を行った。(個人およびグループワーク)</p> <p>④まとめ 研修に参加したことによる変化を観るため、青少年に関わる時に大切にしたいことを研修中に出た意見などを踏まえ、共有した。</p>		

<b>事業名</b> ユースコーディネーター養成研修			
<b>日時/回数</b>	12月～1月(全4回) 9時30分～11時45分	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	施設・活動などにおいて子ども・若者と関わりのある人	<b>参加者</b>	120人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困難を抱える青少年や家庭の状況を理解することで、青少年を支える地域力を高める。</li> <li>・ 支援機関や社会的資源等の役割や仕組みについて正しく理解することで、青少年育成支援への関心を高める。</li> <li>・ 参加者がそれぞれの取組みや課題を共有し、必要な支援や連携について考えることで、青少年育成活動を充実させる。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>小中学生が日常的に過ごす場や地域で子ども達に接する大人が、困難を抱える子どもや家庭の状況について学ぶことで、潜在的な課題等に気づき、受け止めることができるよう研修を実施した。</p> <p><b>【講師】</b>                  第1回：横浜市中央児童相談所 竹内敬一郎 氏                  第2回：NPO法人在日外国人教育生活相談センター 竹川真理子 氏                  第3回：日本水上学園 松橋秀之 氏                  第4回：子どもの幸せを実現する会 神崎良嗣 氏</p> <p><b>【共催】</b> 横浜市こども青少年局</p> <p><b>【当日】</b>                  ①第1回 12/3(水)【申込者：35人 参加者：31人】                  ・ 講義「子どもたちの困難を支える支援機関・相談機関を知る・つなぐ」                  ・ グループワーク「事例検討—子どもや家庭の困難を考えてみる」                  ②第2回 12/17(水)【申込者36人 参加者：28人】                  ・ 講義「外国につながる子どもたちの暮らしとリスク～課題を知り、地域でできる支援を考える」                  ・ グループワーク「地域でできる支援を考える」                  ③第3回 1/15(木)【申込者：39人 参加者：25人】                  ・ 講義「困難を抱える子どもとその家族～地域で支える社会的養護とは～」                  ・ ロールプレイ「心理的虐待をする・受ける・相談者・観察者となって」                  ④第4回 1/28(水)【申込者：43人 参加者：36人】                  ・ 事例報告「地域資源を活用する・つなぐ～子どもと地域・学校・家庭～」                  ・ グループワーク「子どもの育ちを支えるために私たちができること」</p> <p><b>【事後】</b>                  ・ 2/16(月)HPに実施報告を掲載                  ・ 各講師にアンケート結果と礼状を送付                  ・ 受講者アンケートの活動の悩み、課題の記述内容から、相談対応につなげた。                  ・ 参加者(こどもログハウススタッフ)にアウトリーチをし、ヒアリングを行った。</p>		
<b>事業名</b> ユースコーディネーター養成研修 フォローアップ講座			
<b>日時/回数</b>	6/26(木) 9時30分～11時30分	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	平成25年度ユースコーディネーター養成研修の参加者	<b>参加者</b>	13人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者がユースコーディネーターの役割を再確認し、受講後の活動や取組み、課題について情報交換をすることで、それぞれの活動の充実につなげる。</li> <li>・ 現場の課題など研修へのニーズを把握し、今年度の研修を企画する際のヒントとする。</li> <li>・ 研修の内容が参加者のニーズに合っていたかの追跡調査として位置付ける。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>昨年度のユースコーディネーター養成研修受講後のフォローアップ講座を実施した。</p> <p>①平成25年度研修のまとめ・ふり返り                  ・ 各回の主な内容—気づく・知る・つなぐを中心に                  ・ ペアワーク：第2回「児童相談所の仕組みと地域の役割」から「相手目線の理解と支援～届かない言葉」                  ②グループワーク…「私気づき、支えること、私たちが支え・つなぐこと」                  いくつかの課題を抱える小6・A子さんの事例から、「できること」を考えた。                  ・ 個人ワーク：気づく(気になったこと、わたしの見立て)                  ・ グループワーク：メンバー間の連携、メンバー以外の連携先・支援                  ・ グループ発表：各グループのキーワードの確認                  ③情報交換                  ・ 各自の活動や取組み                  ・ 課題の共有と解決策</p>		
<b>事業名</b> スキルアップ講座 ボランティア・マネジメント講座			
<b>日時/回数</b>	6/12(木) 9時30分～12時	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	青少年に関わる活動団体や施設のスタッフ 等	<b>参加者</b>	25人
<b>事業目的</b>	<p>参加者の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年をボランティアとして受け入れるときの考え方を学ぶ。</li> <li>・ ボランティアとよりよい関係をつくるために必要な条件を考える。</li> <li>・ グループワークを通して課題を共有し、解決策を考える。</li> </ul> <p>育成センターの目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の目的を講座を通じ参加者が達成することで、青少年の社会参加と青少年支援活動の充実を図った。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>青少年をボランティアとして受け入れるときの考え方を学び、団体・施設とボランティアがよりよい関係をつくり、団体・施設、ボランティアにとって有効な活動とするための講座を実施した。</p> <p><b>【講師】</b>                  平野 嘉昭                  (よこはまユース業務執行理事 施設部長)</p> <p><b>【事前準備】</b>                  ・ 講師とアイスブレイクや講義内容、タイムテーブルについて打合せ</p> <p><b>【当日】</b>                  1 アイスブレイク(グループ内での情報交換を図る)                  2 グループワーク(課題と改善策を個人で考え、グループで共有する)                  ・ 「関内小学校放課後キッズクラブ」でのケース検討                  ・ まとめ「ケース検討からわかったこと」                  3 講義(テーマ：ボランティアの導入から受入れまで)                  4 グループ毎に情報共有</p> <p><b>【事後】</b>                  ・ 6/14(土)研修報告をHPに掲載</p>		

<b>事業名</b> スキルアップ講座 広報・記録のためのデジカメ入門講座			
<b>日時/回数</b>	7/2(水) 9時30分～12時30分	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	青少年に関わる活動や団体・施設スタッフ 等	<b>参加者</b>	43人
<b>事業目的</b>	・デジタルカメラの特性と、広報や記録における効果的な写真の撮り方について理解する。 ・実践的な技術を身に付け、活動に活かす。 上記2つについて、講座を通じ参加者が達成できることで、青少年活動の充実を支援する。		
<b>実施内容</b>	<p>事業を効果的に伝える記録・広報写真の撮り方や見せ方などを、デジタルカメラの特性と合わせて学び、技術を身に付ける講座を実施した。</p> <p><b>【講師】</b>                  大向 哲夫 氏                  (株)大向カメラ代表取締役、神奈川読売写真クラブ会長、日本写真作家協会元副会長、(社)日本写真協会会員、よこはまユース理事</p> <p><b>【広報】</b></p> <p>①一般に向けて広く募集できる講座であることから、さまざまな人が目にする、新聞・広報誌・ウェブの掲載に力を入れたことで、幅広い参加者が集まり、昨年度より参加者が増えた。</p> <p>②PTA新聞づくり講習会に参加し広報を行ったところ、PTAから多くの参加があった。</p> <p>③配布先によってキャッチコピーを変えたほか(2種のチラシ)、多くの人にも目にとまるよう、多色刷り(手刷り)にし、チラシを工夫した。</p> <p><b>【当日】</b></p> <p>①講義：デジカメの特徴/広報や記録に効果的な写真の撮り方</p> <p>②フィールドワーク：関内ホール周辺で実際に写真を撮る</p> <p>③実習：構図の確認/写真の処理、保存の仕方について</p>		
<b>事業名</b> スキルアップ講座 日赤救急法講習会<共催事業>			
<b>日時/回数</b>	①8/24(日) ②9/6(日)～15(月・祝)(全4回)	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	①救急法救急員資格者 ②青少年育成活動に関心のある高校生以上	<b>参加者</b>	77人
<b>事業目的</b>	・怪我や病気が発生した際の応急的な救護方法を学び資格を習得する講習を行うことで、緊急時に対応できる指導者を育成する。		
<b>実施内容</b>	<p>・活動時に怪我や病気が発生した場合の応急的な救護方法を身につける講座を実施した。</p> <p><b>【共催】</b>                  ボーイスカウト横浜みなと地区協議会</p> <p>①救急員資格継続講習会：8/24(日)                  ・各講習の復習、改訂のあった学科・実技の伝達など                  ※研修修了者には、救急法救急員の認定証の有効期限を3年間延長                  参加者数：25人</p> <p>②救急法救急員養成講習会：9/6(日)、13(土)、14(日)、15(月・祝)                  ・心肺蘇生法、AEDを用いた救命活動(徐細動)、怪我の手当て(止血法、包帯法、固定法)、搬送法など                  ※講習修了者には、日本赤十字社より修了証を交付。尚、検定試験合格者には救急法救急員認定証(3年間有効)を交付                  参加者数：各回13人(延べ52人)</p>		

事業名		スキルアップ講座 コーチング入門講座	
日時/回数	10/8(水)、10/15(水)(全2回) 19時～21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成活動に関わる方や関心のある方、コーチングに関心のある方	参加者	91人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイを通してコーチングの基本的なスキルを身につけ、実際の活動に生かすことで、青少年育成活動を充実させる。</li> <li>・青少年や身近に接する人と豊かな人間関係を築くためのコミュニケーションスキルとしてのコーチングの基礎理論を学ぶことで、青少年育成への関心を高める。</li> </ul>		
実施内容	<p>豊かな人間関係を築き、相手の能力や可能性、やる気を引き出すコーチングの手法を、基礎理論とロールプレイで実践的に学び身につける2回連続講座を実施した。</p> <p>・講師：川本 正秀氏 (共育コーチング研究会 代表)</p> <p><b>【広報】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の方を広く募集できるテーマの講座であることから、チラシに「教育現場・職場・地域・家庭・団体などで必ず役立つ」という広い層にアピールする文言を入れ、幅広い層の参加者を獲得できた。</li> <li>・広報よこはま10月号に「必ず役立つコーチング入門講座」という強い訴求力を持つ講座名で掲載をしたところ、参加者の50%が参加動機を「広報よこはまを見て」と答えた。</li> <li>・横浜市内の施設、青少年支援団体、区版市民活動支援センターなど、173か所にチラシを郵送した。</li> <li>・育成センターHPのほか、横浜カレンダー、横浜市市民活動支援センターHP、藤沢市市民活動推進センターHP、PLANETかながわ、横浜市ボランティアセンターHP、ACTiVO、横浜市市民活動支援センターメールマガジン、馬車道通信9月号に掲載し、広く広報をした。</li> </ul> <p><b>【講座】</b></p> <p>①第1回 10/8(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチングの基礎理論を学び、ロールプレイにより基本的なスキルを体験した。</li> </ul> <p>②第2回 10/15(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチングスキルを使った結果の検証をし、互いにスキルアップした。</li> <li>・講師によるコーチングのデモとまとめ。</li> </ul> <p><b>【事後】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/5(水) 育成センターHPに講座報告を掲載した。</li> <li>・11月にステップアップ講座を実施することを参加者にチラシとともに広報し、もっと学びたいという参加者の期待を入門講座実施後、すぐに次の参加に結びつけた。</li> <li>・馬車道通信を配布し、内容を案内することで受講者へ育成センターの事業を知らせた。</li> <li>・アンケート結果を礼状と共に送付。</li> <li>・参加者にアウトリーチを行った。</li> </ul>		
事業名		スキルアップ講座 コーチングステップアップ研修	
日時/回数	11/19(水)19時～21時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	平成26年度コーチング入門講座受講者	参加者	17人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチング入門講座(10月実施)で学んだスキルの振り返りを行うとともに、コーチングの新しいスキルを習得し、ステップアップすることで、青少年育成活動をさらに充実させる。</li> </ul>		
実施内容	<p>入門講座受講後の振り返りを行い、自分の癖やパターンを見直すとともに、コーチングの新しいスキルを身につける講座を実施した。</p> <p>・講師：川本 正秀氏 (共育コーチング研究会 代表)</p> <p>①振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイで入門講座受講後1か月間でコーチングがうまくいったこと、いかなかったことを3人1組で話す、聴くことで振り返りを行った。</li> <li>・意識して使うことの大切さを確認した。</li> </ul> <p>②新しいコーチングスキル1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバック</li> <li>・ロールプレイで実践と確認をした。</li> </ul> <p>③新しいコーチングスキル2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リクエスト</li> <li>・ロールプレイで実践と確認をした。</li> </ul> <p>④まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の感想や質問</li> <li>・講師まとめの講義</li> </ul>		

事業名	スキルアップ講座 子ども・若者の集団を支援する		
日時/回数	3/7(土)10時~17時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動に関心のある人、地域活動をしている人(高校生以上)	参加者	11人
事業目的	・青少年支援におけるグループの活用について理解を深める機会を提供することで、地域における青少年を支える人材の育成を図る。		
実施内容	<p>グループを通して、一人ひとりが成長できるように支援する方法を観察する時の視点を学ぶ講座を実施した。</p> <p>タイトル:グループの力を活用するコツ</p> <p>講師 杉野 聖子 氏 (江戸川大学総合福祉専門学校 専任教諭)</p>	<p>【広報】 青少年支援者を対象とした講座だが、地域活動を行っている人なども活用できる内容なので、広報の範囲を広げた。</p> <p>【当日】</p> <p>①講義 ・グループワークとは何か・グループワークの意義 ・私のグループ体験</p> <p>②ワーカーの役割と必要な技術 各ロールプレイの後、グループ発表を行った。講師からロールプレイの趣旨とポイントについて説明を聞いた後、次のロールプレイへと移ることをくり返した。 ・グループ場面における話し方と傾聴の技法 ・メンバー間のつながりと相互作用の促進 ・相互援助システムの形成 ・メンバーのコミュニケーションを高める ・同質性の取り扱い</p> <p>③まとめ</p>	
事業名	青少年を支える層を拡大するための講座・研修 よこはまユース・シンポジウム		
日時/回数	1/31(土)13時30分~16時30分	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年活動または地域活動に関心のある人	参加者	69人
事業目的	・子どもが抱えている表面化する前の潜在的なSOSにどう気づき、どう受け止めていくかに焦点をあて、実際に子どもの課題を受け止めている実践者の事例や問題提起から、地域や家庭で子どもたちを支えるために何が出来るかを考えるきっかけをつくる。		
実施内容	<p>・現在の青少年をめぐる課題について発信し、地域における青少年を支える層の拡大を図るシンポジウムを実施した。</p>	<p>【広報】 市民啓発を目的としているため、様々なメディアで発信した。 ・広報よこはま12月号「はま情報」、神奈川新聞「iパズール 知る・学ぶ」掲載(1/20)。 ・よこはまイベントカレンダー・プラネットかながわ・横浜市民活動支援センターHP・メルマガ、横浜市ボランティアセンターHP、藤沢市民活動推進センターHP掲載。 ・他課と連携し、チラシを配布。(子ども・若者どこでも講座・エンパワメント講座等) ・区役所広報相談係に配布依頼。 ・学校ポスト(509校)へ持込み。 ・放課後児童育成課を通じ、放課後児童育成3事業関係者に周知。 ・1/27(火)市政記者クラブに「当日取材のお願い」を投込み。</p> <p>【当日】 3人のパネリストにより下記を行い、報告者、参加者(会場)と意見交換をした。</p> <p>①実践報告 ・コーディネーター 林田 育美 氏(つづきMYプラザ館長) 「都筑多文化・青少年交流プラザとは、今日のねらい・伝えたいこと」(リーフレット配布) ・麓 泰介 氏(前公立小学校長・日本学校教育相談会神奈川 理事長) 「子どもの心が見えますか、聴こえますか?~心の声を聴くとは~」 ・伊藤 宏子 氏(秋葉小学校放課後キッズクラブ主任指導員) 「放課後の子どもと過ごす時間」(キッズクラブ通信2月号配布) ・中本 テリー氏(臨床心理博士、よこはま・チャイルドラインスーパーバイザー) 「心の声に気づく 向き合う」(発達障害の範囲、LGBT、子どもの自然な反応と発達)</p> <p>②パネルディスカッション ・4人の登壇者への質問用紙を配布し、質問ごとにまとめてコーディネーターへ渡し、質疑応答、意見交換を行った。</p> <p>【事後】 ・2/17(火)よこはまユースHPに実施報告を掲載。 ・よこはまユースレターに活動レポートを掲載。</p>	

事業名	青少年を支える層を拡大するための講座・研修 馬車道カレッジ		
日時/回数	3/2(月)、3/15(日)、3/25(水)(全3回)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	横浜市周辺に在住在職の社会人(20歳~30歳代)	参加者	30人(延べ)
事業目的	<p>・青少年育成の新たな担い手を育成するために、地域人材の発掘を行う。</p> <p>・社会人になって、職場以外のつながりが作りにくくなった若者の多様な社会参加を促す。</p> <p>※単なる「技術」としての写真の撮り方を学ぶのではなく、グループ活動や、写真を撮ることで生まれる周囲とのコミュニケーションを通して、仲間作りや社会参加に対する自信や技術を身に付けてもらう事が目的。</p>		
実施内容	<p>・スマートフォン、デジカメ写真というツールを使い、仲間作り・社会参加の機会を若者に提供する講座を実施した。</p> <p><b>【講師】</b> 大向 哲夫 氏 (株)大向カメラ代表取締役、神奈川読売写真クラブ会長、日本写真作家協会元副会長、(社)日本写真協会会員、よこはまユース理事</p> <p><b>【広報】</b> ①若者にとって身近なメディアである、インターネットでの広報を行った。(Facebook、地域ポータルCOM、横浜市ボランティアセンター) ②広い対象の目につきやすいと考えたため、外注でチラシを制作した。 《広報先》 横浜市周辺の観光施設、市民利用施設、図書館、地区センター、文化施設等</p> <p><b>【当日】</b> ①3/2(月) 19時~21時：デジカメ写真入門 自己紹介の時間を設ける、座学の後は全員で実際に動いて同じものを写真に撮ってみるなど、参加者同士のつながりを少し意識した構成とした。 ②3/15(日) 10時~16時：馬車道フォトブック作成 参加者同士のつながりをつくるため、グループワークでフォトブック作成を行った。 ・グループで、各々の写真集のテーマ、撮りたい写真を共有。 ・「馬車道のガス灯」「神奈川県立歴史博物館」と、グループで決めた1つの題材を、全員が必ず撮ってくる写真として設定し、共通の話題を作った。 ③3/25(水) 19時~21時：作品発表会 第2回で作った作品の発表をし、参加者同士で感想を言い合った。お互いの写真の良いところを褒め合うことで、良い雰囲気をつくることができた。</p>		

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント
		ランク	得点 (30点満点)			
A 青少年活動 を支援 する事業	あ 施設 貸与	b	23/30 (77%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率向上を目指し、施設空き情報やEメール申込などを実施した。できる限り部屋の利用に制限を設けず、利用件数を伸ばす工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率を7ポイント向上させた。引き続き気持ちよく利用できる施設を提供すること。</li> <li>利用者の安全確保のためフリースペースを一時閉鎖したため、利用人数は減少した。</li> </ul>
	え 相談 助言	c	19/30 (63%)			
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	c	17/30 (57%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア・社会教育実習生の受け入れは、実習を行う青年の貴重な学びの場となった。</li> <li>青少年委員会は、委員の役割について再認識できるよう、改善に向けた指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア・社会教育実習生の受け入れは、実習を行う青年の貴重な学びの場となった。</li> <li>青少年の居場所づくり全国フォーラムは、全国からの参加者が減少している状況を考慮し、事業を見直す必要がある。</li> <li>青少年委員会は委員の自主・自立性を尊重しつつも、サポートが必要なタイミングを見逃さないこと。</li> </ul>
C 青少年に体 験機会や活 動の場を提 供する事業	う 体験 活動	b	21/30 (70%)			
経営・業務姿勢		c	20/30 (67%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人の施設利用団体と子ども達との関わり場の作るなど、家族、教師以外の大人とふれあう貴重な場所を作り出している。</li> <li>ボランティア募集は、施設内を活動範囲としているが、施設外も対象に加え、合わせて法人内3施設で情報共有できるよう検討すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちへの直接対応が多い中で、様々な事業を企画実施している。多忙感がある中で、情報共有がおろそかにならないよう注意すること。</li> <li>ボランティアに関する相談情報提供事業は、3施設・事業課で共有システムを検討し、次年度には実現できるよう取り組むこと。</li> </ul>
総合		c	100/150 (67%)			

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	---	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

A：青少年活動を支援する事業 あ：施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出																		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター																
対象	青少年、指導者・育成者、市民																		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用に関する情報を広く提供し、多くの青少年及び団体に活動の場を提供する。</li> <li>・活動団体が施設利用を通じて、安心して自由に活動ができるよう支援する。</li> </ul>																		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年が気軽に集まり、仲間との時間を過ごすことのできる居場所の提供並びに、利用者が活動しやすい施設環境の整備を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用に関する相談への助言・コーディネートの実施</li> <li>・Eメールによるキャンセル情報の提供、利用手続きの利便性向上</li> <li>・利用アンケートによるニーズの把握と活用(10月)</li> <li>・会議・研修室等の貸出</li> <li>・施設の安全、衛生環境管理</li> <li>・予約管理</li> <li>・スタッフによる防火訓練(6・10月)</li> <li>・ピアノ調律(5・11月)</li> <li>・防火対象物の点検(8・2月)</li> <li>・突発的な故障に対する修繕(冷温水機修理8月、障子張替10月)</li> </ul>	<p>※近隣で傷害事件が発生したことにより、安全性を確保するため、ロビー等を一時閉鎖した。(2/20~3/23)</p> <p>【利用実績】 稼働率：71.9%、利用件数：11,770件、利用人数：146,813人</p>																
	<p>【過去3年間の利用実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用人数</th> <th>開館日数</th> <th>稼働率(当日キャンセル除く)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>146,813人</td> <td>347日</td> <td>71.9%</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>150,403人</td> <td>347日</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>146,443人</td> <td>347日</td> <td>58.3%</td> </tr> </tbody> </table>					利用人数	開館日数	稼働率(当日キャンセル除く)	平成26年度	146,813人	347日	71.9%	平成25年度	150,403人	347日	65.0%	平成24年度	146,443人	347日
	利用人数	開館日数	稼働率(当日キャンセル除く)																
平成26年度	146,813人	347日	71.9%																
平成25年度	150,403人	347日	65.0%																
平成24年度	146,443人	347日	58.3%																
事業名	利用促進に向けた取り組み																		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター																
対象	青少年、指導者・育成者、市民																		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの青少年に居場所および活動の機会としてセンターの貸室・交流スペースを利用してもらうため、計画的に利用促進を行う。</li> </ul>																		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動による施設の利用情報の周知とサービス向上による施設の利用促進を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規顧客獲得に向けたダイレクト・メールによる広報活動 (390か所、4月に実施) 《チラシ配布先》 コミュニティハウス52件、地域ケアプラザ56件、地区センター34件、市内高校45件、市内大学11件他</li> <li>②新規の事業参加者獲得に向けた、HPによる年間事業スケジュールの公開 (4月公開、9月更新)</li> <li>③施設情報の配信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPによるスタジオの空き室情報の配信(毎週1回)</li> <li>・Eメールによるキャンセル情報の配信(随時)</li> </ul> </li> </ul>																	

A：青少年活動を支援する事業 え：相談、助言

事業名	日常的な相談・助言 ロビーワークの実施と成果の検証		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター
対象	青少年(小学生～青年期)	件数	27,075件(交流スペース利用青少年件数)
事業目的	・青少年に日常的な相談/助言の機会を提供することで、青少年の成長と自立を支援する。 ・青少年のニーズ(潜在的な課題や欲求)を把握して、必要な活動や支援に結び付ける。		
実施内容	ロビーワーク※を通して職員が来館した青少年との関係性を築き、日常的な相談/助言の機会を提供した。  ※ロビーワーク：挨拶、声掛け、会話など、対象との信頼関係をつくることを意図した関わりの手法。		
	【通年】 ・フリースペース(交流スペース・101・レクリエーションホール)の運営 ・コーディネーターの配置(3交代制：早番1人、中番1人、遅番2人) ・ロビーワーク日誌による情報の記録・共有 ・コーディネーター会議(月1回)による情報交換およびケースの検討 ・相談者の他機関への紹介および紹介先との連携 ・学校など関係機関との定期的な情報共有 ※コーディネーター：施設貸出を含む利用者対応を担うパートタイマー職員 【その他】 ア)館内掲示や展示による情報発信 ・8/9(土)～22(金)「STOP!デートDV写真展 photo by 小野啓」(主催：男女共同参画センター横浜) イ)ふらっとカフェ等交流スペースでのミニ・イベントの実施(不定期) ・4/2(水) とうろづくりワークショップ(協力：コガネックスラボ) ・10/23(木) ふらっとカフェ(カレーライス) ・対策会議(少年サポートチーム)の実施(1/30(金)、3/17(火)) 近隣の学校や神奈川県警など12の関係機関・団体が参加。施設や近隣地域で問題行動を繰り返す中高生らの対応や更正について、関係団体で連携して対応する体制づくりに取り組んだ。 ・一部利用制限の実施(2/20(金)～3/23(月)) 【場所】①1階ロビーおよび101号室(終日) ②4階レクリエーションホール(13時30分～17時30分) 施設の近隣で起こった傷害事件をうけて、青少年の安全を確保するためフリースペースの利用制限を実施した。青少年利用登録制度の開始、警備員の配置、レイアウトの一部変更など再開に向けた対応策を所管局とも協議の上実施し、比較的早期に利用を再開した。		
事業名	日常的な相談・助言 青少年活動相談		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター
対象	青少年(小学生～青年期)	相談者	133人
事業目的	・青少年に活動情報を提供し、青少年が自ら考え、成長していけるよう支援する。		
実施内容	主に交流センターを利用している個人・団体を中心に、青少年活動に対する相談およびコーディネートを行った。		
	①活動相談に対する、窓口および電話対応 ②活動情報および活動の機会の提供 ③活動中の支援および活動終了後の感想の集約		
事業名	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会の運営		
日時/回数	5/29(木)、9/24(水)、2/25(水) 各回10時～12時	場所	横浜市青少年交流センター
対象	「青少年の地域活動拠点」など市内で青少年育成に取り組む団体・機関	参加者	120人(延べ)
事業目的	・「青少年の地域活動拠点」を中心に、市内で青少年の「居場所づくり」など青少年育成に取り組む団体・機関間での情報共有および連携強化を通じた青少年の「居場所」の充実。		
実施内容	「青少年の地域活動拠点」を中心に、横浜市内で「居場所づくり」など青少年育成に取り組む団体・機関の情報共有および連携強化を目的とした連絡会を年3回実施した。  《連絡会案内発送先》60件 ・青少年の地域活動拠点 ・地域ユースプラザ ・青少年相談センター ・プレイパーク、ログハウス ・寄り添い型支援事業 ・その他、青少年育成活動団体		
	【第1回】 5/29(木)10時～12時 参加人数：50人 ①話題提供：「公的事業としての【居場所】の定義・役割とは」 池田 正則 氏(NPO法人リロード事務局長) ②グループ・ディスカッション ③全体共有  【第2回】 9/24(水)10時～12時 参加人数：38人 ①実践報告：「『居場所』における相談」 林田 育美 氏(つづきMYプラザ館長) ②グループ・ディスカッション ③全体共有  【第3回】 2/25(水)10時～12時 参加人数：32人 ①今年度の連絡会を振り返って(横浜市青少年交流センター職員) ②拠点事業の今後の方向性について(こども青少年局青少年育成課 大原係長) ③テーマ別意見交換会 ＊コーディネーター：林田 育美 氏(つづきMYプラザ館長) ◎中高生世代とどう関わるか ～ 地域の中の青少年と居場所 ～ ◎寄り添いながら「支援」とはということか?～居場所づくり・学習支援・生活支援～ ④全体共有		

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

<b>事業名</b> ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 夏期青年ボランティア			
<b>日時/回数</b>	7/22(火)~8/24(金)13時~18時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	高校生~24歳まで	<b>参加者</b>	25人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動を通じて青少年の協調性や社会性、自主性を育む。</li> <li>・異年齢間交流の場を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>夏休み中に来館する子どもたちの遊びや勉強をサポートするボランティアを受入れた。</p> <p>《広報》</p> <p>①法人HPに6月初旬掲載</p> <p>②チラシ配布 (法人施設3カ所、社会福祉協議会等市施設137カ所、市内高校及び大学155カ所、計8,784部)</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集チラシ配布による広報活動</li> <li>・事前説明会(2回) 6/20(金)18時~19時(1人) 6/21(土)11時~12時(2人) ※他22人個別対応</li> <li>・事前研修会(2回) 7/20(日)13時~14時(8人) 8/3(日)13時~14時(10人) ※他7人個別対応</li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースペース・レクリエーションホールでの子どもたちの遊びや勉強のサポート</li> <li>・木工教室・こども陶芸教室の進行補助</li> <li>・きもだめし大会(8/21)の準備・運営補助</li> <li>・活動振り返りシート記入</li> </ul> <p>【事後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後研修会 8/30(土)14時~16時(10人)</li> </ul>		
<b>事業名</b> ボランティア・社会教育実習生の受け入れ 社会教育実習生受け入れ			
<b>日時/回数</b>	8月、10月	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	社会教育主事課程を履修している学生	<b>参加者</b>	3人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年との交流を通じた研修を提供することにより青少年を支える人材を育成する。</li> <li>・青少年の居場所を目的とした社会教育施設への理解を深める。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>社会教育主事課程を履修している学生の実習を受け入れた。</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校および実習生との事務連絡および日程調整</li> <li>・事前の施設見学および個別面談の実施</li> <li>・個別の実習プログラムの作成</li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロビーワーク、受付及び事業の運営補助など実習プログラムの提供</li> <li>・青少年など利用者対応、事業の企画・運営、事務取扱などの指導</li> <li>・実習日誌のコメント記入</li> </ul> <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後の振り返り指導(実習中に感じたことの共有や疑問点の解消)</li> </ul>		
<b>事業名</b> 青少年の居場所づくり全国フォーラム			
<b>日時/回数</b>	2/14(土)13時~18時、15(日)9時30分~14時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	青少年教育関係職員、青少年団体指導者、研究者(学生)、青少年活動に関心のある人	<b>参加者</b>	150人(延べ)
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の青少年が抱える課題や青少年を取り巻く環境についての情報提供を通じて、青少年の居場所のあり方について考える機会を提供する。</li> <li>・「青少年の居場所づくり」をテーマとした意見交換の機会を提供することで、青少年を支える人材を育成する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>「青少年の居場所づくり」をテーマとした全国フォーラムを実行委員会を組織して実施した。</p> <p>【主催】 日本都市青年会議 公益財団法人よこはまユース</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会準備会の実施(5月、6月)</li> <li>・実行委員会の実施(7月~2月)、議事録作成(随時)</li> <li>・広報など実施までの運営事務</li> </ul> <p>【当日】</p> <p>テーマ：「青少年の居場所、次の一歩」</p> <p>一日目 A. 基調講演：久田 邦明 氏(神奈川大学講師) B. パネルディスカッション パネリスト 浅井 正美 氏(横浜市青年団体連絡協議会 会長、日本都市青年会議常任参与 前会長) 山本 一郎 氏(神奈川区社会福祉協議会 事務局長、旧横浜ボランティア協会 事務局長) 久田 邦明 氏(神奈川大学講師)</p> <p>C. 交流会(Ⅰ、Ⅱ)</p> <p>二日目 D. 分科会： ・第1：Y E C(若者エンパワメント委員会) ・第2：小池 良実 氏(岡さんのいえTOMO) ・第3：大竹 弘和 氏(神奈川大学) ・第4：久田 邦明 氏(神奈川大学) ・第5：佐藤 真一郎 氏(世田谷区野毛青少年交流センター)</p> <p>E. 全体会</p> <p>【事後振り返り等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備・当日運営について/報告書作成</li> </ul>		

事業名	青少年委員会の運営		
日時/回数	通年	場所	横浜市青少年交流センター
対象	横浜市在住または在学、在勤の中学生から24歳まで	参加者	10人
事業目的	・青少年による委員会を設置し、センターの管理・運営に青少年の声を反映させる。 ・委員会の運営により、青少年の社会参画の場づくり及び青少年リーダーの育成を行う。		
実施内容	・センターの運営に、青少年の視点を取り入れるため、中学生～24歳までの青少年が利用者の意見収集、イベントの企画・運営を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①定例会の開催(10回 参加者延べ67人) 5/18(日)、6/8(日)、7/13(日)、9/14(日)、10/12(日)、11/9(日)、12/14(日)、1/10(土)、2/8(日)、3/8(日)</li> <li>②意見交換会(交流会)：2/11(水) 参加者6人 来期の青少年委員会活動について、意見交換。(申込時に、個人の目標、委員参加への目的、部活動やバイトの状況等をヒアリングし、個別状況を把握した。)</li> <li>③宿泊研修：7/5(土)～6(日) 参加者6人 於：横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター 委員相互の親睦を図るとともに、年間の活動テーマを決めた。 年間テーマ「ふりふらのみんなを巻き込んで、一つの大きなチームとなる。」</li> <li>④他の青少年施設見学 ・11/30(日)神奈川県立図書館 高校生ボランティアセンター-friends 定例会見学：参加者3人 ・12/21(日)ゆう杉並 アクティブフェスタ見学：参加者1人</li> <li>⑤青少年委員会企画事業 ・バドミントン大会：8/5(火)14時～16時 参加者8人、担当委員3人 ・春のカードまつり → フリースペース閉鎖に伴い中止 ・バスケットボール大会、フットサル教室 → レクホール閉鎖に伴い中止</li> <li>⑥広報紙発行 3月発行</li> </ul>		

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動

事業名	青少年支援事業 学習マイプラン(学習支援)		
日時/回数	毎週火曜日 ①小学生16時～18時 ②中学生16時30分～19時 (祝日を除く)/47回	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生～中学生 ※一部、高校生も受け入れ	参加者	318人(延べ)
事業目的	・経済的な理由などさまざまな事情によって学習に困難を抱えている青少年に対して学びの場を提供する。 ・講師として参加している学習ボランティアが自主的に事業運営に参画できるよう体制を作る。		
実施内容	学校の勉強についていくのが難しい青少年や学習意欲の低下している青少年を対象に、ボランティアが無料の学習支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>【事前準備】</b> ・ボランティア募集(市内および近郊の大学、地区センター等へのチラシ配布) ・参加者募集(交流センター周辺の小中学校へのチラシ配布) ・ボランティアの日程調整・事務連絡</li> <li><b>【当日】</b> 年間47回開催。 ①事前ミーティング ②学習会 ③振り返り ・参加者の要望があり、夏休み期間に1週間の夏期集中講座を実施した。 ・中区南区の保護課から紹介をうけ、高校生世代の学び直しも受け入れた。</li> </ul>		

事業名	青少年支援事業 ジョブカフェ(動物園の仕事編)		
日時/回数	8/22(金)14時～17時	場所	横浜市青少年交流センター、横浜市立野毛山動物園
対象	小学生～高校生	参加者	10人
事業目的	・社会人が社会での実体験を語ることで、青少年に進路や職業観について考える機会を提供する。		
実施内容	・年齢の近い社会人を講師に呼び、将来の進路の参考となるロールモデルのひとつを提供した。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>【講師】</b> 公益財団法人横浜市緑の協会 横浜市立野毛山動物園 職員 ・櫻堂 由希子氏 フタコブラクダのツガルさんを6年間担当した職員。 ・杉原隆宣氏 今年4月に入職した飼育員。ふれあい広場担当。</li> <li><b>【事前準備】</b> ・講師との打ち合わせ ・近隣中学・高校、学習塾へのチラシの送付、HPへの掲載</li> <li><b>【当日の流れ】</b> ・職業講話(動物園のしごと、動物園の役割について) ・職場見学(飼料室、キリン舎、猛獣舎、動物病院の見学) ・アンケート</li> </ul>		

<b>事業名</b> 活動成果交流事業 青少年ライブ'14			
<b>日時/回数</b>	夏：8/24(日)13時～17時 冬：12/23(火・祝)13時～18時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	交流センターを利用している中学生から24歳まで	<b>参加者</b>	43人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年に日頃の練習成果の発表機会を提供することで、上達を促す。</li> <li>・青少年に自主性や協調性を育むための活動機会を提供する。</li> <li>・青少年に学校・学年・グループを超えた交流の場を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>交流センターを利用している中学生以上24歳以下の青少年を対象に、日頃の練習成果の発表機会として、ライブを実施した。</p> <p>講評：百井翔吾氏 【プロフィール】横浜を代表する5人組インディーズバンド「カメレオン」のベース担当として活動。平成26年度音作り講習会(6/28実施)で講師を担当。</p> <p><b>【広報】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館内掲示、スタジオ利用者周知、「音作り講習会」参加者周知</li> </ul> <p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前打合せ会 8/2(月)：3組、11/14(金)：3組</li> <li>①事前準備・当日の運営の役割分担 ②ライブでのルールの徹底</li> <li>・企画、看板・ポスター・チラシ・ステージ装飾等の作成</li> </ul> <p><b>【前日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場設営、リハーサル、打合せ</li> </ul> <p><b>【当日】</b> 8/24：出演4組・観客20人、12/23：出演6組・入場者52人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライブ演奏、受付・照明・P A操作・記録撮影</li> <li>・ライブ終了後の交流会(専門家による講評)</li> </ul>		
<b>事業名</b> 活動成果交流事業 @楽祭			
<b>日時/回数</b>	11/16(日)13時～17時30分	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	交流センター利用者	<b>参加</b>	11団体
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、ジャンルを問わず、すべての利用者を対象とした活動成果発表の場の提供。</li> <li>・青少年と大人が、異年齢交流を図る機会の提供。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>交流センター利用者の活動成果発表会。パフォーマンス(ステージ発表)および展示の2部門を実施した。</p> <p><b>【パフォーマンス】</b></p> <p>楽器演奏：弦楽合奏団ロンディーノ コーラス：エンジェルス・コーラス、楽しいコーラス、コール・ダンヘル男声合唱団 ダンス：ポリウッドダンスサークル、Smile◎Seed、こにしゆうじ、ピカケローズ、SWAG</p> <p><b>【展示】</b></p> <p>植物画：植物画愛好会 フラワーアレンジメント：フラワーリング</p> <p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出演者、およびボランティアの募集</li> <li>・10/26(日)事前打ち合わせ会。出演者とともに、申し込み内容の確認、および発表順、控え室を決定した。(7団体参加)</li> </ul> <p><b>【当日】</b></p> <p>①当日準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・出演者による全体打合せ</li> <li>・パフォーマンスのリハーサル</li> <li>・展示コーナーの設置</li> </ul> <p>②ステージおよび展示発表(13時開場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージ：ダンス5団体、コーラス3団体、楽器演奏1団体</li> <li>・展示コーナー：植物画、フラワーアレンジメント</li> </ul> <p>③交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の感想、および歓談</li> <li>・交流会後、ボランティア振返り</li> </ul>		
<b>事業名</b> 地域交流事業 こどもの日まつり			
<b>日時/回数</b>	5/5(月・祝) 12時～15時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	未就学児～一般	<b>参加者</b>	326人 ボランティア36人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年が地域の人々と世代を越えて交流する機会を提供することで、地域の大人と青少年の顔の見える関係づくりに取り組む。</li> <li>・青少年がイベントの企画・運営にボランティアとして関わることを通して、自主性や協調性を養う場を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>・「こどもの日」にちなんで、青少年・利用者・地域の方がボランティアやブースの出展者として参加し、青少年が楽しめるお祭りを実施した。</p> <p><b>《協力団体》</b></p> <p>青少年指導者クラブ、J：COMいきいきプロジェクト、ばあばの家あさだ、みのり会、風雲かぼちゃの馬車、横浜市立大学鈴木ゼミ学生、kogane'X Lob.、ふらっと☆キズナ</p> <p><b>《ボランティア》</b></p> <p>小学生2人、中学生3人、高校生4人、大学生4人、一般10人、協力団体から13人</p> <p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力団体及び協賛団体への依頼、ボランティアの募集</li> <li>・広報(近隣小学校にチラシ配布、J：COMホームページ「地域の催しもの」掲載、ぽこ・あ・ぽこ春号、西区広報4月号掲載、法人ホームページ)</li> <li>・事前準備は、職員・コーディネーターが担当した。</li> </ul> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年ボランティアは当日の準備と運営を担当</li> <li>・クラフト教室(カーネーション、こいのぼり)</li> <li>・模擬店(わたあめ、ポップコーン、カレーライス)</li> <li>・アクションパフォーマンス&amp;チャンバラ体験</li> <li>・スポーツ体験(ダーツ) ・お茶会 ・新聞紙ワールド</li> <li>・手作り雑貨販売 ・こどもスペース(カプラ、紙芝居)</li> </ul> <p><b>【事後振返り等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア全体の振返り(参加者の様子、ボランティア自身の反省、今後の課題など)</li> </ul>		

<b>事業名</b> 体験交流事業 青少年の表現活動の場づくり 夏休みこども陶芸教室			
<b>日時/回数</b>	8/4(月)10時~12時、8/6日(水)10時~12時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	小学生~中学生	<b>参加者</b>	22人 ボランティア13人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸作品の制作を通して、青少年がものづくりの楽しさ、表現活動のおもしろさを体験する機会を提供する。</li> <li>・青少年にボランティア活動を通じた社会参加の機会を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	・夏休み期間に小中学生を対象とした陶芸教室を2回実施した。  <b>【講師】</b> 小川 ひとみ 氏 (南瀬谷小学校PTA 陶芸サークル所属)  <b>【ボランティア内訳】</b> ・夏期青年ボランティア 8人 ・学習支援ボランティア 3人 ・高校生ボランティアセンター friends 2人	<b>【事前準備】</b> ・講師依頼、講師との打ち合わせ ・チラシの配布、HP上での周知による参加者募集 ・青少年ボランティアの募集、事前説明(随時)  <b>【当日】</b> 8/4(月)「植木鉢」/8/6(水)「埴輪」 ※参加費：各回800円 ・紐作りの技法を用いた陶芸作品の制作 ・制作した作品の発表 ・陶芸窯の見学、説明 ・アンケートの実施 ・講師、ボランティアとの振返り  <b>【事後対応】</b> ・作品の乾燥(1週間程度)、素焼き、本焼きを行う ・完成後、参加者(保護者)に引き取り依頼の電話連絡 ・引き取り対応	
<b>事業名</b> 体験交流事業 夏休み事業(料理教室・木工教室)			
<b>日時/回数</b>	7/28(月)10時~14時、8/3(日)13時30分~17時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	小学生	<b>参加者</b>	22人 ボランティア7人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年が意欲的に取り組むことができる活動の場を提供する。</li> <li>・参加者同士、およびボランティアとの交流を図る。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	・夏休み期間に小学生を対象とした料理教室、木工教室を実施した。  <b>《木工教室協働》</b> (株)ジェイコムイースト横浜テレビ局(J:COM) 西区・中区・南区・磯子区に展開しているケーブルテレビ局。 ケーブルテレビの統括運営を通じた有線テレビジョン放送事業および、電気通信事業やデジタル衛星放送向け番組供給事業統括などを行っている。	<b>【料理教室】</b> 7/28(月) 参加者12人 参加費500円 場所：交流センター 料理室、203号室 内容：4人×3グループに分け、2種類のピザとスープを作った。 交流センターで採れたじゃがいも、玉ねぎ、トマトを使用した。 講師：米山コーディネーター  <b>【木工教室】</b> 8/3(日)参加者10人、ボランティア7人 参加費800円 場所：交流センター 3階 内容：木材でスライド式本立てを作成した。作成補助として、ボランティアをマンツーマンで配置した。 ※J:COM「いきいきプロジェクト」協働事業(予算補助、広報協力) 7/11(土)収録の『夕なび』に出演し、広報を行った。 講師：中谷コーディネーター	
<b>事業名</b> 体験交流事業 きもだめし大会			
<b>日時/回数</b>	8/21(木)17時~19時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	未就学児~一般	<b>参加者</b>	193人 ボランティア35人(小中学生含む)
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアや利用団体等に、事前準備を通じて、協働で活動する機会を提供する。</li> <li>・ボランティアや利用団体等に、事前準備を通じて、相互の交流の機会を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	・青少年委員、夏期青年ボランティア、センター利用者(大人含む)と協働で、きもだめし大会を実施した。 ・きもだめしテーマ【和】	<b>【事前準備】</b> ・青少年委員が概要を企画した。 ・ボランティア募集(交流センターを利用している小中学生や利用団体に声掛けを行い、ボランティアを募った。)  <b>【準備】</b> ・青少年委員が中心となり、ボランティア(上記で募ったボランティア及び夏期青年ボランティア)と共に、必要物品の調達や、大道具・小道具等の制作を行った。(準備8回：7/21、23、26、29、8/7、14、16、20)  <b>【当日】</b> ・青少年委員およびボランティアが、館内の装飾・運営を担当した。  <b>【振返り】</b> ・イベント終了後に当日のボランティア全員(高校生以上)で、事業を振返った。 ・青少年委員会の振返りは、定例会でも行った。	

事業名		体験交流事業 音作り講習会	
日時/回数	6/28(土)10時~17時30分、10/5(日)10時~17時30分、1/18(日)10時~18時30分/3回	場所	横浜市青少年交流センター
対象	交流センターを利用している中学生から24才まで	参加者	35人(延べ)
事業目的	・楽器等機材の取り扱いや演奏に関する基礎知識を習得する機会を提供することで、青少年活動の充実を図る。 ・音楽を通じて、青少年同士及び青少年と大人が交流する機会を提供する。		
実施内容	<p>・楽器・機材の取り扱いを含む技術講習(ドラムテクニック・ドラムチューニング・ベース・ギター・ボーカル)</p> <p>講師：永松 瑛二 氏、他3~4人(各回毎調整) 【永松瑛二】ドラム担当。青少年の音楽グループ「MUSACI(ムサシ)」メンバーとして第1回音作り講習会の講師を担当。青少年のバンド活動の活性化を目的に、機材の使い方などの知識提供、演奏技術の指導を行っている。</p> <p>【広報・募集】 館内掲示、スタジオ利用者への声掛け、法人HPに掲載、法人施設3か所、市内中学校・高校・大学294か所、青少年活動拠点7か所、計304か所へのチラシ送付等</p> <p>【参加形態】 各講習別申込み、各講習定員5人</p> <p>【事前準備】 講師との事前打合せ(交流センター)</p> <p>【講習毎の参加者数】</p> <p>&lt;第1回&gt;各90分 ①ドラムテクニック編 3人                  ②ドラムチューニング編 4人                  ③ギター編 3人                  ④ベース編 5人</p> <p>&lt;第2回&gt;各90分 ①ドラムテクニック編 4人                  ②ドラムチューニング編 4人                  ③ベース編 3人                  ④ギター編 2人</p> <p>&lt;第3回&gt;各80分 ①ドラムテクニック編 3人                  ②ドラムチューニング編(中止：参加者希望無し)                  ③ベース編 2人                  ④ギター編(中止：参加者希望無し)                  ⑤ボーカル編 3人</p> <p>※参加者の希望により、第3回のみ「ボーカル編」を追加した。                  ※参加希望無しの講習は講師と調整したうえで事前に中止を決定した。</p>		
事業名		体験交流事業 ワイワイおやつタイム	
日時/回数	4/13、5/11、6/8、7/13、9/14、10/12、11/9、12/14、2/8、3/8(全回日曜14時~16時)	場所	横浜市青少年交流センター
対象	小学生	参加者	98人(延べ)
事業目的	・参加者(小学生)同士および青少年ボランティアとの異年齢交流を図る。 ・青少年委員会が企画運営を行うことで青少年のニーズをより一層把握し、参加者が楽しめるよう働きかける。		
実施内容	<p>青少年委員会が企画運営する小学生向けの料理教室。</p> <p>参加費：4月~6月 150円                  7月~3月 200円</p> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年委員定例会にてメニューと担当者の決定</li> <li>・担当者、職員もしくはコーディネーターが試作</li> </ul> <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料の購入</li> <li>・3~4人のグループごとに調理を行う</li> <li>・冷やす、焼くなどの待ち時間がある時や調理が早く終わった時は、4階レクリエーションホールで一緒に遊んだり、折り紙やお絵描きなどで時間調整した。</li> </ul> <p>【終了後】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者と振返り</li> </ul> <p>&lt;各回メニューと参加人数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月：サンドウィッチ(7人)</li> <li>5月：フレンチトースト(10人)</li> <li>6月：クッキー(7人)</li> <li>7月：チョコパフェ(11人)</li> <li>9月：シュークリーム(13人)</li> <li>10月：チョコパイ(12人)</li> <li>11月：チーズケーキ(11人)</li> <li>12月：雪見大福(12人)</li> <li>2月：きなこ・ココアマフィン(7人)</li> <li>3月：アイス手作りパフェ(7人)</li> </ul>		

<b>事業名</b> 体験交流事業 もちつき大会			
<b>日時/回数</b>	1/10(土)10時30分～12時30分	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	未就学児～市民	<b>参加者</b>	131人
<b>事業目的</b>	・餅つきを通して、地域の子どもから大人まで幅広い世代が交流する機会を提供し、地域の「顔の見える関係づくり」を促す。		
<b>実施内容</b>	・餅つきとついた餅の試食を通じて、地域の子どもと大人の交流の場づくりを行った。	<p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年委員が概要を企画した。</li> <li>・きね、うすの整備</li> <li>・もち米等食材の購入</li> </ul> <p><b>【前日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下準備(もち米を水につけるなど)</li> </ul> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もち米、きね、うす等の準備</li> <li>・餅つきの実施</li> <li>・餅つき体験コーナーの設置</li> <li>・餅(試食)の提供</li> <li>・参加者アンケートの実施</li> </ul> <p><b>【事後振返り等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント終了後に当日のボランティア全員で、事業を振返った。</li> </ul>	
<b>事業名</b> 体験交流事業 社会人仲間作り事業 手作り石けん教室			
<b>日時/回数</b>	9/23(火・祝)、11/3(月・祝)いずれも15時～17時	<b>場所</b>	横浜市青少年交流センター
<b>対象</b>	18歳から39歳までの社会人	<b>参加者</b>	11人(延べ)
<b>事業目的</b>	・体験活動を通じて、働く若者の仲間作りのきっかけとなる機会を提供し、相互の交流を通じて、悩みや課題を軽減できるようにする。		
<b>実施内容</b>	<p>・働く青少年の仲間づくりの場として、石けんづくり教室を実施した。</p> <p><b>【講師】</b> 中山 真弓 氏 実子のアトピーをきっかけに、石けんづくりを始め、現在は、薬事法で化粧品としての許可を得て、石けんの販売を行っている。手作り石けん教室も多数開催している。</p>	<p><b>【事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師との打ち合わせ</li> </ul> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付</li> <li>・講師紹介、自己紹介</li> <li>・講義</li> <li>・石けんづくり(1時間20分)</li> </ul> <p>※3～5人程度のグループで共同作業をすることで、参加者同士が言葉を交わす機会をつくった。</p> <p>※教室終了後も各自自宅で行う作業があったので、随時メールで参加者に連絡をした。</p> <p>※呼ばれたい名前での名札の準備、簡単なレクを取り入れた自己紹介の時間、職員からの声掛けなどで、参加者同士が話しやすい雰囲気づくりを行った。</p>	

(※)①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分	事業区分全体評価		次年度 方針 (※)	第2次評価会議における意見	総合評価コメント	
	ランク	得点 (30点満点)				
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設貸与	b	25/30 (83%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した体験プログラムの提供、ランドリー設備の整備などにより利便性・快適性の向上に努め、稼働率を向上させた。</li> <li>ホームページの改良及び事業情報を積極的に配信、体験学習用パンフレット配布など営業活動を強化し、稼働率向上へつなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な営業活動、利用しやすい柔軟な施設提供、設備やプログラム充実等の努力が稼働率向上につながっている。</li> </ul>
	お 調査、資料収集	c	16/30 (53%)			
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	c	16/30 (53%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体の指導者として身につけておくべきスキルの中から、センター利用時に団体活動を安全かつ効果的に進めるために必要なスキル習得に絞り込み研修を実施したため、参加者の満足度は高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の満足度や学習効果は高かったが、定員に対する充足率が低かった。</li> <li>企画内容、研修形態の見直しが必要である。</li> </ul>
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動	b	23/30 (77%)	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験プログラムの市民活動団体との協働実施は、協働団体との調整等に手間と時間を要するケースが多い。しかし、協働により関係性が更に深まり、ネットワークづくりにも効果的である。時間的に余裕をもった執行スケジュールにより事業を実施すること。</li> <li>困難を抱える青少年のための体験活動の支援は、よこはまユースの職員が直接支援することで、支援先の機関・団体が安心して活動できている。</li> <li>施設ボランティアの養成は、ボランティア自身が活動を通して成長すること、センターが実施するプログラムの安全性を高めることができることの2つの効果が期待できる事業である。</li> <li>体験プログラムの提供は、利用促進の面からも団体の研修効果を高める面からも非常に重要な事業である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員会による開催、ボランティアに支えられた事業が多い。</li> <li>市民活動団体との実行委員会による事業展開は、地域のネットワークの中で青少年を見守り育む環境づくりにも効果的である。</li> <li>ボランティア活動に関する相談は、法人内での一元化を検討すること。また、法人以外での活動情報を充実させること。</li> <li>プログラム提供は今後もPDCAサイクルのなかで取組んでいくこと。</li> <li>雨天時対応の室内プログラムの充実と併せて、通常のプログラムとして提供できる室内レクリエーションや共同作業プログラムの開発が望まれる。</li> </ul>
経営・業務姿勢		b	22/30 (73%)		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動団体との関係を更に深め、事業の見直しや新規プログラムの開発にあたった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用団体に、さまざまな体験プログラムを開発・提供するとともに、綿密な事前打合せ会などを通じて利用者の安全の確保に努めたことで、利用団体が東日本大震災以前の利用者数を上回っている。</li> <li>ランドリー設備の整備などによる利便性・快適性の向上に努め、新たな魅力が生まれ、稼働率向上につながっている。</li> <li>ボランティアに関する相談情報提供事業は、3施設・事業課で共有システムを検討し、次年度には実現できるよう取り組むこと。</li> </ul>
総合		c	102/150 (68%)			

評価の目安	評価委員6人が右の目安に沿って各区分を評価した合計点 (30点満点) 【評価委員】 代表理事、常務理事、業務執行理事2人、課長職2人	5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
-------	---	--

総合評価ランク (評価点得点率)	a = 85%以上 b = 70%~84% c = 50%~69% d = 40%~49% e = 39%以下	評価得点率=事業の柱(A~D)の評価点合計÷評価区分数×30点(満点) (%で表示)
---------------------	---	---

A：青少年活動を支援する事業 あ：施設の貸与

<b>事業名</b>		施設・設備貸出事業																																	
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター																																
<b>対象</b>	20人以上の団体(青少年、青少年指導者・育成者、市民)	<b>利用日数</b>	265日																																
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊研修施設として、青少年指導者・育成者の研修活動を支援する。</li> <li>・青少年の体験学習・集団活動を通じた青少年育成を図る。</li> </ul>																																		
<b>実施内容</b>	市内唯一の宿泊型研修施設として、団体の効果的な活動実践の場を提供した。	<p>①施設貸出業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の貸出(宿泊・日帰り)</li> <li>・利用受付・抽選会の実施(抽選会は月1回、夏期抽選会は5月)</li> <li>・事前打合せ会の実施(利用日の約1か月前に実施)</li> <li>・入所式・退所式・代表者会議の実施(利用当日に必ず実施)</li> <li>・プログラム提供・指導(自然体験プログラム、クラフト、調理実習ほか)</li> <li>・備品の貸出・設置(研修用備品、体験プログラム備品ほか)</li> <li>・研修企画の相談・助言(タイムスケジュールやプログラム内容など)</li> <li>・利用者アンケートの実施</li> </ul> <p>②施設維持管理業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設環境の維持・管理(修繕・改善、植栽管理、施設内外の安全確認)</li> <li>・施設点検日の実施(点検日：月1回実施、大点検日：3ヶ月に1回)</li> <li>・日常点検・管理・清掃の実施</li> </ul>																																	
<p>【実績比較】※H23年度は避難所対応のため除く</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用可能日数</th> <th>利用日</th> <th>稼働率</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td>333日</td> <td>265日</td> <td>79.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>333日</td> <td>238日</td> <td>71.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>333日</td> <td>229日</td> <td>68.8%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22年度</td> <td>307日</td> <td>241日</td> <td>78.5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						年度	利用可能日数	利用日	稼働率	備考	26年度	333日	265日	79.6%		25年度	333日	238日	71.5%		24年度	333日	229日	68.8%		22年度	307日	241日	78.5%						
年度	利用可能日数	利用日	稼働率	備考																															
26年度	333日	265日	79.6%																																
25年度	333日	238日	71.5%																																
24年度	333日	229日	68.8%																																
22年度	307日	241日	78.5%																																
<b>事業名</b>		利用促進事業																																	
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター																																
<b>対象</b>	施設利用希望者	<b>利用者</b>	27,516人																																
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進を図る。</li> <li>・利用者の利便性向上を図る。</li> <li>・新規利用団体の獲得。</li> </ul>																																		
<b>実施内容</b>	利用促進を図るため、広報活動やホームページの改善に取り組んだ。また、新規サービスにより利便性の向上を図った。	<p>【ホームページを活用した情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間活動計画の掲載</li> <li>・利用空き状況の随時更新</li> <li>・HPの改善・新設</li> </ul> <p>【季節ごとの利用案内チラシの配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童クラブを中心に7月に夏期利用促進チラシを配布(300か所)</li> </ul> <p>【閑散期に向けた大学や企業等への誘致活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京急沿線、シーサイドライン沿線の大学や企業に広報(未実施)</li> </ul> <p>【27年度小中学校宿泊体験学習の利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内500校に利用案内、プログラム集を配布(10月)</li> <li>・県内の養護学校、市内の幼稚園に体験学習の案内を配布</li> </ul> <p>【食事提供や食材発注などのサービス向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食サービスの調査・検証</li> <li>・利用者用ランドリーの設置(新規)、BBQ用具の貸出(新規)</li> <li>・カレー食材提供サービスの開始(4月～)</li> </ul> <p>【防災対策の強化と発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の被害想定の情報提供と避難訓練プログラムの提供。</li> </ul>																																	
<p>【利用状況年間比較】※H23年度は避難所対応のため除く</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> <th>利用者数(人)</th> <th>宿泊利用(人)</th> <th>日帰り利用(人)</th> <th>利用料金収入(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td>645</td> <td>27,516</td> <td>18,624</td> <td>8,892</td> <td>13,052,650</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>582</td> <td>24,656</td> <td>18,852</td> <td>5,804</td> <td>12,949,450</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>472</td> <td>23,366</td> <td>17,648</td> <td>5,718</td> <td>11,738,420</td> </tr> <tr> <td>22年度</td> <td>562</td> <td>27,434</td> <td>20,065</td> <td>7,369</td> <td>13,885,350</td> </tr> </tbody> </table>						年度	団体数	利用者数(人)	宿泊利用(人)	日帰り利用(人)	利用料金収入(円)	26年度	645	27,516	18,624	8,892	13,052,650	25年度	582	24,656	18,852	5,804	12,949,450	24年度	472	23,366	17,648	5,718	11,738,420	22年度	562	27,434	20,065	7,369	13,885,350
年度	団体数	利用者数(人)	宿泊利用(人)	日帰り利用(人)	利用料金収入(円)																														
26年度	645	27,516	18,624	8,892	13,052,650																														
25年度	582	24,656	18,852	5,804	12,949,450																														
24年度	472	23,366	17,648	5,718	11,738,420																														
22年度	562	27,434	20,065	7,369	13,885,350																														

B：青少年を支える人材を育成する事業 い：講座、セミナー、育成

<b>事業名</b> 青少年指導者育成者研修 水辺の安全講習会			
<b>日時/回数</b>	8/24(日)9時~18時	<b>場所</b>	横浜市青少年研修センター、野島海岸
<b>対象</b>	18歳以上の青少年育成に関わる人、興味のある人	<b>参加者</b>	9人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の興味関心を引き出す力を身に着ける。</li> <li>・自然体験活動におけるリスクマネジメント力を身に着ける。</li> <li>・指導者同士の交流と情報交換の場を提供する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	教員や青少年団体の指導者を対象に実践で活用できるスキルを体験的に学ぶ研修会を実施した。  講師：山田 陽治 氏 (自然観察指導員・自然体験教育研究会 NEES代表)	<b>【事前準備】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシの送付：市内公共施設(260か所)、市内小中高校(550か所)、市内学童保育(208か所)、キッズクラブ(18か所)、等</li> <li>・メールでの告知：YPCネットワーク、県青少年センター 等</li> <li>・事務手続き(保険加入、講師調整、研修準備等)</li> </ul> <b>【当日】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然海岸(干潟)での生き物観察</li> <li>・発見した生き物でミニ水族館作りと発表</li> <li>・身近なもの(ペットボトルなど)を使った救助方法の体験</li> <li>・自然の中に隠された危険予知と安全確認の講義とグループワーク</li> <li>・活動の振り返り</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul> <b>《参加者内訳》</b> 9人・・・大学生1人、教員1人、青少年団体7人	
<b>事業名</b> 青少年指導者育成者研修 レクリエーションゲーム講習会(みんなで作ろうキャンドルファイヤーinのじま)			
<b>日時/回数</b>	2/15(日)10時~17時30分	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	18歳以上の青少年育成に関わる人	<b>参加者</b>	12人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の興味関心を引き出す力を身に付ける。</li> <li>・活動を安全に実施できる力を身に付ける。</li> <li>・指導者同士の交流や情報交換を通して、新たな知識や発見を得る。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	教員や青少年団体の指導者を対象に実践で活用できるスキルを体験的に学ぶ研修会を実施した。  ①レクリエーション講習会  ②事務手続き (保険加入、講師調整、研修準備等)  レクリエーション講習講師：Y S R S	<b>【事前準備】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシの送付：市内公共施設(260か所)、市内小中高校(550か所)、市内学童保育(208か所)、キッズクラブ(18か所)、等</li> <li>・メールでの告知：YPCネットワーク、県青少年センター 等</li> <li>・事務手続き(保険加入、講師調整、研修準備等)</li> </ul> <b>【当日】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集い構成の組み立て方について</li> <li>・グループごとにレクリエーション創作</li> <li>・キャンドルファイヤーにてレクリエーション実践</li> <li>・活動の振り返り</li> <li>・アンケートの実施</li> </ul> <b>《参加者内訳》</b> 12人・・・大学生3人、教員5人、青少年団体4人	

C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う：体験活動

<b>事業名</b> 体験プログラムの市民活動団体との協働実施 オールクリーン野島ビーチ			
<b>日時/回数</b>	①6/15(日)、②9/6(土)、③11/22(土)、④3/21(土) 計4回 毎回13時～15時	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター 野島海岸
<b>対象</b>	青少年～市民	<b>参加者</b>	339人(4回延べ)
<b>事業目的</b>	・身近なボランティア活動を通して、青少年に環境保護への興味関心を育む機会とする。 ・研修センターを拠点に活動する市民団体や自治会等とのネットワークを築き、青少年を育む地域づくりを行う。		
<b>実施内容</b>	横浜に唯一残る自然海浜を守るため、環境保護団体や地元自治会などと協働して年4回ビーチ清掃を行った。  <b>【実行委員会】</b> よこはまユース、海をつくる会、ガールスカウト神奈川県第53団、こどもエコクラブ野島自然観察探見隊  <b>【事前準備・対応】</b> ・開催日の決定、予算執行の決定、活動内容の決定など ・実行委員会開催 第1回5/30 第2回9/6 第3回3/21 ・チラシの作成・広報、参加者管理・受付、保険加入、予算管理 他  <b>【広報】</b> 第1回 野島地域、関係団体等にチラシ配布 第2回 広報よこはま8月号に情報掲載すると共に、市内の公共施設や小中学校、高校、大学へチラシ配布 第3回 金沢中学校区の公共施設と小中学校および関東学院・横浜市大・創学館高校へチラシ配布 第4回 金沢区の中学校、関東学院・横浜市立大学・創学館高校へチラシ配布  <b>【当日】</b> ビーチ清掃・ゴミの分別と集計、生き物観察会 ※回収したゴミの処分は、横浜市環境創造局の協力を得て実施。 第1回 参加者65人 第2回 参加者199人 第3回 参加者52人 第4回 参加者23人		
<b>事業名</b> 体験プログラムの市民活動団体との協働実施 野島カヌー体験教室			
<b>日時/回数</b>	5/10(土)、5/24(土)、6/21(土)、7/13(日) 毎回9時～12時 全4回	<b>場所</b>	横浜市野島研修センター、野島公園水路
<b>対象</b>	小学3年生以上	<b>参加者</b>	73人(延べ)
<b>事業目的</b>	・自然体験活動を通じて、青少年の豊かな心を育む。 ・身近な自然に興味関心を抱く機会とする。		
<b>実施内容</b>	青少年から大人までを対象に、研修センター周辺の自然に親しんでもらうため、市民活動団体と協働してカヌー体験教室を実施した。  <b>【共催】</b> 金沢スポーツクラブ 野島公園事務所  <b>【事前準備】</b> ①講師との打ち合わせ(プログラム工程表の調整) ②参加者の集約、保険への加入 ③活動案内の送付 <b>【プログラム内容】</b> カヌーの基本操作、平潟湾のツーリング ほか 参加費：1回1,000円(傷害保険料含む) <b>【広報活動・受付方法】</b> ①チラシ(1000部)をスポーツ関連を中心とした市内公共施設約60ヶ所に送付。研修センターホームページに募集掲載 ②各回先着受付		
<b>事業名</b> 体験プログラムの市民活動団体との協働実施 環境啓発事業の実施(金沢水の日への参加)			
<b>日時/回数</b>	9/28(日)10時～16時	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター、野島公園
<b>対象</b>	市民	<b>参加者</b>	600人
<b>事業目的</b>	・自然環境への興味、関心を高める。 ・多様な市民団体との交流を図り、関係性を深める。		
<b>実施内容</b>	自然環境保護や自然体験活動を実施する市民団体と共に「水」をテーマとした環境フェスティバルに参加した。  <b>【連携】</b> 横浜市環境創造局 海をつくる会 野島自然観察探見隊 侍従川に親しむ会  <b>【当日】</b> ・会場の提供(ビジターホールほか) ・体験ブースの出展(カヌー体験) 研修センターブース参加者：15人		

事業名	体験プログラムの市民活動団体との協働実施 周辺の自然環境を活かした体験キャンプ		
日時/回数	①5/31(土)~6/1(日)、②6/28(土)~29(日)、③9/27(土)~28(日) 全3回	場所	横浜市野島研修センター
対象	小学3~6年生	参加者	114人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の豊かな心を育み、身近な自然への興味関心を高める。</li> <li>・宿泊体験や集団活動を通じて自立心や協調性、自主性を養う。</li> <li>・市民団体と協働して、施設周辺の環境を活かした特色ある体験活動を提供する。</li> </ul>		
実施内容	カヌー体験を中心とした自然体験キャンプ(1泊2日)を実施した。  <b>【協力】</b> ・金沢スポーツクラブ(カヌークラブ) ・関東学院大学学生支援室	<b>【事前】</b> ・広報→HP、ダイレクト・メール、「広報よこはま」、チラシ(260か所配布) ・応募数→1回目84人、2回目104人、3回目102人(抽選) ・事業ボランティアの事前打合せ会の実施 ・講師との打合せ <b>【当日】</b> ・参加者：1回目39人、2回目36人 3回目39人 ・ボランティア：1回目9人、2回目28人、3回目20人 ・活動内容：カヌー体験、生き物観察、BBQ、ナイトウォーク、クラフト、ネイチャーゲーム <b>【事後対応】</b> ・参加者、保護者アンケートの実施 ・ボランティア振り返り ・事業写真の配布(予定)	
事業名	体験プログラムの市民活動団体との協働実施 のじまチキチキキャンプ		
日時/回数	2/21(土)10時~22(日)15時30分	場所	横浜市野島青少年研修センター、長浜公園
対象	小学1年~中学3年	参加者	27人 ボランティア3人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験活動を通じて子どもたちの自然に対する興味、関心を高める。</li> <li>・集団生活の中で自尊感情、自己肯定感を育む。</li> </ul>		
実施内容	バードウォッチングを中心とした自然観察や環境学習を学ぶ自然体験キャンプを市民活動団体と協働して実施した。  主催：バードウォッチングin野島実行委員会	<b>【事前準備・調整】</b> ・バードウォッチング実行委員会への参加 ・広報、参加者募集(公共施設約50か所、キッズクラブ18か所に送付。広報よこはまに掲載。)  <b>【当日】</b> ・調理体験(鳥を使った世界の家庭料理の体験) ・野島公園内でのフィールドワーク ・キャンドルファイヤー/バードウォッチング(野島公園内、長浜公園にて)	
事業名	困難を抱える青少年のための体験活動の支援 ハートフルスペース宿泊体験		
日時/回数	11/28(木)10時~29(金)11時	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	ハートフルスペースに通室している児童	参加者	118人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハートフルスペースに通室している児童生徒が、体験活動(宿泊)を通じて社会への興味関心を広げる。</li> <li>・多くの人と接することによって、自己を見つめ自信を回復し、児童生徒間のコミュニケーションを図る。</li> <li>・活動を通じて、集団行動やきまりを習得する。</li> </ul>		
実施内容	横浜市内4か所のハートフルスペースに通室する児童生徒を対象とした、日帰りプログラムと1泊2日の宿泊体験プログラム。 共催：横浜市教育委員会	<b>【日帰りプログラム】</b> 21人 ※日帰りプログラムのみ参加 ・餅つき体験、豚汁作り、レクリエーション <b>【宿泊プログラム】</b> 97人 ※日帰り・宿泊プログラム両方参加 ・レクリエーション、食事作り、マジック教室、キャンドルファイヤー、クラフト ほか	
事業名	困難を抱える青少年のための体験活動の支援 第19回野島クリスマスキャンプ2014		
日時/回数	12/6(土)13時30分~7日(日)11時	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒(小5年生以上)	参加者	28組(親子) ボランティア47人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験・集団活動の機会を提供し、児童・生徒の成長を図る。</li> <li>・参加するすべての人の交流を図り、障がい者やその保護者への理解を深める。</li> <li>・ボランティア活動の機会を提供し、青少年ボランティアの育成を図る。</li> </ul>		
実施内容	横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒(小5年生以上)の宿泊体験キャンプを実施した。  共催：野島クリスマスキャンプ実行委員会 後援：横浜市教育委員会、横浜市立小中学校長会、横浜市PTA連絡協議会、(一財)横浜市安全教育振興会 協賛：コカ・コーライーストジャパン(株)  ※当事業は、よこはまユースの特定寄附金を財源に実施した。 ・特定寄附金額：52,000円	<b>【実行委員ならびに事務局会の開催】</b> <b>【青年ボランティアの募集・受付、参加者の受付などの事務対応】</b> <b>【当日ボランティア説明会】</b> 11/12(水)、15(土) 会場：育成センター ・障がいについての研修を行った。 <b>【ふれあいの会】</b> 11/24(月) 会場：研修センター ・保護者説明会の実施 ・参加者、保護者と当日ボランティアがレクリエーションや情報交換をし、互いに理解を深めた。 ・保護者の手作りカレーを食べながら保護者同士の交流を深めた。 <b>【本キャンプ】</b> 12/6(土)~7(日) 会場：研修センター ・クリスマスディナー・朝食作り ・キャンドルファイヤー(協力：金沢中学校弦楽部) ・朝の健康体操 ・親子活動(和菓子作り、協力：大黒屋)	

<b>事業名</b> 困難を抱える青少年のための体験活動の支援 職業体験活動の受け入れ、支援機関等の支援			
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター
<b>対象</b>	中学校および支援団体		
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修センターの機能を活かし青少年に社会体験の場を提供する。</li> <li>・支援機関等の活動が円滑に進むよう体験活動を支援する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	施設点検日を活用した個別支援学級等の職業体験を受入れた。 また、若者自立支援団体や多文化共生団体の活動の体験活動や交流活動を積極的に支援した。  <b>【共催】</b> 横浜市向陽学園 <b>【連携】</b> 横浜市青少年相談センター、NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ (Me-net)	<b>【職業体験】</b> 参加者：6人 ・施設点検日を活用した就労体験(西柴中学校個別支援学級) 10/15(水)食器点検、キャンドル台の整備、ハゼ釣り 12/8(月) 落ち葉掃き、側溝の泥かき、焼き芋  <b>【支援機関等の支援】</b> ・関東児童自立支援施設7/3(木)~4(金) 111人 ・ことぶき青少年広場11/2(日) 15人 ・オルタボイスキャンプ 11/8(土)~9(日) 62人 ・横浜市青少年相談センター宿泊体験 1/30(木)~31(金) 26人	
<b>事業名</b> 施設ボランティアの養成 ボランティア研修会、事業ボランティア、体験学習ボランティア			
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター
<b>対象</b>	高校生以上	<b>参加者</b>	121人 登録ボランティア活動人数(延べ)
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアを導入し、提供プログラムや実施事業の充実および安全性を高める。</li> <li>・多世代のボランティアとの触れ合いを通じて、青少年の豊かな人間性を育む。</li> <li>・ボランティアに参加した青年が、豊かな人間性や社会性を育む機会とする。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	施設運営や提供プログラムの充実を図るために、活動を支えるボランティアを養成した。  <b>【協力】</b> 金沢スポーツクラブ、海をつくる会、漁師：早川厚一郎氏、関東学院大学学生支援室  青年ボランティア研修会の講師 宇田川光雄氏 (目白大学人間学部子ども学科児童教育学科)	<b>【青年ボランティア研修会】</b> ①青年ボランティア研修 8/18(月)15時~19時 参加者18人 2/7(土)15時~17時 参加者28人 ※横浜市子ども会連絡協議会と共同開催  ②事業ボランティア活動 ・カヌー体験キャンプ：延べ57人 ・のじま夏祭り2014：7人 ・ハートフルスペース：7人 ・クリスマスキャンプ：47人 ・のじまチキチキキャンプ：3人  ③体験学習支援ボランティア ・カヌー体験：延べ32人 ・磯観察、タッチプール：延べ9人	
<b>事業名</b> 体験プログラムの提供 生き物観察等の自然体験プログラムの提供			
<b>日時/回数</b>	通年	<b>場所</b>	横浜市野島青少年研修センター、野島海岸
<b>対象</b>	利用団体(主に体験学習の児童生徒)	<b>参加者</b>	73団体
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい体験プログラムを提供し、集団活動を通して社会性・協調性を身に付ける。</li> <li>・仲間とふれあう機会、自己発見の機会をつくる。</li> <li>・研修センター独自のプログラムを提供し、利用促進を図る。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	研修センター周辺の自然環境を活用した自然体験プログラムを提供した。	①自然体験プログラムの提供(実施団体、参加者延べ数) ・カヌー体験・・・5団体 537人(雨天中止：3団体) ・イカダ作り体験・・・8団体 511人(雨天中止：1団体) ・干潟観察・・・16団体 1,595人 ・カニの仕掛け作り・・・2団体 128人 ・カニ釣り・・・11団体 733人 ・タッチプール・・・5団体 463人 ・フォトラリー・・・15団体 1,339人 ・星空観察・ナイトウォーク・・・11団体 946人  ②保険手続き、講師調整 保険加入(カヌー・イカダ)、行程表作成(カヌー)、講師調整、材料発注・準備	

事業名		体験プログラムの提供 グループワーク等の室内プログラムの提供	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体	参加者	85団体
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働作業の楽しさや完成する達成感を体感する。</li> <li>・協調性やコミュニケーション力を養い、グループ作りや集団活動の向上を図る。</li> <li>・雨天時など室内活動の充実を図る。</li> </ul>		
実施内容	利用者の研修活動の充実を図るために、室内で実施できる体験プログラムを提供した。	①グループワークプログラム 班単位で課題に取り組み、目標達成のため、話し合いや協力を体験するプログラム ・3団体 434人  ②クラフト(各100円/個) 所要時間30分～1時間程度の工作 ・バードコール・・・3団体 101人 ・のじたま・・・7団体 353人 ・手作りプラネタリウム・・・2団体 111人 ・化石レプリカ・・・6団体 309人  ③室内レクなど ・キャンドルファイヤー・・・64団体 5,559人 ・軽スポーツ(卓球、インディアカ)・・・3団体 113人  講師・ボランティア カヌー：金沢スポーツクラブ、南区スポーツクラブ、関東学院大学カヌー一部 干潟観察：海をつくる会、漁師：早川 厚一郎 氏 タッチプール：生きもの提供 漁師：早川 厚一郎 氏	
事業名		体験プログラムの提供 食育(調理実習)プログラムの提供	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体	食数	4,297食
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団作業を通して社会性・協調性を身につける。</li> <li>・食、調理への好奇心を高める。</li> <li>・独自のプログラム提供を行うことで利用促進に繋げる。</li> </ul>		
実施内容	利用者の調理体験活動の推進を図るため、食材の発注や多様なレシピ、調理プログラムを提供した。  指導 研修センター職員	【事前準備・打合せ 等】 ①アレルギーの有・無の確認 ②実習工程の調整・確認 ③食材の発注、食材の仕分け、調理器具の準備 【プログラム内容】 ①野島カレー(1人400円)・・・31校、15団体 3,282人 ②250カレー(1人250円)・・・3校、10団体 799人 ③おにぎり作り(1人100円)・・・1校 181人 ④餅つき(材料つき1回9,000円)・・・1校、6団体 361人 ⑤海苔作り 12月～4月まで・・・1団体 23人 ⑥その他、調理体験 【アンケートの実施】 ・野島カレー実施団体に調査・・・45団体の20団体回答 【レシピ集】 未実施	
事業名		体験プログラムの提供 新規体験プログラムの開発・検証	
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	利用団体		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター周辺の地域資源を活用した体験プログラムを開発し利用者の体験プログラムの充実を図る。</li> <li>・既存プログラムを検証・改善し、提供するプログラムの効果を高める。</li> </ul>		
実施内容	利用者のニーズに対応した新規体験プログラムを開発し、提供した。 また、既存プログラムの検証・改善を行った。	【新規プログラムの開発】 ・いかだ作り体験 ・ペットボトルを使ったカニのしかけ作り ・ハゼ釣り体験 ・タッチプールと観察ノート ・シュウマイづくりプログラム ・ちりめんモンスター 【既存プログラムの検証・改善】 ・体験プログラム集の改定 ・カヌー体験の受入れ態勢、実施時程表の作成 ・フォトラリーの改定	

事業名	地域連携事業 地域交流事業(地元町内会、子ども会連携)		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	幼児～一般	参加者	265人 ボランティア7人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様々な年代の人が交流する機会をつくる。</li> <li>・地域と研修センターとの関係性を築く。</li> </ul>		
実施内容	<p>研修センターの取組みの理解を深めるために、地域と交流する事業等を実施した。</p>	<p><b>【地域交流事業】</b></p> <p>①8/17 夏祭り(130人) 綿あめ、射的、魚すくい、ヨーヨー、水鉄砲作り など</p> <p>②2月～3月 あそび場(135人) 卓球、テレビゲーム、ドッチビー など ※広報手段(チラシ、ホームページ)</p> <p><b>【参加者募集】</b> 野島町子ども会・野島町内会、乙舩町内会等(チラシ回覧)</p> <p><b>【ボランティア募集】</b> 関東学院大学、交流センター(夏期ボラ)等</p> <p><b>【災害ボランティアネットワークへの参加】</b> ・毎月第1金曜日の定例会へ参加</p> <p><b>【地域行事への参加】</b> 野島町夏祭りの参加(7月)、野島町敬老会(9月)、野島陶芸教室(10月) ※野島町防災訓練は雨天中止</p> <p><b>【地域ネットワーク会議の開催】</b> ・地域交流会の開催 11/21 団体交流会(4団体参加) 3/21 ランチ交流会(3団体参加)</p>	



## 16 事業の公益性と収益事業について

公益法人認定法第 22 条第 1 項の規定に基づき、当法人の平成 26 年度事業報告書を行政庁へ提出するために定められた書式により、事業の公益性及び収益事業について報告する。

### 個別の事業内容について 公益目的事業について

事業番号	事業の内容	当該事業の事業比率	
公 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促す事業	97.2	%

### 〔1〕事業の概要について

<p>A 青少年活動を支援する事業</p> <p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p>この事業は、青少年育成活動を展開する安全で効果的な場を提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等を企画、実施するための指導者・育成者による打ち合わせや準備、実際の活動の場として施設を提供するとともに、学校や普段の生活の中では体験しにくいバンド活動、演劇、表現活動や集団での宿泊体験活動等の青少年の主体的な活動の場として利用できるよう、できる限り施設利用に関する規則等の制限を設けず広く青少年に提供するために、職員が情報提供や運営補助等の支援を行っています。</p> <p>事業には、いくつかの種類がありますが、さまざまな活動の場を提供しており、同一です。事業の特色としては、青少年の指導者・育成者の活動拠点(育成センター)、青少年の主体的な活動拠点(交流センター)、青少年の集団宿泊体験活動拠点(研修センター)の機能を有機的に結びつけ、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象に、活動の場として、施設を安全で効果的に利用していただくために、利用相談や事前打ち合わせ、情報提供を行うとともに、実際の活動中には安全の確保並びに運営補助を職員が行っています。また、施設料は青少年及び青少年の育成を目的としている個人・団体であるすべての人が活動の場として利用しやすい金額に設定しています。</p> <p>なお、法人が実施するさまざまな青少年育成活動実施のため、横浜市が「横浜市青少年施設条例」により設置している施設(横浜市青少年育成センター、横浜市青少年交流センター、横浜市野島青少年研修センター)を指定管理者として管理運営し、貸し出しています。</p> <p>これら施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し広く一般に周知しています。</p> <p>事業の財源は、施設利用料及び横浜市からの指定管理料で構成されています。</p> <p>《事業の内容(施設の開館日数・利用状況)》</p> <p>■育成センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>開館日数：338 日</li> <li><input type="checkbox"/>研修室・スタジオ：利用件数 5,020 件(63,054 人)</li> <li><input type="checkbox"/>スタジオ利用件数：1,497 件</li> <li><input type="checkbox"/>印刷室利用件数：550 件</li> <li><input type="checkbox"/>物品貸出利用件数：36 件</li> <li><input type="checkbox"/>施設利用促進事業</li> </ul>
---

・「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング！」：8/19.20、参加者 874 人

■交流センター

□開館日数：347 日

□利用状況：青少年 83,550 人（1 日平均 241 人）、青少年以外 63,263 人（1 日平均 182 人）、総計 146,813 人（1 日平均 423 人）

■研修センター

□開館日数：359 日

□利用可能日：333 日

□利用日数：265 日

□宿泊：団体 398 件（18,624 人）

□日帰り：団体 247 件（8,892 人）

□合計：団体 645 件（27,516 人）

A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するために相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動希望者の経験や希望を踏まえ、活動の内容紹介（活動実施）、活動の企画・運営に関する相談・助言及びボランティアを必要とする団体や施設に、要件を満たす活動希望者の紹介を行っています。これらの相談業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。

また、情報発信・受付・相談・助言すべての活動を職員により実施し、活動の実施を希望する個人・団体に対し、活動の実施に関する知識・ノウハウ等を提供することで、青少年の実施する活動を実りあるものにするために相談・助言を行っています。

これらの事業内容及び相談窓口に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し、広く一般に周知しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■育成センター

□ホームページ等を使った情報提供

掲示板などを通じて情報を発信。「講座・研修」「助成金」等の情報を提供。

□青少年育成に関する相談：相談件数 114 件（通年）

青少年育成活動などに関する問い合わせや相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次的窓口」として開設。

月 1 回のコーディネーター会議でケース検討、情報を共有。研修会を 1 回実施。

■交流センター

□日常的な相談・助言

・ロビーワークの実施と成果の検証：交流スペース利用青少年 27,075 件（通年）

青少年のニードや課題を引き出すための職員による施設内での日常的な声がけ。

・青少年活動相談：相談者 300 人

□青少年の居場所・地域活動拠点連絡会の運営：全 3 回、参加者延べ 120 人

### A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するため、横浜市内で実施されている活動を継続及び充実していくため職員が活動現場に出向き、活動を企画・実施する指導者・育成者に相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、活動内容はすべて活動参加型で同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動組織の構成や規模、活動内容や希望に従い、必要とされる要件を満たすために、事務局業務の補助や活動プログラムの企画への相談・助言、ボランティア（人材）の紹介、人材育成や啓発のための講師の派遣、他の活動団体や機関等のコーディネート等多様な支援を行っています。

これらの業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。相談・助言業務は、青少年活動に精通した職員が実施し、活動の継続及び充実のための相談・助言を行うほか情報収集や情報共有を図るためのネットワークの構築やその実施内容を資料にまとめホームページに概要を掲載し、希望者に無料で配布しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

#### 《事業内容》

##### ■事業課

- 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座：51件

地域や学校、青少年育成に携わる市民・団体等が自ら企画・実施する「子ども・若者」をテーマとする講演会や研修会に無料で講師を派遣。

- 青少年の居場所の活動支援（鶴見・神奈川・磯子区 3拠点の支援）

法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し、活動を推進。利用者合計 30,772人

- 地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング）：相談等対応 27件

- ユースサポーター事業：9～3月 3/25

地域活動を担う次世代の若手リーダーを育成し独自の認定制度を構築する。

##### ■放課後事業課

- はまっ子・キッズ交流事業《全2事業》

・知りたい！聞きたい！キッズクラブのエトセトラ：6/13、参加者 18人、

・知りたい！聞きたい！キッズクラブのエトセトラ スタッフのお仕事編：7/4、参加者 7人

##### ■育成センター

- 青少年育成に関する団体とのネットワーク形成（よこはまユースゼミ）：全4回

### A - IV 青少年育成に活用できる活動資源（NPOや企業CSR等の活動）の調査

この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動のリソースを調査し、青少年の育成活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われているNPOや企業のCSR活動等青少年育成活動や学校の体験学習が連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域拡大や活動機会を充実するため、職員が市内の活動を調査し資料を作成しています。

事業の特色としては、年度ごとに社会体験、文化活動、福祉活動、環境保全、国際交流等多様な活動領域の中から調査領域を今年度は福祉活動に定め、主に横浜市内に活動拠点を置くNPOや企業等の活動を調査し、その結果をホームページに掲載しています。また、体験活動の領域だけではなく体験活動に参加し難い課題のある青少年を対象とした体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、対象となる青少年の枠を拡大しました。成果がまとまり次第、モデルプログラムや

報告書として無料で配布するとともに、ホームページで周知します。なお、提供した情報に関する相談は、青少年及び青少年育成を目的としているすべての個人・団体を対象とし、問い合わせには職員が対応しています。調査・研究業務は職員が主体となって行いますが、専門分野における団体の活動状況や内容等に関しては必要な専門団体等と一緒に going います。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■事業課

□活動資源の調査：登録数 374 件

社会・自然資源を調査・発掘し、ホームページの横浜ユースマップで情報提供

□研究・活動報告事例集「YOKOHAMA EYE'S 2014」発行

■研修センター

□体験プログラムの調査研究

B 青少年を支える人材を育成するための事業

B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修

この事業は、青少年を支える人材を育成することで青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を促進し、青少年自らが学び育つ機会を充実するための人材育成を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて同一であり「講座、セミナー、育成」事業に分類されます。事業の特色としては、日々の青少年育成活動の実践を通じて収集した課題や習得した知識や経験等から職員が青少年育成活動に必要なテーマを検討し、年間プログラムを企画の上、ホームページ、チラシ、広報等を通じ広く一般に周知し、すべての人が参加可能な講座・研修を実施しています。講座・研修の参加費は無料、教材費や資料代は実費としており、参加しやすい設定にしています。

研修(講師等)は職員が行いますが、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

□子ども・若者エンパワメントセミナー：12/22、参加者 154 人

■放課後事業課

□放課後 3 事業従事スタッフの人材育成、研修の充実：全 4 回、参加者延べ 153 人

□放課後 3 事業ボランティア研修：7/26～8/30、参加者 19 人

■育成センター

□青少年人材養成研修《2 講座》

・「青少年の居場所づくり講座」：9～10 月 (全 5 回)、参加者延べ 109 人

・「青少年の居場所づくり講座フォローアップ研修」：6/5、参加者 6 人

□ユースコーディネーター養成研修《2 講座》

・「ユースコーディネーター養成研修」：12～1 月 (全 5 回)、参加者延べ 122 人

・「ユースコーディネーター養成研修フォローアップ講座」：6/26、参加者 13 人

□スキルアップ講座《6 講座》

・「ボランティア・マネジメント講座」：6/12、参加者 25 人

・「広報・記録のためのデジカメ入門講座」：7/2、参加者 43 人

・「日赤救急法講習会」：8/24. 9/6. 13. 14. 15、参加者延べ 77 人

・「コーチング講座」：10/8. 15、参加者 91 人

- ・「コーチングステップアップ研修」：11/19、参加者 17 人
- ・「子ども・若者の集団を支援する」：3/7、参加者 11 人
- 青少年を支える層を拡大するための講座・研修《2 事業》
- ・「よこはまユース・シンポジウム」：1/31、参加者 69 人
- ・「馬車道カレッジ」：3/2. 15. 25、参加者延べ 30 人

■交流センター

- 夏期青年ボランティア：7/22～8/24、参加者 25 人  
ボランティア活動を通じて青少年の協調性や社会性、自主性を育む。
- 社会教育実習生受け入れ：3 人  
社会教育主事課程を履修している学生に実習の場を提供。
- 青少年の居場所づくり全国フォーラム：2/14～15、参加者延べ 150 人  
青少年の居場所づくりをテーマとした意見交換の機会を提供し人材を育成。
- 青少年委員会の運営：毎月 1 回定例会、青少年委員 10 人  
委員会活動の中で様々な経験を通して青少年の社会参画を図る。

■研修センター

- 青少年指導者・育成者研修《全 2 事業》
- ・水辺の安全講習会：8/24、参加者 9 人
- ・レクリエーション講習会：2/15、参加者 12 人

C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験、宿泊体験等の集団活動体験機会を提供するための体験事業を企画・実施しています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「体験活動」事業に分類されます。事業の特色としては、集団で協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象として職員が企画した体験活動を、ホームページ、事業チラシ、広報等を通じて広く周知し実施しています。実施場所は、横浜市内の公営の青少年施設、野外活動施設等を中心に活用し、参加費は無料、教材費や施設利用料（宿泊費等）は実費としており、青少年が参加しやすい設定にしています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容》

■事業課

- 困難を抱える青少年のための寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営  
毎週月水木曜日の 12 時～20 時、火金曜日の 12 時～21 時、登録数：16 人
- 自然・社会体験プログラムの体験機会の提供
- ・団体や自然・社会資源を活用した体験プログラムの提供：全 6 回、参加者延べ 1,703 人
- ・高校生水源林ボランティア：8/5、参加者 39 人
- ・「はまっ子どもキャンプ 2014」：7/26～27（1泊 2 日）、参加者 59 人
- ・「道志村児童受入れ事業」：10/2～3、参加者 19 人
- ・市立高校と連携した体験活動の実施：全 5 回、延べ 144 人
- 困難を抱える青少年のための集団体験機会の実施
- ・わくわく生活体験キャンプ：2/28～3/1（1泊 2 日）、参加者 9 人

■交流センター

- 青少年支援事業《全 2 事業》

- ・学習マイプラン（学習支援）：毎週火曜日、年間 47 回、参加者延べ 318 人
- ・ジョブカフェ（動物園の仕事編）：8/22、参加者 10 人
- 活動成果交流事業《全 2 事業》
- ・@楽祭：11/16、出演 11 団体
- ・青少年ライブ’ 14 夏・冬：8/24. 12/23、出演 43 組
- 地域交流事業
- ・こどもの日まつり：5/5、参加者 326 人（ボランティア 36 人）
- 体験交流事業《全 7 事業》
- ・青少年の表現活動の場づくり夏休みこども陶芸教室：8/4. 6、参加者 22 人
- ・夏休み事業（料理教室・木工教室）：7/28. 8/3、参加者延べ 22 人
- ・きもだめし大会：8/21、参加者 193 人
- ・音作り講習会：6/28. 10/5. 1/18、参加者延べ 35 人
- ・ワイワイおやつタイム：4/13. 5/11. 6/8. 7/13. 9/14. 10/12. 11/9. 12/14. 2/8. 3/8、参加者延べ 98 人
- ・もちつき大会：1/10、参加者 131 人
- ・社会人仲間作り事業 手作り石けん教室：9/23. 11/3、参加者延べ 11 人

#### ■研修センター

- 体験プログラムの市民活動団体との協働事業《全 5 事業》
- ・オールクリーン野島ビーチ：6/15. 9/6. 11/22. 3/21、参加者延べ 339 人
- ・野島カヌー体験教室：5/10. 5/24. 6/21. 7/13、参加者延べ 73 人
- ・環境啓発事業（金沢水の日）：9/28、参加者 600 人
- ・周辺の自然環境を活かした体験キャンプ：5/31-6/1. 6/28-29. 9/27-28、参加者 114 人
- ・のじまチキチキキャンプ：2/21～22（1泊2日）、参加者 27 人
- 困難を抱える青少年のための体験活動の支援《全 3 事業》
- ・ハートフルスペース宿泊体験：11/28～29（1泊2日）、参加者 118 人
- ・野島クリスマスキャンプ：12/6～7（1泊2日）、参加者 28 組、ボランティア 47 人
- ・職業体験活動の受け入れ・支援機関等の支援：受入 2 回、6 人・支援数 4 回
- 施設ボランティアの養成：通年、登録ボランティア活動人数 121 人
- 体験プログラムの提供《全 4 事業》
- ・生き物観察等の自然体験プログラムの提供（いかだ作り他）：通年、66 団体
- ・グループワーク等の室内プログラムの提供（クラフト他）：通年、85 団体
- ・食育（調理実習）プログラムの提供（野島カリー他）：通年、4, 297 食
- ・新規体験プログラムの開発・検証（いかだ作り他）：通年
- 地域連携事業：災害ボランティアネットワーク等への参加 他

#### C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】

この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。現在、放課後児童育成活動として、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つ機会を提供するため、小学校に在籍するすべての児童を対象とした体験活動を日常的に行っています。

事業の特色としては、横浜市の放課後児童育成施策に基づき設置された、有識者等により構成される「子どもたちの放課後懇話会」の指針に沿って、学校では得られない体験機会の設定、プログラム内容の継続性、子どもたちの成長や発達に応じたプログラム、異年齢児の交流やリーダー養成への取り組み、子どもたちの「食べる力」の育み、土曜日に親子で過ごす機会の提供、大勢のボランティアの協力、市民や企業の協力を大切に、という 8 つの視点を持った体験活動を職員が企画・実施しています。実施場所は、主に学校施設を活用していますが、地域の子どもは地域で育てるという意識を啓発し、大人も子ども

もも一緒に育つ環境を醸成することを目的として近隣の公園や図書館や地区センター等の公営施設を使用し、地域の人たちとともに日祝日を除く毎日活動を行っています。

活動の内容や案内などの資料を職員が毎月作成し、地域にも無料で配布しているほか、対象となる児童すべてに無料配布し広く周知しています。

活動への参加は無料、教材費や交通費等は実費としており、参加しやすい設定にしています。ただし、午後5時以降の夜間利用に関しては横浜市放課後キッズクラブ事業実施要綱に定められた夜間利用料の負担があります。

当事業の財源は、夜間利用料及び横浜市からの補助金で構成されています。

#### 《事業の内容》

##### ■放課後事業課

□18か所の放課後キッズクラブ運営：各キッズ月平均約1,231人、総計265,885人が利用。在籍児童の52.4%（18か所の平均値）が登録

実施プログラム数：毎月各キッズ平均19.1回、年間総計4,174回（参加者延べ88,689人）

□会議・スタッフ研修等

- ・評議会：キッズ毎に年2回開催
- ・保護者会：キッズ毎に年2回以上開催
- ・主任会議、指導員会議、スタッフ研修を実施

□平成27年3月開設5か所 {南小学校放課後キッズクラブ（南区）、永田小学校放課後キッズクラブ（南区）、上矢部小学校放課後キッズクラブ（戸塚区）、飯島小学校放課後キッズクラブ（栄区）、瀬谷さくら小学校放課後キッズクラブ（瀬谷区）}、4月開設1か所 {十日市場小学校放課後キッズクラブ（緑区）} に応募し、運営法人として選定されました。

#### 《各キッズクラブ概要》

##### ■すすき野小学校キッズクラブ（青葉区）

□在籍人数：259人

□登録人数：113人

□延べ参加児童数：6,250人

□プログラム実施数：295回

□プログラム参加人数：4,384人

□主なプログラム：グランドゴルフ／ドッジボール／トススペース／キッズ菜園／キッズシアター／ハンドベル／工作／囲碁将棋／探検ゲーム／手芸／料理／はたおりクラブ／お花見ランチ／オンリーワン など

##### ■笹野台小学校キッズクラブ（旭区）

□在籍人数：613人

□登録人数：321人

□延べ参加児童数：15,455人

□プログラム実施数：353回

□プログラム参加人数：6,343人

□主なプログラム：スポーツチャンバラ／ドッジボール／みかん狩り／あみもの教室／アイロンビーズ／ミサンガ／ソフトテニス教室／フラワーアレンジメント／リバプールFCのサッカー教室 など

##### ■岡村小学校キッズクラブ（磯子区）

□在籍人数：354人

□登録人数：200人

□延べ参加児童数：11,643人

□プログラム実施数：224回

□プログラム参加人数：3,818人

□主なプログラム：フラダンス同好会／ドッジボール同好会／地域探検／横浜マイスター親

子でウイナーづくり／親子木工教室／紙飛行機／グランドゴルフ／シャボン玉／手芸／  
工作／誕生会／料理 など

■浦島小学校キッズクラブ（神奈川区）

- 在籍人数：411人
- 登録人数：226人
- 延べ参加児童数：14,948人
- プログラム実施数：258回
- プログラム参加人数：4,370人
- 主なプログラム：ドッジボール／将棋／3B体操／スポーツ教室／ボードゲーム／カブラ／料理／映画上映会／手芸／工作／お話し会／プラレール／ハロウィン など

■能見台小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：508人
- 登録人数：286人
- 延べ参加児童数：14,949人
- プログラム実施数：284回
- プログラム参加人数：4,591人
- 主なプログラム：サッカー教室／3B体操／チャレンジデー／オセロ大会／ミニツリーづくり／親子キッズキッチン／海苔づくり体験／親子アロマ教室／中央公園で遊ぼう／DVD鑑賞会／フラワーアレンジメント など

■瀬ヶ崎小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：456人
- 登録人数：261人
- 延べ参加児童数：11,844人
- プログラム実施数：156回
- プログラム参加人数：2,322人
- 主なプログラム：ドッジボール／瀬ヶ崎探検隊／紙芝居／囲碁クラブ／3B体操／おいしい研究室／紙パック工作／シカケ屋／フラワーアレンジメント／海苔づくり体験／-3度作戦 など

■港南台第三小学校キッズクラブ（港南区）

- 在籍人数：290人
- 登録人数：171人
- 延べ参加児童数：11,128人
- プログラム実施数：232回
- プログラム参加人数：4,671人
- 主なプログラム：キッズクラブ探検隊／プラバン／もちつき大会／クワガタ研究会／工作／囲碁・将棋／親子木工教室／おりがみ教室／七夕ランチ／アイロンビーズ／ミニシアター／お楽しみ映画会 など

■日吉南小学校キッズクラブ（港北区）

- 在籍人数：827人
- 登録人数：364人
- 延べ参加児童数：17,525人
- プログラム実施数：208回
- プログラム参加人数：4,995人
- 主なプログラム：キッズバスケ／長縄跳び／アイロンビーズ／ドッジボール／クリスマスイベント／読み聞かせ／ビデオデー／キッズ工房／シャボン玉／科学実験／お手玉で遊ぼう／横浜FCと遊ぼう など

■桜井小学校キッズクラブ（栄区）

- 在籍人数：328人

- 登録人数：225人
- 延べ参加児童数：12,958人
- プログラム実施数：173回
- プログラム参加人数：3,474人
- 主なプログラム：ドッジボールクラブ／パネルシアター／サッカー教室／バドミントン／トーンチャイム／囲碁・将棋教室／茶道教室／野島キャンプ／プラバン／海苔づくり体験など

■南瀬谷小学校キッズクラブ（瀬谷区）

- 在籍人数：854人
- 登録人数：299人
- 延べ参加児童数：15,194人
- プログラム実施数：197回
- プログラム参加人数：7,938人
- 主なプログラム：ジグソーパズルをしよう／バドミントンクラブ／いずみ川探検／カプラ遊び／おはなしボンボン／まんがの日／わくわく縁日／かるた大会／粘土遊び／オセロ／海苔づくり体験 など

■折本小学校キッズクラブ（都筑区）

- 在籍人数：763人
- 登録人数：323人
- 延べ参加児童数：15,209人
- プログラム実施数：206回
- プログラム参加人数：2,981人
- 主なプログラム：ドッジボール／スポーツチャンバラ／アイロンビーズ／将棋の日／ハロウィンウォーク／ヨット乗船会／おはしの達人／あみもの教室／天体観測 など

■寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：672人
- 登録人数：334人
- 延べ参加児童数：16,509人
- プログラム実施数：209回
- プログラム参加人数：4,911人
- 主なプログラム：クライミング体験／ドッジボール／餅つき／フラダンス教室／茶道／切り絵／ヨット乗船会／花火大会／スケート／料理／ミサンガ／キッズ屋台 など

■秋葉小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：655人
- 登録人数：438人
- 延べ参加児童数：21,820人
- プログラム実施数：342回
- プログラム参加人数：7,986人
- 主なプログラム：スポーツチャンバラ／バドミントン／ドッジボール／大縄跳び／花壇づくり／ショップデー／スポーツ鬼ごっこ／編み物／料理／フラダンス／みかん狩り／ヨット乗船会 など

■名瀬小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：539人
- 登録人数：363人
- 延べ参加児童数：17,012人
- プログラム実施数：205回
- プログラム参加人数：6,869人
- 主なプログラム：科学実験／ドッジボール／サッカー／バドミントン／おやつ工房／DVD

鑑賞／キッズ映画館／キッズ工房／囲碁教室／大縄跳び／勾玉づくり／折り紙／かけっこ教室 など

■本町小学校キッズクラブ（中区）

- 在籍人数：667人
- 登録人数：250人
- 延べ参加児童数：14,424人
- プログラム実施数：158回
- プログラム参加人数：2,599人
- 主なプログラム：実験工作／ドッジボール／ボードゲーム道場／かんたん工作／お母さんのお話し会／海苔づくり体験／折り紙教室／きずな夏祭り／ふしぎラボ など

■宮谷小学校キッズクラブ（西区）

- 在籍人数：957人
- 登録人数：421人
- 延べ参加児童数：21,528人
- プログラム実施数：195回
- プログラム参加人数：5,219人
- 主なプログラム：横浜FCと遊ぼう／キッズシアター／ミュージックスクール／スカッドボーイ／水墨画教室／生け花教室／キッズダンス／ズーラシアに行こう／オセロ教室／3B体操／親子料理教室 など

■長津田小学校キッズクラブ（緑区）

- 在籍人数：720人
- 登録人数：354人
- 延べ参加児童数：17,221人
- プログラム実施数：279回
- プログラム参加人数：7,302人
- 主なプログラム：野球教室／ドッジボール／農業クラブ／キッズキッチン／ハロウィン／演奏会／絵本ライブ／紙芝居／おやじの会イベント／工作／いちご狩り／プラバン など

■太田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：276人
- 登録人数：163人
- 延べ参加児童数：10,268人
- プログラム実施数：200回
- プログラム参加人数：3,916人
- 主なプログラム：ボーリング大会／風船バレー／バドミントン／ドッジボール／手芸・工作教室／映画にいこう／アイロンビーズ／おやつ工房／リリアン／プラバン／ボードゲーム など

■飯島小学校キッズクラブ（栄区：新規）

- 在籍人数：674人
- 登録人数：352人
- 延べ参加児童数：845人
- プログラム実施数：19回
- プログラム参加人数：279人
- 主なプログラム：プラバン／折り紙／粘土工作／塗り絵 など

■瀬谷さくら小学校キッズクラブ（瀬谷区：新規）

- 在籍人数：449人
- 登録人数：214人
- 延べ参加児童数：532人
- プログラム実施数：7回

- プログラム参加人数：107人
- 主なプログラム：プラバン／ミサンガ／一輪車／折り紙／コマ回し／ドッジボール など
- 上矢部小学校キッズクラブ（戸塚区：新規）
  - 在籍人数：691人
  - 登録人数：354人
  - 延べ参加児童数：828人
  - プログラム実施数：5回
  - プログラム参加人数：105人
  - 主なプログラム：ドッジボール／アイロンビーズ／折り紙教室／プラバン など
- 南小学校キッズクラブ（南区：新規）
  - 在籍人数：475人
  - 登録人数：181人
  - 延べ参加児童数：366人
  - プログラム実施数：6回
  - プログラム参加人数：99人
  - 主なプログラム：読み聞かせ／魚釣りゲーム／絵合わせゲーム など
- 永田小学校キッズクラブ（南区：新規）
  - 在籍人数：510人
  - 登録人数：233人
  - 延べ参加児童数：690人
  - プログラム実施数：11回
  - プログラム参加人数：179人
  - 主なプログラム：折り紙教室／工作／コマづくり／ビンゴ大会／寄席／読み聞かせ／カラなど

〔2〕事業の公益性について

定款（法人の事業又は目的）上の根拠	第4条第1項第1号、第2号、第3号
事業の種類 （別表の号）	（本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考えられる理由を記載してください）
7	この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会を醸成するとともに、青少年育成活動への相談・助言・コーディネート及び青少年育成活動のための情報収集、青少年や青少年育成活動を支える人材育成のための講座・研修、青少年に体験機会を提供するための事業を実施するものであり、さまざまな体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」であると考えます。
（本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください。）	
チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
<p>（11）施設の貸与 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該施設の貸与が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的での貸与は、公益目的以外の貸与より優先して先行予約を受け付けるなどの優遇をしているか。</p>	<p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p>《1》この事業は、青少年の育成活動を展開する場の提供を行う事業です。青少年育成活動に精通した職員により実施される活動に対する安全の確保、活動の効果をより高めるための情報提供、活動の運営補助等の支援を行うことにより青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することを目的として位置付け、ホームページにおいて施設ごとに専用ページを設置して施設の特徴や利用方法等を広く公開しています。</p> <p>《2》青少年及びその指導者・育成者が実施する青少年育成活動のための施設貸与は、一般の予約よりも優先されており、また利用料も優遇しています。その情報はホームページにより公開しています。</p>
<p>（5）相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。（例：助言者の資格要件を定めて公開している）</p>	<p>A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を目的とした事業で、その内容はパンフレット、ホームページで広く一般に公開しています。</p> <p>《2》この事業はすべての人を対象としており、相談、助言の受付時間、申込方法等はパンフレット及びホームページにより公開され、利用できる機会は一般に開かれています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。ま</p>

	<p>た、職員はユースアドバイザー研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(5) 相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。(例：助言者の資格要件を定めて公開している)</p>	<p>A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を図るため、横浜市内で実施された青少年育成活動を継続及び充実していくための支援を目的としています。実施した内容を取りまとめた資料は希望者に無料配布し、また、ホームページに概要を掲載し公開しています。</p> <p>《2》この事業は横浜市で実施されている活動に参加した人すべてを対象としており、パンフレット、ホームページ、窓口で案内しています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員はユースアドバイザー研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(6) 調査、資料収集 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該調査、資料収集が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の名称や結果を公表していなかったり、内容についての外部からの問合せに答えないというようなことはないか。</p> <p>《3》当該調査、資料収集に専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》当該法人が外部に委託する場合、そのすべてを他者に行わせること(いわゆる丸投げ)はないか。</p>	<p>A - IV 青少年育成に活用できる活動資源(NPOや企業CSR等の活動)の調査</p> <p>《1》青少年育成活動を推進するために、青少年を対象とした体験活動のためのリソースとしてプログラムや人材、活動の場等を調査し、より効果的な活動を企画・実施するために有効な情報及び活動実施内容を提供することを目的とし、報告書及びホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の結果を「横浜ユースマップ」や「活動レポート」としてホームページに掲載しています。また、提供した情報の問合せ先をホームページに掲載し、問い合わせには職員が対応しています。</p> <p>《3》当該事業の企画・構成・運営に関する仕様書は職員が横浜市と協議の上作成し、調査業務は職員と調査業務に必要な専門性のある団体に委託しているため、専門家が適切に関与しています。</p> <p>《4》報告書作成に関する仕様は当法人が作成し、調査結果をもとに分析・とりまとめ</p>

	<p>まで実施しているため、主たる事業は当法人が行っております。</p>
<p>(3) 講座、セミナー、育成 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該講座、セミナー、育成（以下「講座等」）が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為（受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う行為）に当たって、専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。</p>	<p>B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修</p> <p>《1》この事業は、青少年及び青少年育成に関する知識の理解を深めることにより青少年育成活動の普及を促進することを目的に、青少年を取り巻くすべての人を対象に実施しており、ホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》講座ごとに、ホームページ、チラシ、横浜市広報に募集要項を掲載し、すべての人が参加可能であり、参加の機会が開かれています。</p> <p>《3》他の育成活動を実施する中で収集した課題等から、職員が青少年育成に必要なテーマを検討し、年間プログラムを決定しています。また、講師はテーマに応じて、職員及び専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。</p> <p>《4》講師の報酬は1,000円～70,000円の範囲と定められており、過大な報酬は支払っていません。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。 (例:テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)</p> <p>《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業</p> <p>《1》この事業は、青少年に多様な体験機会を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、すべての青少年を対象に実施しており、ホームページ、事業チラシ、広報等で明らかにしています。</p> <p>《2》青少年が体験を通じて、自ら感じ考えることで学び育っていくことができる集団での活動体験を、横浜市内の自然環境や青少年施設、野外活動施設等を活用し実施しています。</p> <p>《3》体験活動の企画・実施は職員が行っており、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼し、実行委員会等を組織し活動を行っています。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを</p>	<p>C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】</p> <p>《1》この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、小学校に在籍するすべての児童を対象に実施しており、活動内容や案</p>

<p>現するためのプログラムになっているか。  (例: テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか)  《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>内資料を毎月作成し、すべての児童及び地域に無料配布し、明らかにしています。学校区に住むすべての人に周知しともに活動してもらうことで、地域の人が子どもを守り育てていくことができる環境の醸成もあわせて行っています。  《2》横浜市の放課後児童育成施策に基づき有識者等により構成する「子どもたちの放課後談話会」からの指針に沿った体験活動を、学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で実施しています。  《3》体験活動の企画・実施は職員が行っています。</p>
--	--

収益事業について

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
収1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促すという公益目的事業を達成するために実施する収益事業	第4条第1項第4号
<b>事業の概要</b>		
<p>1 爆笑！濱っ子寄席（寄附金募集事業）</p> <p>この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供して、その成長を促すための事業として、広く市民に周知し、理解を深めることを目的に落語会を実施しています。具体的には関内ホールにて年1回の落語会を開催し、パンフレット等により青少年育成活動を紹介するとともに、その収益を一般寄附金として青少年育成活動（公益目的事業）の資金として活用しています。更に、横浜市内の企業の社会貢献活動の一環として、パンフレットに協賛広告（有料）を掲載しています。</p> <p>事業の内容については、青少年育成活動に理解のある各種企業の代表者による実行委員会形式により企画・運営並びに協賛企業探し、チケット販売までのすべてを職員とともに実施しています。</p> <p>また、出演者の交渉から演目までを、中心となる落語家の協力により、実行委員会と検討しながら進めています。</p> <p>なお、出演する落語家も青少年育成の趣旨に賛同いただき、チャリティーとして通常より低価格にて出演していただいています。チケット代金及び企業の協賛広告収入は、出演料、会場借上げ料、パンフレットやチケットの印刷代等として支出しています。</p> <p>■第54回爆笑！濱っ子寄席</p> <p><input type="checkbox"/>日時：11/14</p> <p><input type="checkbox"/>会場：関内ホール・大ホール</p> <p><input type="checkbox"/>入場者：875人</p> <p><input type="checkbox"/>出演者：柳家ほたる、古今亭菊之丞、伊藤夢葉、三遊亭歌之介、ナイツ、柳家権太楼</p> <p><input type="checkbox"/>実行委員会：全3回</p>		
<b>本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について</b>		
許認可等の名称	-	
根拠法令	-	
許認可等行政機関	-	
<b>本事業の利益の額が0円以下である場合の理由又は今後の改善方策について</b>		
-		

公益財団法人よこはまユース 事業・組織体系図

